

マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
ご使用前に必ずお読みください。

パソコンの準備

- 電源コードとACアダプタの接続方法
- 電源の入れかた

セットアップガイド

- Windowsのセットアップ
- リカバリ

オンラインマニュアル(本書)

Windowsが起動しているときにパソコンの画面上で見るマニュアルです。

- パソコン本体の機能
- 通信機能
- 周辺機器
- システム環境の変更
- パスワードや指紋認証によるセキュリティ機能
- 困ったときのQ&A集 など

サポートガイド

- 保守サービスについて

リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など
必ずお読みください。

Windowsが起動しているときに [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックするとご覧になれます。

もくじ

マニュアルの使いかた	1
もくじ	2
はじめに	6

1章 セットアップ 13

1 パソコンの準備	14
① 電源コードとACアダプタを接続する	14
② 電源を入れる	15
2 Windowsのセットアップ	16
① セットアップの前に	16
② Windows Vistaのセットアップ	17

2章 電源を入れる／切る 25

1 使い終わったときは	26
① スリープにする	26
② 電源を切る	30
2 電源を入れる	32

3章 本体の機能 37

1 各部の名前	38
2 キーボード	44
① キーボード図	44
② キーを使った便利な機能	46
③ 日本語を入力するには	49
3 タブレットペン	50
① タブレットペンについて	50
4 タブレットモード	53
① タブレットモードとは	53
② ディスプレイを回転する	55
③ パソコンを振ってアプリケーションなどを起動する	56
④ 入力パネルを使う	58

5	タッチパッド	60
①	タッピング	61
②	タッチパッドを無効／有効にするには	61
6	ディスプレイ	62
①	画面の明るさを調整する	62
7	TOSHIBA Edge Display	63
8	ハードディスクドライブ	66
①	ハードディスクドライブについて	66
②	東芝HDD プロテクションについて	67
9	サウンド機能	69
①	スピーカの音量を調整する	69
10	LAN 機能	70
①	ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）	70
②	ケーブルを使わないLAN接続（無線LAN）	71
11	Bluetooth 機能	76

4 章 周辺機器の接続

79

1	周辺機器について	80
2	PC カードを使う	81
3	USB 対応機器を接続する	83
4	外部ディスプレイを接続する	85
5	その他の機器を接続する	92
①	マイクロホン	92
②	ヘッドホン	93
6	メモリを増設する	94
①	スロット A への取り付け／取りはずし	96
②	スロット B への取り付け／取りはずし	100
③	メモリ容量の確認	102

5章 バッテリ駆動 103

1	バッテリーについて	104
①	バッテリー充電量を確認する	105
②	バッテリーを充電する	108
③	バッテリーパックを交換する	110
④	セカンドバッテリーパックを使う	112
2	省電力の設定をする	114

6章 システム環境の変更 115

1	システム環境の変更とは	116
2	東芝HW セットアップを使う	117
3	BIOS セットアップを使う	118
①	起動と終了	118
②	画面と基本操作	120
③	設定項目	121
4	パスワードセキュリティ	131
①	ユーザパスワード	132
②	スーパーバイザパスワード	139
③	パスワードの入力	141
④	HDD パスワード	142
5	指紋認証を使う	147
①	指紋認証とは	147
②	Windows ログオンパスワードを設定する	149
③	指紋を登録する	151
④	指紋認証を行う	160
6	TPM を使う	163

7章 困ったときは 167

1	Q&A 集	168
---	-------------	-----

8章 リカバリをする

193

- 1 リカバリをする前に 194
 - ① リカバリが必要なとき 194
 - ② 準備 194
- 2 リカバリディスクを作る 196
- 3 リカバリをする 200
 - ① いくつかあるリカバリ方法 200
 - ② リカバリをする 200
- 4 アプリケーションを再インストールする 213

9章 こんなときは

215

- 1 日常の取り扱いとお手入れ 216
- 2 アフターケアについて 222
- 3 廃棄・譲渡について 224
 - ① バッテリーパックについて 224
 - ② パソコン本体について 224

付録

231

- 1 本製品の仕様 232
- 2 無線 LAN について 235
- 3 Bluetooth について 241
- 4 各インターフェースの仕様 247
- 5 技術基準適合について 249

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。内容をよく読んでから使用してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っている则便利な内容を示します。
 役立つ操作集	知っている则役に立つ操作を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 … 「 」 他のマニュアルへの参照の場合 … 『 』

*1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

*2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

*3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

- タブレットペン** タブレットペンを示します。
- システム** 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム (OS) を示します。
- アプリケーションまたはアプリケーションソフト**
 アプリケーションソフトウェアを示します。
- Windows Vista** 特に説明がない場合は、Windows Vista™ Business を示します。
- MS-IME** Microsoft® IME を示します。

記載について

- ・ 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。
- ・ インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- ・ アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・ [コントロールパネル] 画面には「コントロールパネルホーム」と「クラシック表示」の2種類があり、本書では、「コントロールパネルホーム」に設定していることを前提に説明しています。「クラシック表示」になっている場合は、[コントロールパネルホーム] をクリックしてください。
- ・ 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Intel、インテル、インテル Core、Centrino は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- ・ Bluetooth は、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- ・ ConfigFree は、株式会社東芝の登録商標です。
- ・ FastEthernet、Ethernet は富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

インテル Centrino Duo モバイル・テクノロジーについて

次の3つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrino モバイル・テクノロジー搭載と呼びます。

- ・インテル Core Duo プロセッサ
- ・インテル 945 Express チップセット ファミリ
- ・インテル PRO/Wireless ネットワーク・コネクション

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ・ACアダプタを接続せずにバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- ・マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用している場合
- ・複雑な造形に使用するソフト (例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- ・気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000メートル (3,280 フィート) 以上をお考えください。
- ・目安として、気温 5 ~ 30℃ (高所の場合 25℃) の範囲を超えるような外気温の状態でご本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記憶機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については『サポートガイド』に記載のお問い合わせ先に連絡してください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守の上、適切な使用を心がけてください。

お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・Windows 標準のシステムツールまたは本書に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェア領域を壊すおそれがあります。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に決められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- ・本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線 LAN の暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
- ・正しくお使いいただいた場合でも、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で、登録・使用ができない場合があります。
- ・指紋認証技術は、データやハードウェアの完璧な保護を保証しておりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。
- ・本製品に内蔵されている画像を、本製品での壁紙以外の用途に使用することを禁じます。

- ・アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、1度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書が表示されなくなります。リカバリを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- ・ご使用の際は必ず本書をはじめとする各説明書をお読みください。

データのバックアップについて

重要な内容は必ず、定期的にバックアップをとって保存してください。

本製品は次のような場合、スリープ機能または休止状態が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

- ・ 誤った使いかたをしたとき
- ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- ・ 長期間使っていないために、バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）の充電量がなくなったとき
- ・ 故障、修理、バッテリー交換のとき
- ・ バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき
- ・ 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

記憶内容の変化／消失、ハードディスクやフロッピーディスクなどに保存した内容の損害については当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

使い終わったとき

パソコンを使い終わったとき、電源を完全に切る方法のほかに、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する方法があります。この機能を、「スリープ」と呼びます。

スリープ機能は、次に電源スイッチを押したときに素早く中断したときの状態を再現することができます。その場合スリープ中でもバッテリーを消耗しますので、ACアダプタを取り付けておくことを推奨します。

なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（増設メモリの取り付け／取りはずしや、バッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

 参照 スリープ／電源を切る「2章 1 使い終わったときは」

【ユーザーアカウント制御】画面について

操作の途中で【ユーザーアカウント制御】画面が表示された場合は、内容を確認し、
[続行] または [許可] ボタンをクリックしてください。

パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

1 章

セットアップ

電源を入れて、パソコンを使えるようにするための Windows のセットアップを行います。

1	パソコンの準備	14
2	Windows のセットアップ	16

1 パソコンの準備

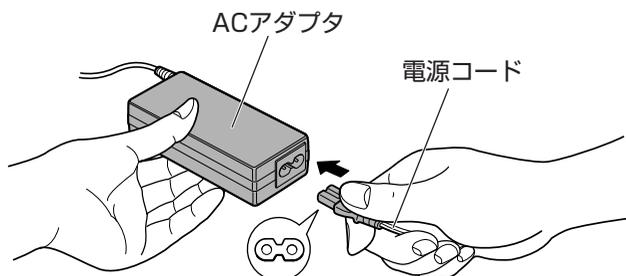
ここでは、電源コードと AC アダプタを接続して電源を入れる方法について説明します。

1) 電源コードと AC アダプタを接続する

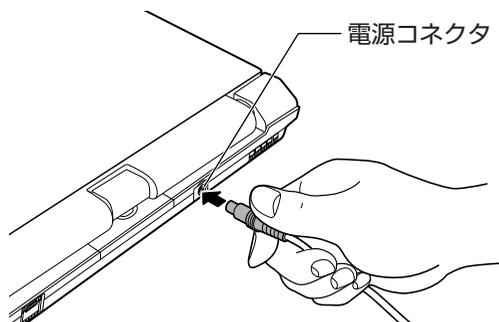
電源コードと AC アダプタの接続は、次の手順で行います。

はずすときは、逆の 3 → 2 → 1 の順で行います。

1 AC アダプタと電源コードを接続する

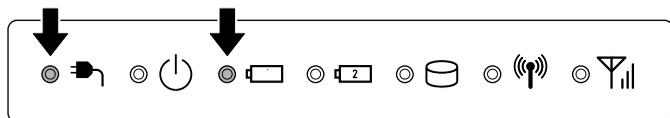


2 AC アダプタのプラグを、パソコン本体の電源コネクタに差し込む



3 電源コードのプラグを、コンセントに差し込む

パソコン本体前面にあるインジケータの、DC IN LED が青色に点灯します。また、Battery LED がオレンジ色に点灯し、バッテリーへの充電が自動的に始まります。



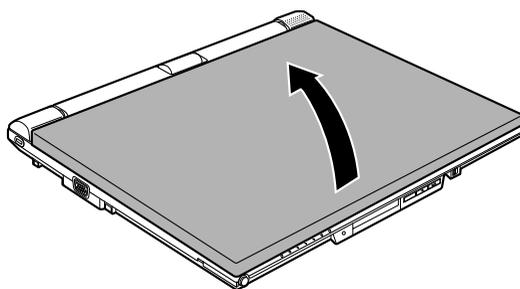
2 電源を入れる

お願い 本体液晶ディスプレイを開けるときは

本体液晶ディスプレイを開きすぎるとヒンジ（下図参照）に力がかかり、破損や故障の原因となります。ヒンジに無理な力が加わらないよう開閉角度に注意してご使用ください。

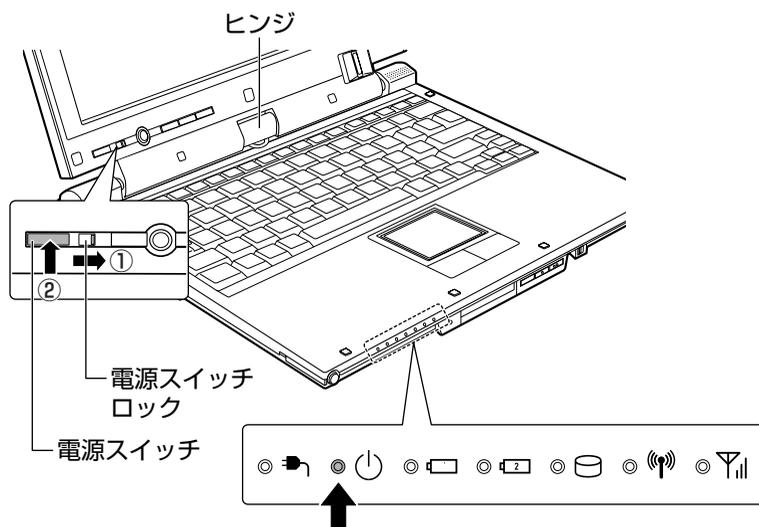
1 ディ스플레이を開ける

片手でパームレスト（キーボードの手前部分）をおさえた状態で、ゆっくり起こしてください。



2 電源スイッチロックを解除し①、電源スイッチを押す②

Power LEDが青色に点灯します。



2 Windows のセットアップ

パソコンを使えるようにするために、Windows のセットアップを行います。

セットアップを始める前に、『安心してお使いいただくために』を必ず読んでください。特に電源コードや AC アダプタの取り扱いについて、よく読んで注意事項を守ってください。

1 セットアップの前に

お願い セットアップをするにあたって

- 周辺機器は接続しないでください
セットアップは AC アダプタと電源コードのみを接続した状態で行ってください。セットアップが完了するまでプリンタ、マウスなどの周辺機器は接続しないでください。
- 途中で電源を切らないでください
セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障や起動ができない原因になり修理が必要となることがあります。
- 操作は時間をあけないでください
セットアップ中にキー操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。30 分以上タッチパッドやキーを操作しなかった場合、画面に表示される内容が見えなくなりますが、故障ではありません。もう 1 度表示するには、(SHIFT)キーを押すか、タッチパッドをさわってください。
- 使用する Windows の管理番号を「Product Key」といいます。
Product Key はパソコン本体にはられているラベルに印刷されています。このラベルは絶対になくさないようにしてください。再発行はできません。紛失した場合、マイクロソフト社からサービスが受けられなくなります。

2) Windows Vista のセットアップ

次の手順に従ってセットアップを行ってください。
初めて電源を入れると、[Windows のセットアップ] 画面が表示されます。

メモ

Windows のセットアップが完了するまで、音量の調節はできません。

1 操作方法

- 1 【国または地域】欄に「日本」と表示されていることを確認し①、
【次へ】をクリックする②



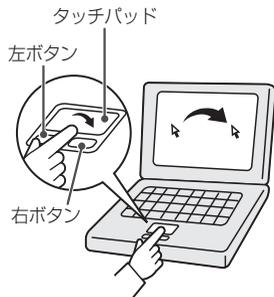
役立つ 操作集

クリックとは？

タッチパッドに指をおいて、上下左右に動かすと、指の動きに合わせてディスプレイ上の「」（ポインタ）が動きます。

目的の位置にポインタを合わせたあと、左ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。

参照 → 詳しい使いかた
「3章 5 タッチパッド」



[ライセンス条項をお読みになってください] 画面が表示されます。

2 ライセンス条項の内容を確認して [ライセンス条項に同意します] をチェックし①、[次へ] ボタンをクリックする②

ライセンス条項に同意しないと、セットアップを続行することはできず、Windows を使用することはできません。



[ユーザー名と画像の選択] 画面が表示されます。

3 ユーザの名前を入力する

Windows Vista では、複数のユーザが 1 台のパソコンを別々に使用することができます。

複数のユーザが使用する場合は、ユーザそれぞれを区別するための名前を登録します。

本手順では、管理者ユーザの名前を入力してください。



[ユーザー名を入力してください] と書いてある下の欄に、管理者ユーザの名前を入力してください。「|」(カーソル)が表示されている位置から文字の入力ができます。

「dynabook」と入力するときは、キーボードでD(⇧)Y(⇧)N(⇧)A(⇧)B(⇧)O(⇧)O(⇧)K(⇧)と押します。

文字の入力を間違えたら、(⇧)BACKSPACE(⇧)キーを押して入力ミスした文字を削除します。

メモ

キーを押しても表示されないときは

キーを押しても文字が表示されない場合は、入力欄に「|」が点滅しながら表示されていることを確認してください。表示されていないときは、[ユーザー名を入力してください] 欄をクリックしてください。

4 パスワードを入力する

[パスワードを入力してください] と書いてある下の欄に、Windows ログオンパスワードとして設定したい文字を入力してください。

Windows ログオンパスワードは半角英数字で127文字まで設定できますが、8文字以上で設定することを推奨します。英字の場合、大文字と小文字は区別されます。

Windows ログオンパスワードを入力しないでそのまま次の画面へ進むこともできますが、セキュリティ上、設定することを強くお奨めします。



入力した文字は「●●●●●」で表示されるため、画面を見て確認することはできません。入力し間違えても画面ではわからないので、気をつけて入力してください。

5 パスワードをもう1度入力する



手順4でパスワードを入力すると、すぐ下に「パスワードをもう一度入力してください」という入力欄が表示されます。同じパスワードをもう1度入力してください。

このとき、「パスワードのヒントを入力してください」と書いてある下の欄に、パスワードのヒントを入力できます。ここで入力した内容はパスワードを入力するときに表示されるので、それを見れば自分だけがパスワードを思い出せるようなヒントを入力してください。

パスワードのヒントは、入力を省略することもできます。

その場合は、何も入力しないで次の手順に進んでください。

6 使いたい画像をクリックし①、[次へ] ボタンをクリックする②

複数のユーザでパソコンを使用する場合、どのユーザかを示すために、ユーザ名の他に画像を登録することもできます。画面下部の画像群から、使いたい画像を選択してください。



「コンピュータ名を入力して、デスクトップの背景を選択してください。」画面が表示されます。

7 コンピュータの名前を入力する

他のパソコンと区別するために、コンピュータに名前をつけます。ネットワークに接続する場合は、必ず設定してください。
[コンピュータ名を入力してください] と書いてある下の欄に、半角英数字で任意の文字列を入力してください。このとき、同じネットワークに接続するコンピュータとは別の名前に入してください。



8 背景画像をクリックし①、[次へ] ボタンをクリックする②

パソコンの画面（デスクトップといいますが）の背景を設定します。画面下部の画像群から、使いたい画像をクリックしてください。



[Windows を自動的に保護するよう設定してください] 画面が表示されます。

9 [推奨設定を使用します] をクリックする



[時刻と日付の設定の確認] 画面が表示されます。

10 時刻と日付を確認し①、[次へ] ボタンをクリックする②

[タイムゾーン] では「大阪、札幌、東京」が表示されていることを、[日付] [時刻] では現在の日時が表示されていることを確認してください。合っていないときは、それぞれ正しいものに設定してください。



メモ

本製品に用意されているウイルスチェックソフトの設定をする前に、時刻と日付が合っていることを必ず確認してください。時刻と日付が合っていないと、アプリケーションの設定後から適用される使用期限などが、正しく計測されないことがあります。

[ありがとうございます] 画面が表示されます。

11 [開始] ボタンをクリックする



Windows セットアップが終了すると、コンピュータのパフォーマンスを確認する画面が表示されます。画面下部に [しばらくお待ちください。] と表示されている間は、何も操作しないでお待ちください。

パフォーマンスの確認が終了すると、Windows ログオンパスワードを入力する画面が表示されます。手順4で入力したパスワードを入力し、**(ENTER)** キーを押してください。

Windows が起動し、[ようこそ] 画面が表示されます。

2 章

電源を入れる／切る

ここでは、Windows のセットアップ終了後に電源を入れる方法と、電源を切る方法について説明します。また、パソコンの使用を一時的に中断させたいときの操作方法についても説明しています。

-
- 1 使い終わったときは 26
 - 2 電源を入れる 32

1 使い終わったときは

パソコンを使い終わったとき、電源を完全に切る方法のほかに、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する方法があります。この機能を、「スリープ」と呼びます。

スリープ機能は、次に電源スイッチを押したときに素早く中断したときの状態を再現することができます。その場合スリープ中でもバッテリーを消耗しますので、ACアダプタを取り付けておくことを推奨します。

なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（増設メモリの取り付け／取りはずしや、バッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

1) スリープにする

パソコンの使用を中断する場合は、パソコンを「スリープ」にしましょう。スリープには、通常のスリープの他に「ハイブリッドスリープ」という機能もあります。作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。ハイブリッドスリープを有効にすると、データが保持されます。

 参照 ハイブリッドスリープ「本項 2 スリープ機能を強化する」

1 スリープの実行方法

1 [スタート] ボタンをクリックする



2 [電源] ボタンをクリックする



Power  LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

2 スリープ機能を強化する

Windows Vistaには、通常のスリープの他に「ハイブリッドスリープ」という機能が用意されています。

パソコンの使用を中断したとき、それまでの作業をメモリに保存するスリープに対して、ハイブリッドスリープはメモリとハードディスクの両方に保存します。

作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。ハイブリッドスリープを有効にしておくと、ハードディスクから作業内容を復元できます。

ハイブリッドスリープを有効にしている状態でスリープを実行すると、ハイブリッドスリープとして機能します。

またスリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するようにも設定できます。

▶ 参照 休止状態『Windows ヘルプとサポート』

ハイブリッドスリープを有効にするには、次の手順で設定してください。

1 [スタート] ボタン→ [コントロールパネル] をクリックする

2 [バッテリー設定の変更] → 選択している電源プランの [プラン設定の変更] をクリックする

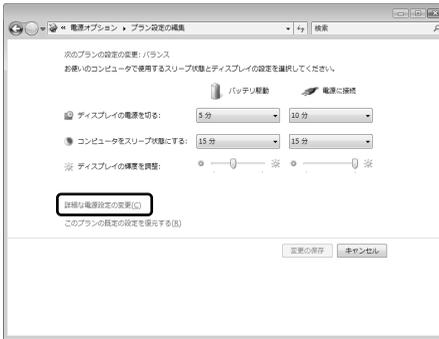
[プラン設定の変更] は、各電源プランの下に表示されています。選択している電源プランの下に表示されている [プラン設定の変更] をクリックしてください。



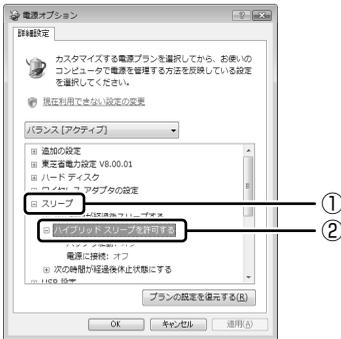
ハイブリッドスリープの設定は、電源プランごとに必要です。

[プラン設定の編集] 画面が表示されます。

3 「詳細な電源設定の変更」をクリックする



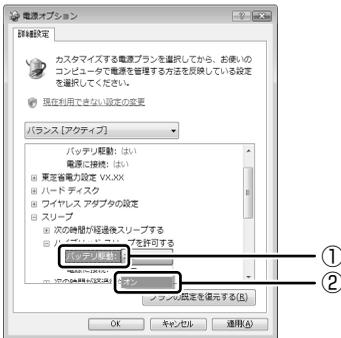
4 「スリープ」をダブルクリックし①、表示される項目から「ハイブリッドスリープを許可する」をダブルクリックする②



5 ハイブリッドスリープを有効にしたい状態をクリックし①、表示された項目から【オン】をクリックする②

それぞれの項目は、次のようになります。

- [バッテリー駆動]：バッテリー駆動時にハイブリッドスリープ機能を有効にしたい場合
- [電源に接続]：電源に接続してるときにハイブリッドスリープ機能を有効にしたい場合



6 [OK] ボタンをクリックする

これでハイブリッドスリープを有効にする設定は完了です。

この状態でスリープを実行すると、ハイブリッドスリープとして機能します。

役立つ 操作集

一定時間の経過後、休止状態にする

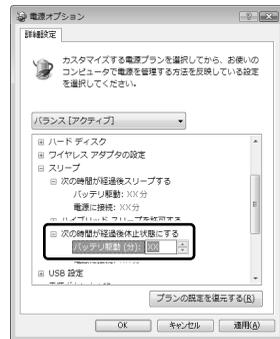
スリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するよう設定できます。

[詳細設定] 画面で [次の時間が経過後休止状態にする] をダブルクリックし、表示された項目を選択して▲▼で時間を設定してください。

スリープを実行してから設定した時間が経過すると、自動的に休止状態に移行します。

参照 → 休止状態

『Windows ヘルプとサポート』



2 電源を切る

数日以上パソコンを使わないときは、スリープではなく電源を切ってください。間違った操作を行うと、故障したり大切なデータを失うおそれがあります。

お願い 電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- Disk LED が点灯中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

電源を切るには、次のように操作してください。

1 [スタート] ボタンをクリックする



2 ▶ ボタンをクリックし①、表示されたメニューから [シャットダウン] をクリックする②



Windows を終了したあと、パソコンの電源が自動的に切れます。パソコン本体の電源が切れると、Power LED が消灯します。

お願い 電源を切ったあとは

- パソコン本体に接続している機器（周辺機器）の電源は、パソコン本体の電源を切ったあとに切ってください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。強く閉じると衝撃でパソコン本体が故障する場合があります。
- パソコン本体や周辺機器の電源は、切ったあとすぐに入れないでください。故障の原因となります。

【再起動】

Windows を終了したあと、すぐにもう 1 度起動することを「再起動」といいます。パソコンの設定を変えたときやパソコンがスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。

再起動するには、次のように操作してください。

- ① [スタート] ボタンをクリックし、表示されたメニューから  をクリックする
- ② 表示されたメニューから [再起動] をクリックする

2 電源を入れる

ここでは、Windows セットアップを終えた後に、電源を入れる方法について説明します。

参照 → 初めて電源を入れるとき「1章 セットアップ」

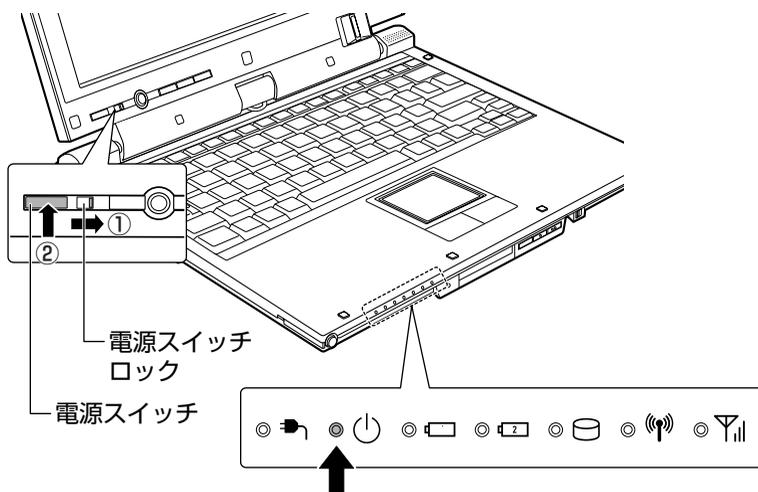
お願い 電源を入れる前に

- 各スロットにメディアなどをセットしている場合は取り出してください。
- プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、パソコン本体より先に周辺機器の電源を入れてください。

1 操作手順

1 電源スイッチロックを解除し①、電源スイッチを押す②

Power LED が青色に点灯します。



Windows が起動します。

2 電源に関する表示

電源の状態は次のシステムインジケータの点灯状態で確認することができます。
電源に関係あるインジケータとそれぞれの意味は次のとおりです。

	状態	パソコン本体の状態
DC IN  LED	青の点灯	ACアダプタを接続している
	オレンジの点滅	異常警告（ACアダプタ、バッテリー、またはパソコン本体の異常）
	消灯	ACアダプタを接続していない
Power  LED	青の点灯	電源 ON
	オレンジの点滅	スリープ中
	消灯	電源 OFF、休止状態

【パスワードを設定している場合】

- パスワードを設定している場合
電源を入れると次のメッセージが表示されます。

Password =

設定したユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力し、**(ENTER)**キーを押してください。

メモ

- 購入時の設定では、パスワードの入力ミス3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
- 「指紋認証ユーティリティ」で指紋を登録すると、パワーオンセキュリティ機能が有効となり、パスワードを設定している場合に表示される「Password=」というメッセージの代わりに、指紋認証を行う画面が表示されます。指紋認証を行うと、パワーオンセキュリティ機能によってパスワードの認証が行われます。

認証を5回失敗するか、または(BACK SPACE)キーを押すと、「Password =」が表示されます。

指紋認証について詳しくは、「6章 5 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

- 「東芝パスワードユーティリティ」の [スーパーバイザパスワード] タブで、[ユーザポリシーの設定] 画面の [ユーザパスワードの登録/変更を強制する] をチェックすると、次のように設定されます。

- ・ ユーザパスワードが登録されていない場合
設定後の1回目の起動時に、「New Password=」と表示されます。
ユーザパスワードの登録を行ってください。
- ・ ユーザパスワードが登録されている場合
設定後の起動時の「Password=」で、登録されているユーザパスワードを入力したときに、「New Password=」と表示されます。
新しいユーザパスワードに変更してください。

「Verify Password=」に「New Password=」で入力したパスワードをもう一度入力すると、ユーザパスワードが登録/変更されます。

スーパーバイザパスワードについて詳しくは、「6章 4-② スーパーバイザパスワード」を参照してください。

 参照 ▶ パスワードについて 「6章 4 パスワードセキュリティ」

- HDD パスワードを設定している場合
電源を入れると次のメッセージが表示されます。

HDD Password =

設定したHDDユーザパスワードを入力し、(ENTER)キーを押してください。
または設定したHDDマスタパスワードを入力し、(ENTER)キーを押してください。

メモ

- 購入時の設定では、パスワードの入力ミスが3回繰り返された場合は、自動的に電源が切れます。
- パスワードとHDD ユーザパスワードの両方を設定してある場合は、パスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、パスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、パスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。

 参照 ▶ パスワードについて「6章4 パスワードセキュリティ」

【メッセージが表示される場合】

不明なメッセージについては、「7章1 Q&A集 メッセージ」をご覧ください。

3 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、標準ハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

【一時的に変更する】

電源を入れたときに表示されるアイコンから、起動するドライブを選択できます。

- 1 (F12)キーを押しながら電源スイッチを押す
アイコンの下に選択カーソルが表示されます。



アイコンは左から、次の順に表示されます。

HDD → ドライブ → FDD → ネットワーク → USB フラッシュメモリ

- 2 (→)または(←)キーで起動したいドライブを選択し、(ENTER)キーを押す

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

【あらかじめ設定しておく】

「東芝 HW セットアップ」の「OS の起動」タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 → 設定の変更「6章2 東芝 HW セットアップを使う」

3章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作など役に立つ機能も紹介。

1	各部の名前	38
2	キーボード	44
3	タブレットペン	50
4	タブレットモード	53
5	タッチパッド	60
6	ディスプレイ	62
7	TOSHIBA Edge Display	63
8	ハードディスクドライブ	66
9	サウンド機能	69
10	LAN機能	70
11	Bluetooth機能	76

1 各部の名前

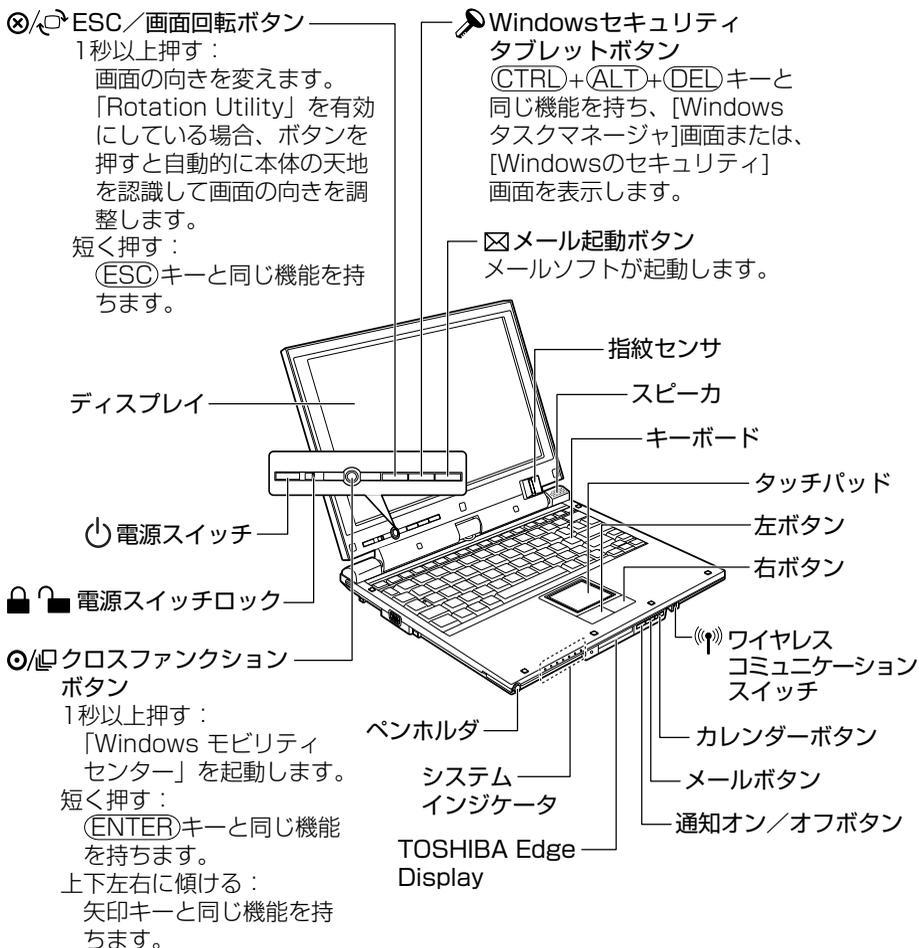
ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。

メモ

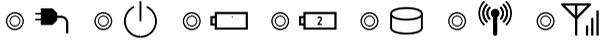
本製品に表示されている、コネクタ、LED、スイッチのマーク（アイコン）、およびキーボード上のマーク（アイコン）は最大構成を想定した設計となっています。

ご購入いただいたモデルによっては、機能のないものがあります。

1 前面図

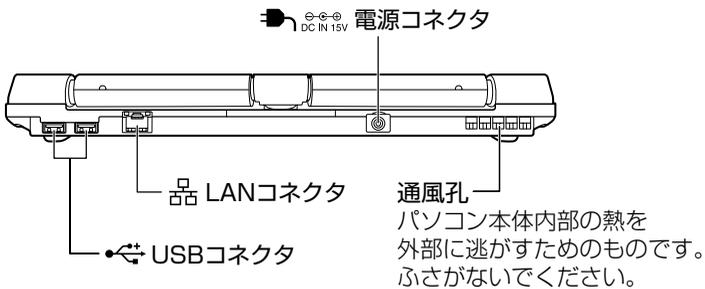


【システムインジケータ】

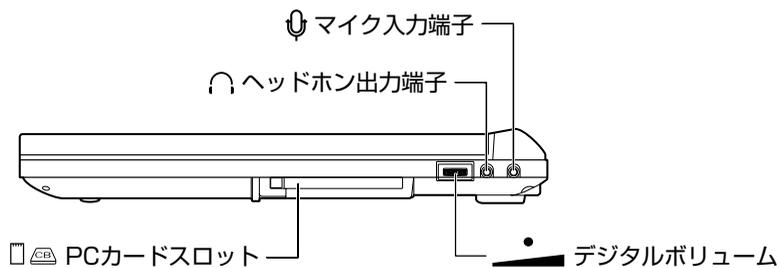


	DC IN LED	電源コードの接続状態
	Power LED	電源の状態
	Battery LED	バッテリーの状態
	Secondary Battery LED	セカンドバッテリーの状態
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている
	ワイヤレス コミュニケーションLED	無線 LAN / Bluetooth 機能の状態
	-	本製品ではサポートしておりません。

2 背面図



3 右側面図



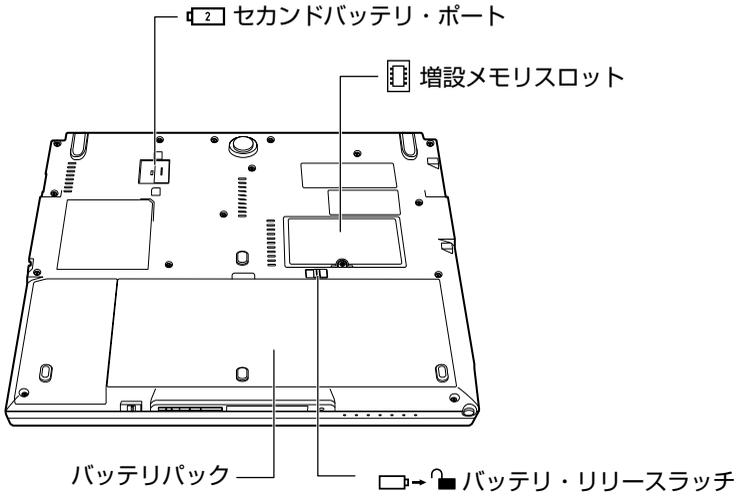
4 左側面図



メモ

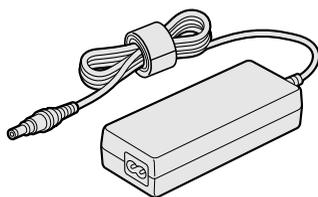
セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかをお買い求めの販売店にご確認ください。

5 裏面図

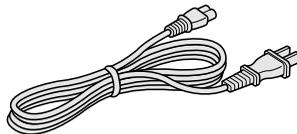


通風孔は、パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。ふさがないでください。

6 付属品



ACアダプタ



電源コード

⚠ 警告

- 必ず、本製品付属の AC アダプタを使用すること
本製品付属以外の AC アダプタを使用すると電圧や (+) (-) の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- パソコン本体に AC アダプタを接続する場合、必ず「1 章 1 パソコンの準備」に記載してある順番を守って接続すること
順番を守らないと、AC アダプタの DC 出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、AC アダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

⚠ 注意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜くこと
電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。

お願い

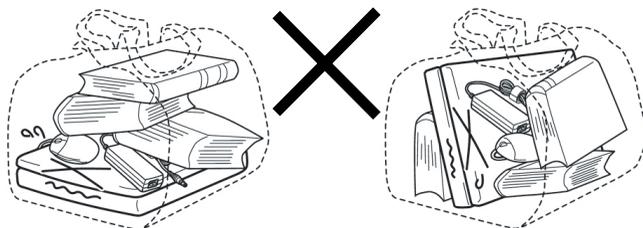
機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

7 パソコンを持ち運ぶときは

パソコンを持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを必ず守ってください。

- 電源を必ず切り、ACアダプタを取りはずしてください。電源を入れた状態、またはスリープ状態で持ち運ばないでください。
電源を切ってACアダプタを取りはずした後に、すべてのLEDが消灯していることを確認してください。
- 電源スイッチロックをロック側にスライドしてください。
- 急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。結露が発生し、故障の原因となる可能性があります。やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- 外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。
- パソコンを持ち運ぶときは、不安定な持ちかたをしないでください。
- パソコンを持ち運ぶときは、突起部分を持って運ばないでください。
- 各スロットに、メディアやカードなどがセットされている場合は取り出してください。セットしたまま持ち歩くと、カードが壁や床とぶつかり、故障するおそれがあります。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- ディスプレイを閉じてください。
- パソコンをカバンなどに入れて持ち運ぶときは、パソコン上面がACアダプタやマウス、携帯電話、または、硬い本などの荷物で局所的に圧迫されるような入れかたをしないでください。

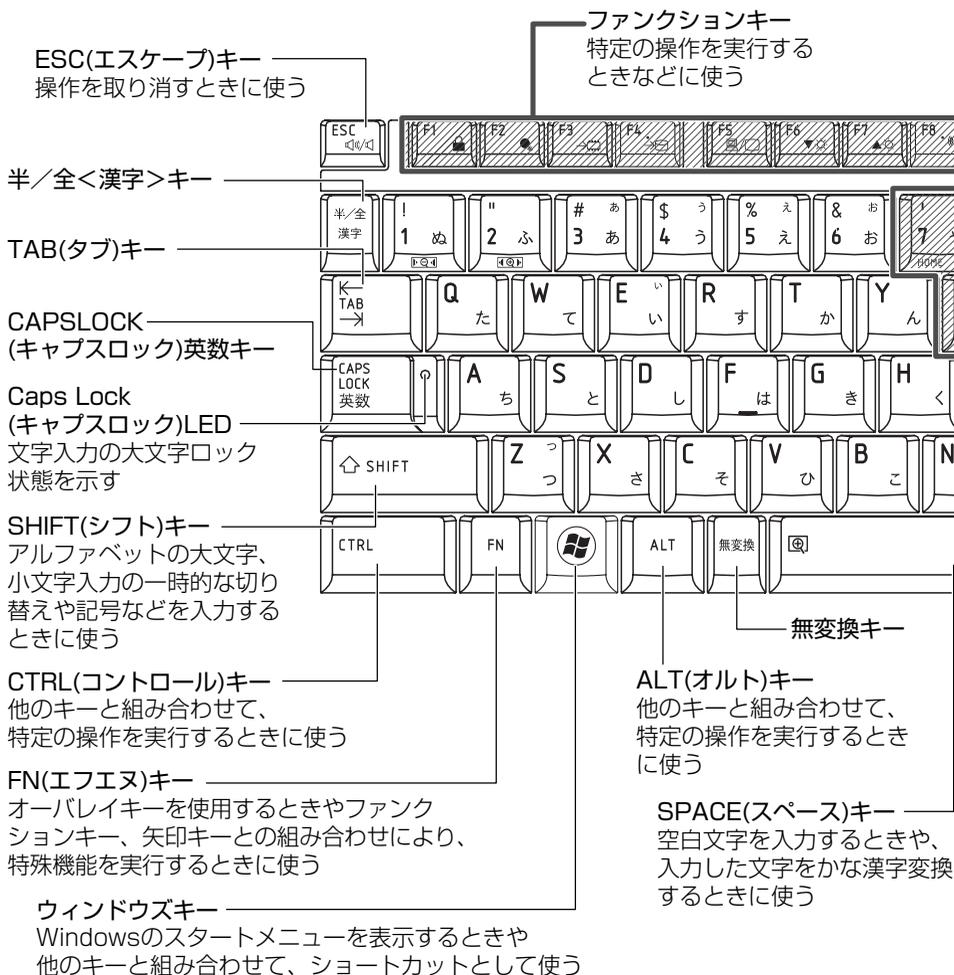
液晶画面の一部にシミ状のムラが発生するなど、破損・故障の原因となり、修理が必要となる場合があります。

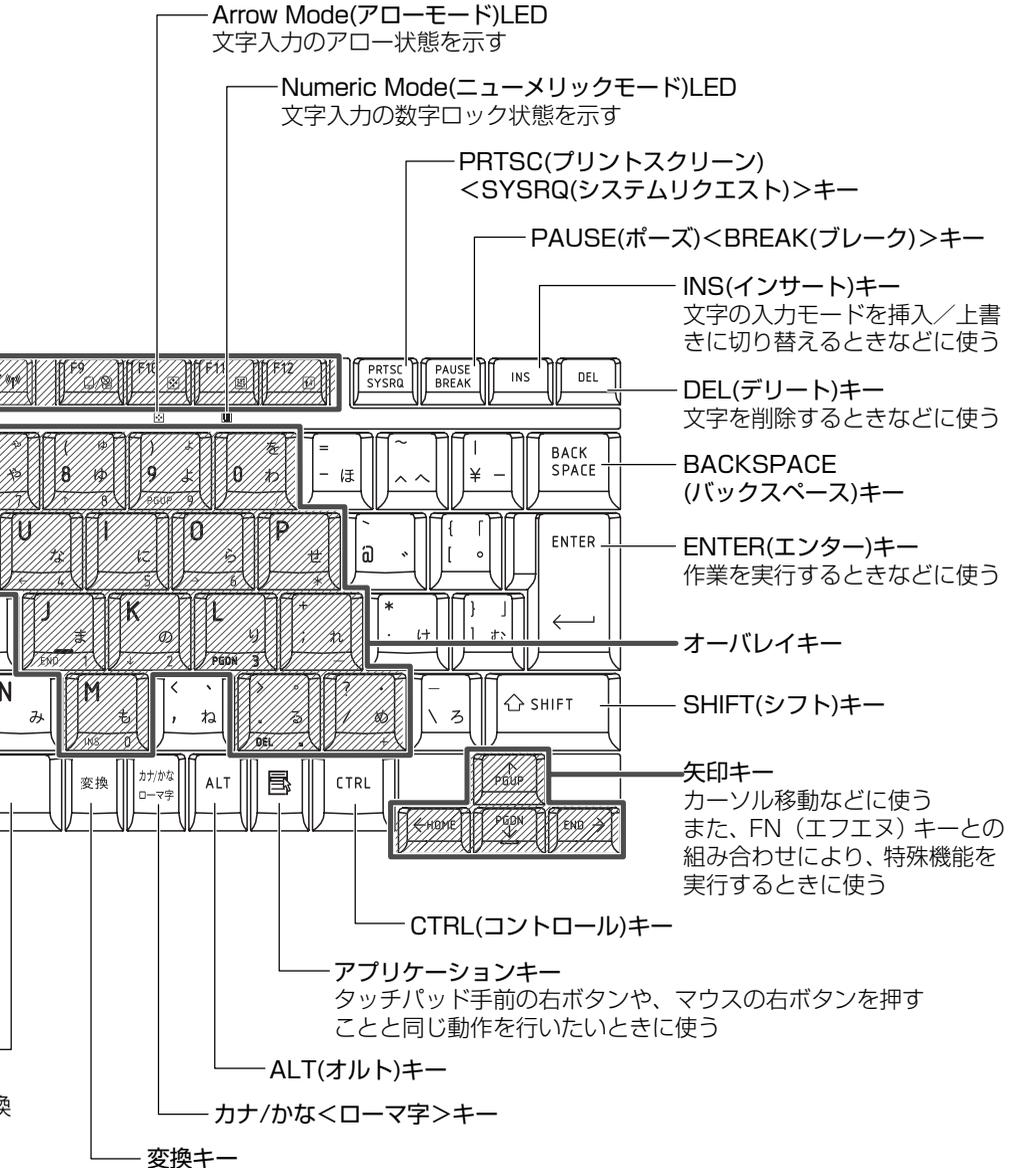


2 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図





2 キーを使った便利な機能

本製品にはさまざまな機能が用意されています。

1 「TOSHIBA Flash Cards」について

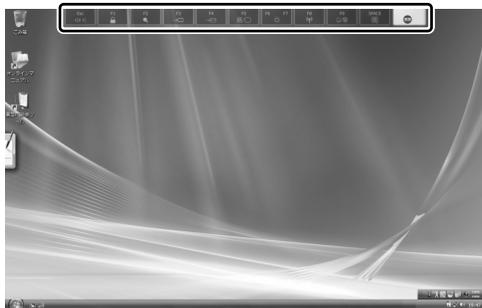
「TOSHIBA Flash Cards」は、マウス操作で簡単にホットキー機能の実行や東芝製のユーティリティを起動することができるユーティリティです。

デスクトップ上にカードのように表示されるアイコンを選択し、それぞれのカードに割り当てられている機能を設定・実行することができます。

操作方法

1 ポインタをデスクトップ画面の上の方へ移動する

次のように「TOSHIBA Flash Cards」が表示されます。



(表示例)

2 設定したい機能のカードをクリックする

カードとアイコンが表示されます。

3 表示されたアイコンのうち、設定したい項目にポインタを合わせる

ポインタを合わせると、アイコンが大きくなります。

4 設定したい項目のアイコンが大きい状態でクリックする

選択した項目に設定されます。

各カードに割り当てられている機能は、「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプを参照してください。

キーボードで操作する

次のキーの組み合わせで、「TOSHIBA Flash Cards」のホットキー機能のカードを表示することができます。

キー	TOSHIBA Flash Cards のカード
(FN) + (ESC)	スピーカのミュート（消音）
(FN) + (SPACE)	本体液晶ディスプレイの解像度切替え
(FN) + (F1)	インスタントセキュリティ機能
(FN) + (F2)	電源プランの設定
(FN) + (F3)	スリープ機能の実行
(FN) + (F4)	休止状態の実行
(FN) + (F5)	表示装置の切替え
(FN) + (F6)	本体液晶ディスプレイの輝度を下げる
(FN) + (F7)	本体液晶ディスプレイの輝度を上げる
(FN) + (F8)	無線 LAN / Bluetooth の切替え
(FN) + (F9)	タッチパッドオン／オフ機能

カードが表示されたら、(FN)キーを押したままファンクションキーを押しなおし、設定したい項目のアイコンが大きい状態で指をはなしてください。選択した設定が実行されます。

「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプの起動方法

- 1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [Flash Cards ヘルプ] をクリックする

「TOSHIBA Smooth View」

「TOSHIBA Smooth View」は、キーボードを使って、最前面に表示されているアプリケーションの画面やデスクトップ上のアイコンを拡大／縮小表示できるアプリケーションです。

初めて使用するときには、[スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール] からインストールしてください。

- 起動方法

- ① [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [Smooth View] をクリックする
以降は自動的に起動し、通知領域にアイコン () が表示されます。

- 使用方法

- ① (FN) キーを押したまま、①キーまたは②キーを押す
画面やアイコンなどを縮小するときは①キー、拡大するときは②キーを押します。

【 特殊機能キー 】

特殊機能	キー	操作
アプリケーションの強制終了など	(CTRL) + (SHIFT) + (ESC)	[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。
画面コピー	(PRTSC)	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	(ALT) + (PRTSC)	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

3 日本語を入力するには

本製品には、日本語を入力するためのアプリケーションソフト、日本語入力システム MS-IME が用意されています。起動したときは、英数字の入力ができるように設定されています。(半/全)キーを押すと、日本語を入力できるようになります。

日本語入力に切り替わると、IME ツールバーは次のように表示されます。



入力モード

ローマ字入力が既定値になっています。

ローマ字入力とかな入力は(ALT)+(カナ/かな)キーを押すと切り替えられます。

この場合、パソコンを再起動するとローマ字入力に戻ります。

常に同じ入力モードで使用する場合は、次の方法で設定します。

- ① ツールバーの [ツール] アイコン () をクリックして表示されたメニューから [プロパティ] をクリックする
- ② [全般] タブで [ローマ字入力/かな入力] の設定をする

漢字変換

入力した文字を漢字変換するには、(SPACE)キーを押します。

目的の漢字ではない場合は、もう1度(SPACE)キーを押すと、候補の一覧が表示されます。

(↑)(↓)キーで選択し、(ENTER)キーを押します。

ヘルプの起動方法

- 1 [ヘルプ] ボタン () をクリックし、表示されたメニューの [言語バーのヘルプ] をクリックする

3 タブレットペン

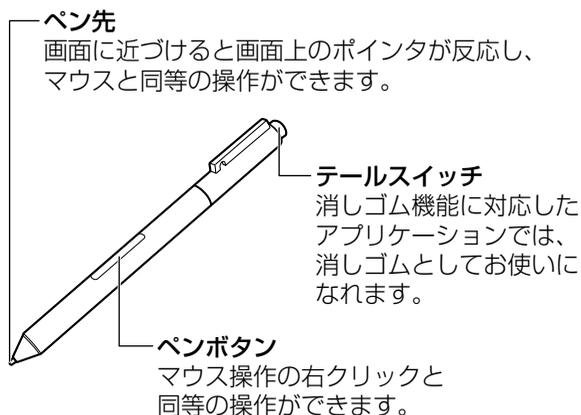
付属のタブレットペンは本体のディスプレイ上で、メニューの選択やデータの入力に使用します。

1) タブレットペンについて

本製品付属の箱に、タブレットペン、替え芯、芯抜きが入っていますので取り出してください。

替え芯、芯抜きはなくさないよう大切に保管してください。

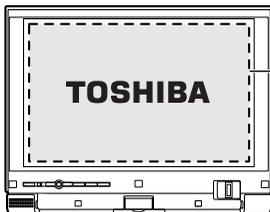
1 タブレットペンの使いかた



クリック	ペン先で画面上のアイコンや項目にタッチします。 「タップ」と同義語です。
ダブルクリック	ペン先で画面上のアイコンや項目にすばやく2回タッチします。
ドラッグアンドドロップ	画面上のアイコンや項目に1回タッチしたまま、ペン先をアイコンやフォルダからはなさずに目的の位置まで移動してからはなします。
右クリック	ペンボタンを押しながらペン先で画面上のアイコンや項目にタッチします。 または、画面上のアイコンや項目をタッチして押し続けます。 輪の形のアイコン () が表示されたら画面からペン先をはなすと、ポップアップメニューが表示されます。
消去	対応しているアプリケーションのみ使用できます。 テールスイッチの先が引っ込む程度に、テールスイッチを画面上の消したい部分に軽く押しつけます。

お願い タブレットペンの使いかたについて

- 本体液晶ディスプレイには、付属のタブレットペンを認識して筆圧を感知するデジタイザが組み込まれています。そのため、本体液晶ディスプレイの端側でペン操作を行う場合は表示部からタブレットペンを飛び出させないように使用してください。ディスプレイ画面の内側から外側にすばやくタブレットペンを操作すると認識されないことがあります。本体液晶ディスプレイの端側ではタブレットペンをゆっくり動かしてください。



点線で囲まれた部分（本体液晶ディスプレイ）がタブレットペンを認識する領域になります。

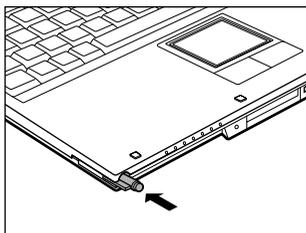
- タブレットペンに筆圧をかけたまま、本体液晶ディスプレイの内側から外側に操作すると、お使いのアプリケーションによっては、筆圧を感知しないことがあります。その場合、本体液晶ディスプレイの内側でタブレットペンを操作してください。

2 タブレットペンの収納と取り出し

タブレットペンはパソコン本体前面左側のペンホルダに収納できます。
タブレットペンは本製品付属の箱に入っているのので、取り出して使用してください。

【 収納 】

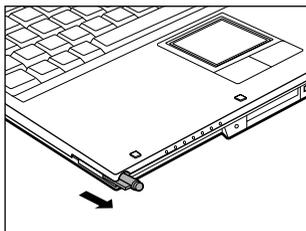
1 タブレットペンをペンホルダに差し込む



カチッというまで差し込んでください。

【 取り出し 】

1 本体左側面にあるペンホルダのみぞからタブレットペンを少し押し出す



2 タブレットペンをつかみ、抜く

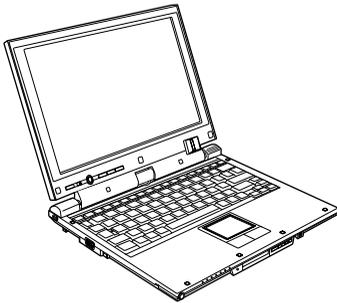
4 タブレットモード

1) タブレットモードとは

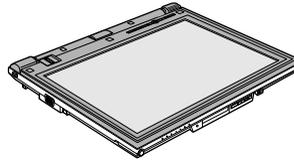
本製品は、通常のノート型パソコンとしてキーボードとタッチパッドで操作する使いかたと、液晶ディスプレイを180°回転させて外側に折りたたみ、付属のタブレットペンで操作する使いかたがあります。

本書では、通常のノート型パソコンの状態を「ラップトップモード」、ディスプレイを回転してたたんだ状態を「タブレットモード」と呼びます。

- ラップトップモード



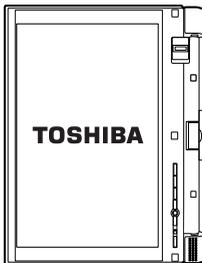
- タブレットモード



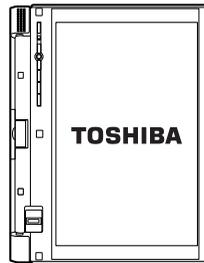
ラップトップモードからタブレットモードにするときに、画面表示の向きも自動的に切り替わるよう設定されています。

デスクトップ画面の向きは、次の4方向のいずれにも変更できます。

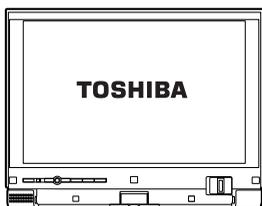
- 縦（プライマリ）



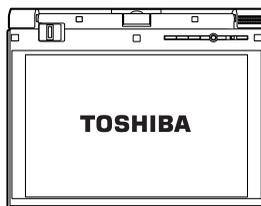
- 縦（セカンダリ）



● 横（プライマリ）



● 横（セカンダリ）



お願い 操作するにあたって

- 次の動作は横（プライマリ）で実行してください。

- ・ 3D を使用したゲーム
- ・ 3D スクリーンセーバ
- ・ 動画の再生

横（プライマリ）以外の状態では、3D を使用したゲームはできません。

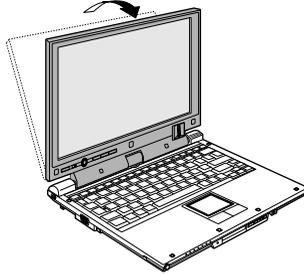
- 次の状態では画面を回転できないため、動作を終了させてから画面を回転させてください。

- ・ 動的に解像度を変えているアプリケーションの実行中（フルスクリーンで実行されるゲームなど）
- ・ コマンドプロンプトをフルスクリーンモードにしている状態
- ・ 3D スクリーンセーバが動作している状態

3D スクリーンセーバが表示されているときに、タブレットモードからラップトップモードに戻すなどの操作を行うと Windows の画面表示の一部に異常が発生します。その場合は、ラップトップモードに戻してから何かキーを押して 3D スクリーンセーバを解除してください。

2) ディ스플레이を回転する

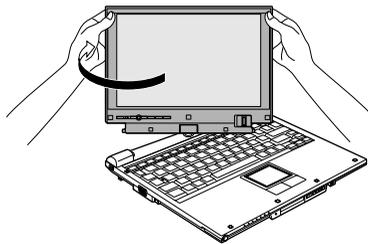
- 1 パソコン本体を机などの安定した平らな場所に置く
- 2 ディ스플레이を垂直に起こす



お願い

ディスプレイを回転するときは、ディスプレイをキーボード面に対して90°（垂直）に立てた状態で行ってください。
前や後ろに傾けた状態でディスプレイを回転すると、パソコン本体が破損するおそれがあります。

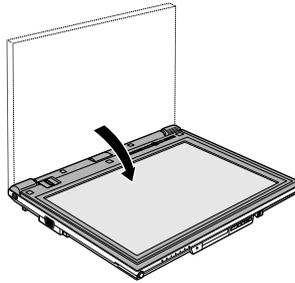
- 3 ディ스플레이の両側をしっかりとつかみ、矢印の方向にゆっくりと180°回転する



お願い

ディスプレイを180°以上、または逆方向に回転することはできません。
180°以上または逆方向に回転しようと無理な力を加えないでください。
ディスプレイが破損するおそれがあります。

4 ディスプレイをキーボードの上にゆっくり倒す



ご購入時の設定では、ディスプレイを回転すると、デスクトップ画面の向きが自動的に縦（プライマリ）になります。

3 パソコンを振ってアプリケーションなどを起動する

「東芝加速度センサユーティリティ」の設定を有効にすると、パソコン本体を10cmほど縦に振り上げたり、右、左に振ることで[スタート]メニューの起動やウィンドウを切り替え、設定したアプリケーションの起動が行えます。

スリープ、休止状態では動作しません。

設定方法については『東芝加速度センサユーティリティのヘルプ』をご覧ください。

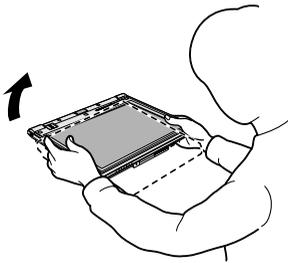
お願い 本体を振るときの注意

- Disk LED が点灯、または点滅中は、パソコンを振らないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- パソコンを強く振らないでください。
パソコンを落としたり、周囲の人や物にぶつかるなどのおそれがあります。
- 混雑している場所（例：電車、ごみなど）でのご使用はお控えください。
けがをしたり、パソコンが故障するおそれがあります。

パソコンの振り上げかた

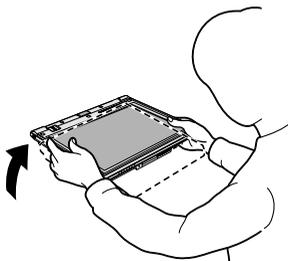
パソコンを落とす可能性があるため、タブレットペンを収納し、パソコンを両手で持ってから振ってください。振りおろしても機能は動作しますが、パソコンを落とす可能性があるため、注意してください。イラストはパソコンを横に持ったときの例です。

【縦方向に振り上げる】



パソコンを水平に持ってから、矢印方向に10cm程度振り上げてください。設定した動作を実行します。

【左右方向に振る】



パソコンを水平に持ってから、片側を10cm程度振り上げてください。設定した動作を実行します。

パソコン左側を持ち上げたときの例です。

メモ

「東芝HDDプロテクション」を有効に設定しているとき、「東芝加速度センサユーティリティ」を利用してアプリケーションなどを起動しようとするとき、「東芝HDDプロテクション」のメッセージが表示される場合があります。メッセージを表示しないようにするには、「東芝HDDプロテクション」を無効に設定してください。



「東芝HDDプロテクション」

「本章8-② 東芝HDDプロテクションについて」

「東芝加速度センサユーティリティ」の設定方法

- 1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [Tablet PC] → [加速度センサユーティリティの設定] をクリックする
[東芝加速度センサユーティリティ 設定コンソール] 画面が表示されます。

ヘルプの起動方法

- 1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [Tablet PC] → [加速度センサユーティリティのヘルプ] をクリックする

4 入力パネルを使う

アプリケーション上で文章（テキスト）を入力したいときに、「^{タブレット}Tablet PC 入力パネル」を使って、タブレットペンでキーボードと同様の操作ができます。

1 Tablet PC 入力パネル

「Tablet PC 入力パネル」は、手書きパッド、文字パッド、スクリーン キーボードの3種類の入力パネルを切り替えて使用します。

手書きパッド、文字パッドはタブレットペンで入力した文字を認識します。

文字を認識すると挿入ボタン（）が表示されるので、クリックしてください。文字がテキストに変換されます。

スクリーン キーボードは、タブレットペンを使って通常のキーボードと同様に入力できます。

- 1 タブレットペンを画面に近づけると表示される [Tablet PC 入力パネル] アイコン（）をクリックする

[Tablet PC 入力パネル] が表示されます。

[手書きパッド] ボタン（）、[文字パッド] ボタン（）、[スクリーン キーボード] ボタン（）をクリックすると入力パネルが切り替わります。

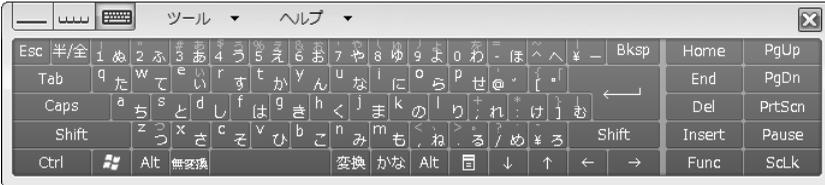
【手書きパッド】



【文字パッド】



【スクリーン キーボード】



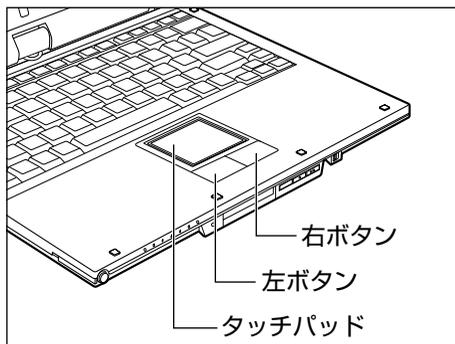
[Func] () をクリックすると、①～⑯キー、()キー、(^)キーの位置に一時的に(F1)～(F12)キーが表示され、他の文字キーが半角英字入力状態になります。

ヘルプの起動方法

- 1 「Tablet PC 入力パネル」のメニューバーで【ヘルプ】→【トピックの検索】をクリックする

5 タッチパッド

電源を入れて Windows を起動すると画面上に  (ポインタ) が表示されます。タッチパッドと左ボタン/右ボタンを使って、ポインタを操作します。



お願い

タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなど先の鋭いものを使ったりしないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

タッチパッドに指を置き、上下左右に動かすと、ポインタが指の方向に合わせて動きます。

1) タッピング

タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。

タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

クリック	タッチパッドを1回軽くたたきます。
ダブルクリック	タッチパッドを2回軽くたたきます。
ドラッグアンドドロップ	タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指をはなさずに目的の位置まで移動し、指をはなします。
スクロール	タッチパッドの右端に指を合わせて上下に動かします（上下スクロール）。 タッチパッドの下端に指を合わせて左右に動かします（左右スクロール）。

タッチパッドや左ボタン／右ボタンは [マウスのプロパティ] で設定を変更できます。

2) タッチパッドを無効／有効にするには

タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。

1 (FN)+(F9)キーを押す

[タッチパッド] のカードが表示されます。

2 (FN)キーを押したまま(F9)キーを押し直し、[無効] アイコンが大きい状態で指をはなす

タッチパッドからの入力が一時的に無効になります。

解除するには、手順2で [有効] アイコンが大きい状態で指をはなします。

(FN)+(F9)キーでタッチパッドの操作を有効にした場合、タッチパッドの操作中にカーソルの動きが不安定になることがあります。そのような場合は、1度タッチパッドから手をはなしてください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

6 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1280 × 800 ドット）が内蔵されています。ドットは画素数を表します。外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

 参照 外部ディスプレイの接続について
「4 章 4 外部ディスプレイを接続する」

1 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1～8」の8段階で設定ができます。

【輝度の調整方法】

(FN) + (F6) : **(FN)**キーを押したまま、**(F6)**キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。

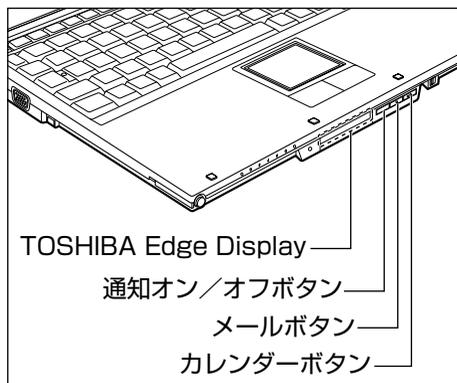
表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。

(FN) + (F7) : **(FN)**キーを押したまま、**(F7)**キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。

表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。

7 TOSHIBA Edge Display

本製品には、本体液晶ディスプレイの他に、時刻やバッテリー残量、メール着信などをチェックできる、サブディスプレイ（トウシバ エッジ ディスプレイTOSHIBA Edge Display）が用意されています。TOSHIBA Edge Displayの表示内容は、横の3つのボタンで切り替えることができます。



それぞれのボタンの役割は、次のとおりです。

通知オン/オフボタン	メールの到着件数と新しい予定の件数表示のオン/オフの切替え
メールボタン	Windows メールを受信状況を表示 ボタンを押すごとに、受信メールを最新のものから順番に表示します。既定の電子メールプログラムが、Windows メールまたは Microsoft® Office Outlook® 2003 以降のバージョンの場合に使用できます。
カレンダーボタン	予定の表示 ボタンを押すごとに、直後の予定から順番に表示します。既定の電子メールプログラムが Microsoft® Office Outlook® 2003 以降のバージョンの場合に使用できます。

それぞれの設定は、[Active Notifications セットアップ] から行います。次の手順で [Active Notifications セットアップ] を起動してください。

- 1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [Active Notifications] → [Active Notifications セットアップ] をクリックする

[Active Notifications の開始] ウィザードが起動しますので、画面の表示に従って設定してください。

TOSHIBA Edge Display には、次のように表示されます。



表示されるアイコンの意味は、次のとおりです。

バッテリーに関する表示		バッテリー残量
		バッテリーが取り付けられていない、またはバッテリー残量を検出できない
ワイヤレスWAN通信状況に関する表示*		ワイヤレス WAN 信号の強度
		ワイヤレス WAN がローミング中
		ワイヤレスネットワーク接続に問題がある
		ワイヤレス WAN モデムを使用できない、またはワイヤレスコミュニケーションスイッチが OFF 側でモデムの電源が入っていない
新着メールと予定表に関する表示		新着メール通知がオンになっている アイコンの隣の数字は未読メールの件数
		電子メールサーバ接続時にエラーがあった
		電子メールサーバに接続できなかった
		予定表通知がオンになっている アイコンの隣の表示は次の予定の開始時間
		電子メールで届いた新しい予定表が未更新
		新着メールの件数、次の予定の開始時刻の表示をしない
		TOSHIBA Edge Display がロックされている

*本製品では、ワイヤレス WAN 機能はサポートしておりません。

詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動

■ 「TOSHIBA Edge Display」のヘルプ

バッテリーに関する表示、ワイヤレス WAN 通信状況に関する表示については、「TOSHIBA Edge Display」のヘルプを参照してください。

- 1 [スタート] ボタン → [コントロールパネル] → [Windows SideShow] → [TOSHIBA Edge Display] をクリックする
[TOSHIBA Edge Display 接続] 画面が表示されます。
- 2 [TOSHIBA Edge Display の画面の明るさ、タイムアウト、セキュリティを設定します] をクリックする
[TOSHIBA Edge Display オプション] 画面が表示されます。
- 3  ボタンをクリックする
[TOSHIBA Edge Display] のヘルプが表示されます。

■ 「TOSHIBA Active Notifications」のヘルプ

新着メールと予定表の表示を利用するための設定や表示の詳細については、「TOSHIBA Active Notifications」のヘルプを参照してください。

- 1 [スタート] ボタン → [コントロールパネル] → [Windows SideShow] → [TOSHIBA Active Notifications] をクリックする
[TOSHIBA Active Notifications 設定] 画面が表示されます。
- 2  ボタンをクリックする
[TOSHIBA Active Notifications] のヘルプが表示されます。

8 ハードディスクドライブ

内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。

PC カードタイプ（TYPE II）や、USB 接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

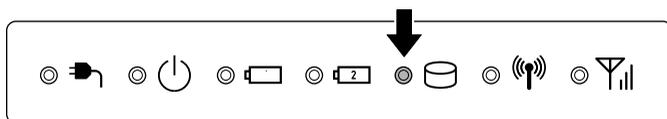
1 ハードディスクドライブについて

お願い 操作にあたって

- Disk  LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクや CD / DVD などに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD / DVD などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気プレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk  LED が点灯します。



PC カードタイプや USB 接続などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk  LED は点灯しません。

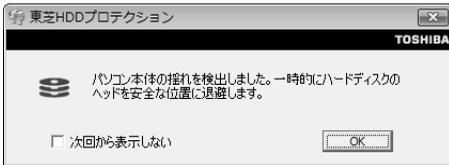
ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

2) 東芝HDDプロテクションについて

「東芝HDDプロテクション」とは、パソコン本体に内蔵された加速度センサーにより振動・衝撃およびその前兆を検出し、HDD（ハードディスクドライブ）を損傷する危険性を軽減する機能です。

パソコンの使用状況に合わせ、検出レベルを設定できます。

パソコン本体の揺れを検知すると、次のメッセージが表示されます。



メッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックして、画面を閉じてください。

HDDのヘッドを退避しているとき、通知領域の[東芝HDDプロテクション]アイコン(🗄️)が(🛡️)に変わります。

お願い

東芝HDDプロテクションは、振動・衝撃およびその前兆を検出するとHDDのヘッドを退避させ、ヘッドとメディアの接触によってHDDが損傷する危険性を軽減するものです。ただしその効果を保証するものではありません。故障などの際は当社保証規定に従って修理いたします。また、故障などによりHDDの記憶内容が変化・消失する場合がありますが、これによる損害、および本製品の使用不能から生じた損害については当社はその責任を一切負いません。大切なデータは必ずお客様の責任のもと普段からこまめにバックアップされるようお願いいたします。

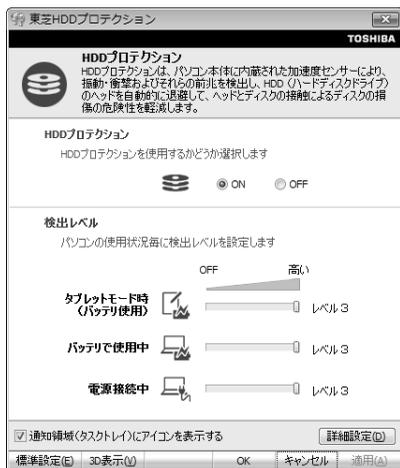
メモ

- 購入時の状態では、東芝HDDプロテクションがONに設定されています。
- パソコン起動時、スリープ、休止状態、および休止状態へ移行中と休止状態からの復帰中、電源を切ったときには、東芝HDDプロテクションは動作しません。パソコンに衝撃が加わらないようご注意ください。

設定方法

東芝 HDD プロテクションでは、パソコンの使用状況に合わせて検出レベルを設定することができます。

- 1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [HDD プロテクションの設定] をクリックする
[東芝 HDD プロテクション] 画面が表示されます。



2 各項目を設定する

9 サウンド機能

本製品はサウンド機能とスピーカを内蔵しています。

1) スピーカの音量を調整する

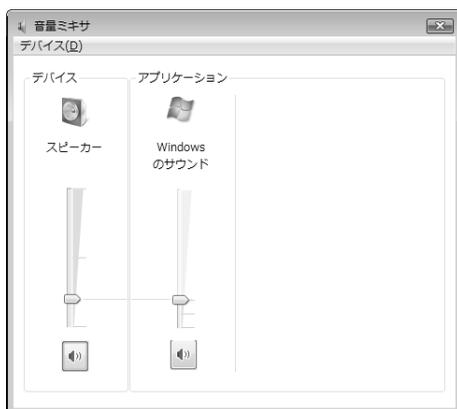
標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。スピーカの音量は、デジタルボリュームまたは Windows の「音量ミキサ」で調整できます。

1 デジタルボリュームで調整する

音量を大きくしたいときは奥に、小さくしたいときは手前に回します。デジタルボリュームを押すと消音 (Mute) になります。もう 1 度デジタルボリュームを押すと、消音は解除されます。

2 音量ミキサで調整する

- 1 [スタート] ボタン → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ハードウェアとサウンド] → [システム音量の調整] をクリックする
- 3 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する
つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をクリックすると消音となります。



10 LAN 機能

パソコンをインターネットに接続する前に、コンピュータウイルスへの対策を行ってください。

コンピュータウイルスとは、パソコンにトラブルを発生させるプログラムのことで、ハードディスクやデータの一部を破壊するものもあります。

本製品には、ウイルスチェックソフトとして「ウイルスバスター」が用意されています。

必ずウイルスチェックソフトのインストールと設定を行い、定期的にウイルスチェックを行ってください。設定したソフトは常に最新のバージョンに更新するようにしてください。

1 ケーブルを使った LAN 接続（有線 LAN）

本製品には、ブロードバンド対応の LAN 機能が内蔵されています。

本製品の LAN コネクタに ADSL モデムやケーブルモデムなどを LAN ケーブルで接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダにお問い合わせください。

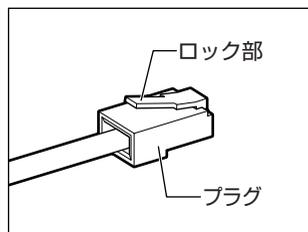
また、本製品の LAN 機能は、Gigabit Ethernet (1000BASE-T)、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。

Gigabit Ethernet、Fast Ethernet、Ethernet は、ご使用のネットワーク環境（接続機器、ケーブル、ノイズなど）により、自動で切り替わります。

LAN インタフェースを使用するとき、1000BASE-T 規格はエンハンスドカテゴリ (CAT5E) 以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。100BASE-TX 規格は、カテゴリ 5 (CAT5) 以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。

10BASE-T 規格は、カテゴリ 3 (CAT3) 以上のケーブルが使用できます。

カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、大きい数字ほど性能が高くなります。



LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらかはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、『Windows ヘルプとサポート』を確認してください。または、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

お願い LAN ケーブルの使用にあたって

- LAN ケーブルは市販のものを使用してください。
- LAN ケーブルをパソコン本体の LAN コネクタに接続した状態で、LAN ケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LAN コネクタが破損するおそれがあります。

2) ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）

無線 LAN とは、パソコンに LAN ケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスの LAN 機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータを LAN システムに接続できます。

無線 LAN アクセスポイント（市販）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

1 無線 LAN の概要

本製品には、IEEE802.11a（J52 / W52 / W53）、IEEE802.11b、IEEE802.11g に準拠した無線 LAN モジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 規格値 54Mbps 無線 LAN 対応（IEEE802.11a/IEEE802.11g の場合）*1
- 規格値 11Mbps 無線 LAN 対応（IEEE802.11b の場合）*1
- 周波数チャンネル選択
- マルチチャンネル間のローミング
- パワーマネージメント
- 暗号化機能（WEP、TKIP、AES）

*1 表示の数値は、無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

【無線LANの種類】

無線LANは、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11gに準拠する無線ネットワークです。

- IEEE802.11aは、屋外では使用できません。
- IEEE802.11a、IEEE802.11gでは「直交周波数分割多重方式」(Orthogonal Frequency Division Multiplexing, OFDM)、IEEE802.11bでは「直接拡散方式」(Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS)を採用し、IEEE802.11に準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi Alliance 認定のWi-Fi (Wireless Fidelity) ロゴを取得しています。Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11に準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。

お願い 無線LAN製品ご使用时におけるセキュリティに関するご注意

(お客様の権利(プライバシー保護)に関する重要な事項です！)

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
 - 悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
メールの内容
などの通信内容を盗み見られる可能性があります。
- 不正に侵入される
 - 悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
個人情報や機密情報を取り出す(情報漏えい)
特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)
傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)
コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)
などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

お願い セキュリティ機能

- セキュリティ機能を使用しないと、無線 LAN 経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。

不正アクセスを防ぐために、ネットワーク名 (SSID) の設定や、暗号化機能 (WEP、WPA) を設定されることを強くおすすめします。

また、お使いの無線 LAN アクセスポイントで、登録した MAC アドレスのみ接続可能にする設定などの対策も有効です。

公共の無線 LAN アクセスポイントなどで使用される場合は、「Windows ファイアウォール」やファイアウォール機能のあるウイルスチェックソフトを使用して、不正アクセスを防止してください。

お願い 無線 LAN を使用するにあたって

- 無線 LAN の無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
- また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線 LAN は無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 2 無線 LAN について」を確認してください。
- 本製品の無線 LAN を使用できる国／地域については、付属の『無線 LAN ご使用できる国／地域について』を確認してください。

2 無線LANを使ってみよう

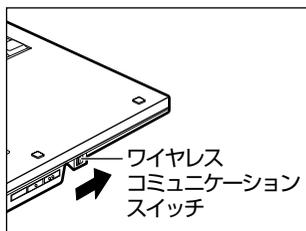
警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（左側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ること
ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

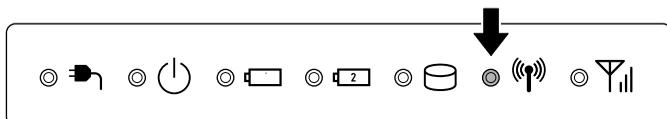
お願い 操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- アドホックネットワーク機能で、設定されているネットワーク名へのネットワーク接続が不可能になる場合があります。
この場合、再度ネットワーク接続を可能にするには、同じネットワーク名で接続されていたコンピュータすべてに対して、新たに別のネットワーク名で設定を行う必要があります。

1 本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーションLEDが点灯します。



以降の無線の設定方法には、次の2種類があります。

- ・「ConfigFree」を使う
- ・Windows 標準機能を使う

「ConfigFree」を使って設定する場合は、「ファーストユーザーズガイド」を参照してください。[スタート] ボタン→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree ファーストユーザーズガイド] をクリックすると起動できます。

Windows 標準機能を使って設定する場合は、『Windows ヘルプとサポート』を参照してください。

メモ

「ConfigFree」を使うと、近隣の無線LANデバイスを検出したり、LANケーブルをはずすと自動的に無線LANに切り替えるなど、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。

11 Bluetooth 機能

Bluetooth ワイヤレステクノロジーは、パソコンや周辺機器、携帯電話などの機器
どうしで無線でデータをやりとりできる、世界標準の通信方式です。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーを搭載した機器であれば、お互いに通信相手を
登録することで、簡単にデータのやりとりができます。

詳細については、『Bluetooth ユーティリティユーザーズガイド』を参照してくださ
い。

参照 ▶ 起動方法

「本節 1- Bluetooth ユーティリティユーザーズガイドの起動方法」

お願い

- 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品のBluetooth機能を使用できる国／地域については、付属の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

メモ

- Bluetoothのバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1、1.2、2.0、2.0+EDRのBluetooth対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

1 Bluetooth通信が可能な状態にする

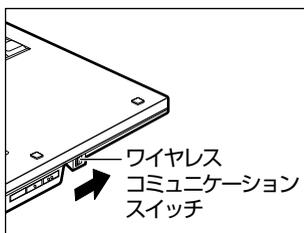
警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（左側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ること
ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

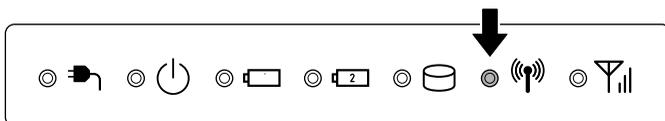
お願い

Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

1 本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション LED が点灯します。



2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [Bluetooth] → [Bluetooth 設定] をクリックする

初めて起動したときは、Bluetooth 用ドライバのインストールが始まります。インストールが終了するまでお待ちください。

「Bluetooth Manager」が起動し、周辺の Bluetooth 対応機器を検索する [自動登録] 画面が表示されます。すぐに Bluetooth 対応機器を登録する必要がない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

無線 LAN (Wireless LAN) と同時に使用する際の [注意] 画面が表示された場合は、内容を確認のうえ、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

通知領域に [Bluetooth Manager] アイコン () が表示されます。以降、通知領域に常駐し、次回 Windows を起動したときには自動的にアイコンが表示されます。[Bluetooth Manager] アイコン () はサービスの状態によって表示が異なります。詳細については、『Bluetooth ユーティリティユーザーズガイド』を確認してください。

Bluetooth の電源が入っていない場合には、[Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックして表示されたメニューから、[Bluetooth オン] を選択して電源を入れてください。

本製品には、他の Bluetooth 対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetooth ユーティリティ」がプレインストールされています。

初めて Bluetooth を使うときには、ユーティリティの設定が必要になります。設定方法や通信する方法については、『Bluetooth ユーティリティユーザーズガイド』をご覧ください。

Bluetooth ユーティリティユーザーズガイドの起動方法

『Bluetooth ユーティリティユーザーズガイド』では、「Bluetooth ユーティリティ」について説明しています。

1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [Bluetooth] → [ユーザーズ ガイド] をクリックする

4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられる周辺機器の取り付けかたや各種設定について説明しています。

1	周辺機器について	80
2	PC カードを使う	81
3	USB 対応機器を接続する	83
4	外部ディスプレイを接続する	85
5	その他の機器を接続する	92
6	メモリを増設する	94

1 周辺機器について

周辺機器を使って、パソコンの性能を高めたり、機能を上げることができます。周辺機器については、それぞれの機器に付属の説明書もあわせてお読みください。周辺機器によってインターフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

2 PCカードを使う

本製品のPCカードスロットでは、PC Card Standard 準拠のTYPE II対応のカード（CardBus対応カードも含む）を使用できます。

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているのが便利です。

使用しているPCカードがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

お願い

- ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。

1 取り付け

1 ケーブルの接続が必要なときは、PCカードにケーブルを付ける

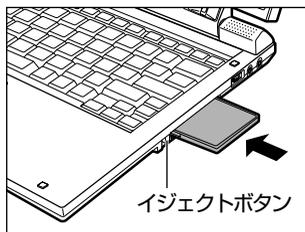
2 イジェクトボタンを2回押す

1回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう1度カチッと音がするまで押してください。ダミーカードが出てきます。

3 ダミーカードを抜く

ダミーカードはなくさないように保管してください。

4 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れることがあります。

参照 → カードの接続および環境の設定方法『PCカードに付属の説明書』

2 取りはずし

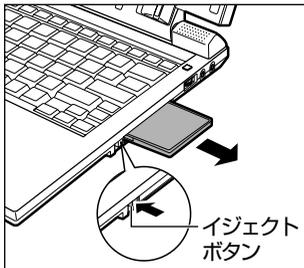
お願い

- 取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが回復不能な影響を受ける場合があります。

1 PCカードの使用を停止する

- ① 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずすPCカードを選択する
- ③ 「このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

2 イジェクトボタンを2回押す



1回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう1度力チッと音がするまで押してください。カードが奥まで差し込まれていない場合、イジェクトボタンが出てこないことがあります。カードを奥まで押し込んでから、もう一度イジェクトボタンを押してください。

カードが少し出てきます。

3 カードをしっかりとつかみ、抜く

熱くないことを確認してから行ってください。

カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。

4 ダミーカードを挿入する

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納してください。

3 USB 対応機器を接続する

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

本製品の USB コネクタには、USB2.0 対応機器と USB1.1 対応機器を取り付けることができます。

USB 対応機器の詳細については、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

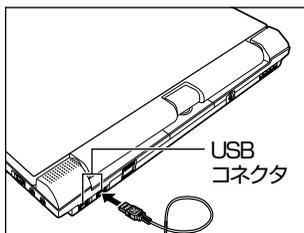
1 取り付け

1 USB ケーブルのプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 USB ケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体背面の USB コネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。



2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやMOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする

* 通知領域にこのアイコンが表示されないUSB対応機器は、手順1の①～③は必要ありません。

- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

4 外部ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイにデスクトップ画面を表示させることができます。

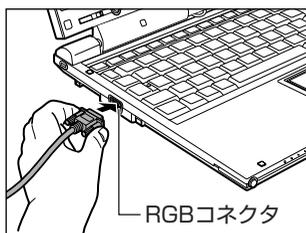
メモ

使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあった外部ディスプレイを接続してください。

1 接続

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグをRGB コネクタに差し込む



外部ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

2 取りはずし

外部ディスプレイを取りはずすときは、「スリープ」や「休止状態」にするのではなく、必ず電源を切ってください。

1 Windows を終了させてパソコン本体の電源を切る

参照 ▶ 電源の切りかた「2章 1-② 電源を切る」

2 外部ディスプレイの電源を切る

3 RGB コネクタからケーブルを抜く

3 表示装置を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切替えを行うことで変更できます。

【 本体液晶ディスプレイだけに表示／外部ディスプレイだけに表示 】

いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。

【 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示 】

● クローン表示

2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

● 拡張表示

2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用（拡張表示）します。

外部ディスプレイに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、外部ディスプレイには表示されません。

お願い 操作にあたって

- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
 - ・ データの読み出しや書き込みをしている間
 - ・ 通信を行っている間

メモ

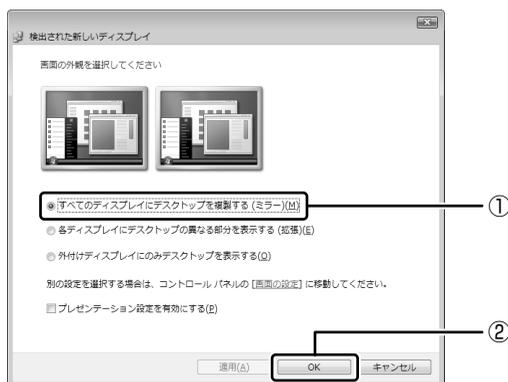
外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、外部ディスプレイ／本体液晶ディスプレイとも本体液晶ディスプレイの色数／解像度で表示されます。

方法1－選択画面が表示された場合

外部ディスプレイを接続し、パソコンの電源を入れたときに「検出された新しいディスプレイ」画面が表示された場合は、次の手順で設定することができます。

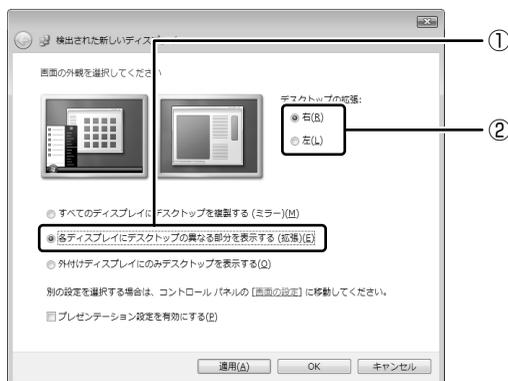
【クローン表示にする場合】

- 1 「すべてのディスプレイにデスクトップを複製する（ミラー）」を選択し①、【OK】 ボタンをクリックする②



【拡張表示にする場合】

- 1 「各ディスプレイにデスクトップの異なる部分を表示する（拡張）」を選択し①、【デスクトップの拡張】で、プライマリデバイスを選択する②



- 2 【OK】 ボタンをクリックする

方法2 - コントロールパネルで設定する

- 1 [スタート] ボタン→ [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [その他のオプション] をクリックする
- 3 [Intel(R) GMA Driver for Mobile] ボタンをクリックする
- 4 [ディスプレイデバイス] で、表示する装置を選択する



(表示例)

チェック () がついている項目が現在の表示装置です。

- 本体液晶ディスプレイだけに表示
[ノートブック] をクリックしてください。
- 外部ディスプレイだけに表示
[PC モニタ] をクリックしてください。
- クローン表示
 - ① [Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン] をクリックする
 - ② 表示に合わせた設定をする

項目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
本体液晶ディスプレイと 外部ディスプレイでクローン表示	ノートブック	PC モニタ
	PC モニタ	ノートブック

● 拡張表示

- ① [拡張デスクトップ] をクリックする
- ② 表示に合わせた設定をする

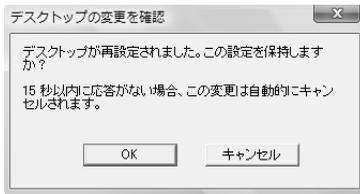
項目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
本体液晶ディスプレイと 外部ディスプレイで拡張表示	ノートブック	PC モニタ
	PC モニタ	ノートブック

メモ

本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイをクローン表示または拡張表示に設定する際に、外部ディスプレイにノイズが発生した場合は、外部ディスプレイの解像度、色数、リフレッシュレートを下げてください。設定は、クローン表示または拡張表示に設定したあと、[ディスプレイ設定] をクリックし、表示される画面で行います。

5 [OK] ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



6 [OK] ボタンをクリックする

方法3 - (FN) + (F5) キーを使う

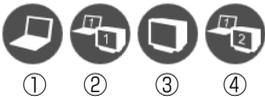
(FN)キーを押したまま(F5)キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。上のカードは現在の表示装置を示しています。(FN)キーを押したまま(F5)キーを押すたびに、大きなアイコンが移動します。表示する装置が大きなアイコンに変わったところで、(FN)キーをはなすと表示装置が切り替わります。

● 表示装置をLCD（本体液晶ディスプレイ）に戻す方法

現在の表示装置がLCD（本体液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、(FN) + (F5)キーを3秒以上押し続けてください。

表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指をはなしてから、(FN) + (F5)キーを3秒以上押し続けてください。

【 表示装置を選択する画面 】



- ① LCD 本体液晶ディスプレイだけに表示
- ② LCD + CRT 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
- ③ CRT 外部ディスプレイだけに表示
本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- ④ LCD + CRT Extended Desktop
..... 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに拡張表示
本体液晶ディスプレイがプライマリモニタになります。

■ 拡張表示でプライマリモニタを切り替える方法 ■

現在の表示装置が拡張表示に設定されている場合、プライマリモニタ、セカンダリモニタを切り替えるアイコン（）が表示されます。



(FN)+(F5)キーを押して、プライマリ、セカンダリを切り替えるアイコンに移動したら、(FN)キーをはなすと、表示装置が切り替わります。

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは [スタート] ボタン→  ボタンをクリックし、表示されたメニューから [ログオフ] を選択してください。[ユーザーの切り替え] で切り替えた場合は、(FN)+(F5)キーで表示装置を切り替えられません。

 参照 ユーザー アカウントの切り替え『Windows ヘルプとサポート』

お願い

拡張表示で外部ディスプレイをプライマリデバイスに設定した場合、外部ディスプレイをはずさないでください。スリープモード復帰後にログオン画面が表示されず、操作ができなくなります。

メモ

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

5 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、次の機器を接続できます。

1) マイクロホン

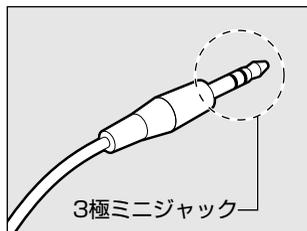
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

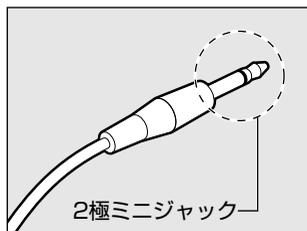
➡ 参照 サウンド機能について「3章 9 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは直径 3.5mm 3 極ミニジャックタイプが使用できます。



直径 3.5mm 2 極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm ステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
- ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

ヘッドホンの音量はデジタルボリューム、または Windows の音量ミキサで調節してください。

音量ミキサは、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] ボタン → [コントロールパネル] → [ハードウェアとサウンド] → [システム音量の調整] をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

6 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品には PC2-4200 対応、DDR2 SDRAM 仕様の 2 つの増設メモリスロット（スロット A とスロット B）があり、スロット A とスロット B にはすでに、それぞれ 1GB のメモリが取り付けられています。

取り付けられているメモリを別売りの増設メモリと付け換えることができます。

増設メモリは、容量によって次のタイプがあります。

2GB : PAME2004

1GB : PAME1004

512MB : PAME5124

取り付けることのできるメモリの容量は、2 つのスロットを合わせて最大 4GB までです。

警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないこと
内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないこと
火災、感電の原因となります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行うこと
電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないこと
内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切った後 30 分以上たってから行ってください。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミや油が付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スリープ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スリープ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバーを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

増設メモリは、東芝製オプションを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、Power  LED が点滅して警告します。

Power  LED の点滅状態	エラーの原因
オレンジ→オレンジ→青...	スロット A に動作保証されていないメモリが取り付けられている。
オレンジ→青→青...	スロット B に動作保証されていないメモリが取り付けられている。
オレンジ→オレンジ→青→青...	スロット A、スロット B に動作保証されていないメモリが取り付けられている。

お願い 静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって回復不能な損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

メモ

同じ仕様で同じ容量のメモリを、それぞれスロットA、スロットBに装着すると、デュアルチャネルで動作します。
デュアルチャネルは2枚のメモリに効率良くアクセスすることができます。

1) スロットAへの取り付け／取りはずし

1 取り付け

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

▶ 参照 「本項 2 取りはずし」

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

▶ 参照 電源の切りかた「2章 1-② 電源を切る」

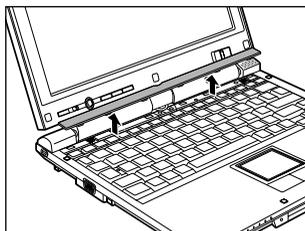
2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

標準のバッテリーパック、セカンドバッテリーパック、ともに取りはずしてください。

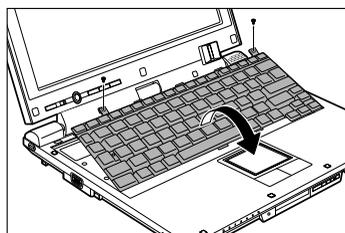
▶ 参照 バッテリーパックの取りはずし「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」
「5章 1-④ セカンドバッテリーパックを使う」

4 キーボードホルダに指をかけ、取りはずす



キーボードホルダに指をかけ、ゆっくりと慎重に引き上げます。

5 キーボード上部のネジ2本をはずし、キーボードを手前に裏返す

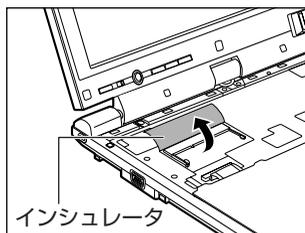


ネジが本体内部に入らないようにしてください。

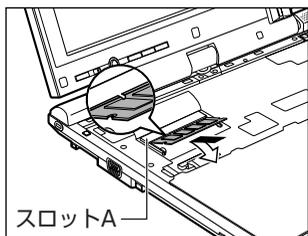
お願い

- キーボードの裏には、接続ケーブルがあります。接続ケーブルは、はずしたり、傷つけたり、無理な力を加えないでください。断線や接触不良の原因となり、キー入力ができなくなるおそれがあります。
- キーボードをディスプレイに立てかけたりぶつけたりして、傷をつけないようにしてください。

6 増設メモリ部分のインシュレータをめくる



7 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し、固定するまで増設メモリを倒す



増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかりにくいときは、ペン先などで広げてください。このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

8 増設メモリ部分のインシュレータを元に戻す

お願い

インシュレータは必ず元に戻してください。キーボードとパソコン内部が接触すると動作不良の原因となります。

9 キーボードを元に戻し、手順5ではずしたネジ2本でとめる

10 キーボードホルダを取り付ける

まずパソコン本体のキーボード側にキーボードホルダ前面のツメを差し込み、キーボードホルダ後側と左右を押して取り付けます。

11 バッテリパックを取り付ける

参照▶ バッテリパックの取り付け「5章 1-③ バッテリパックを交換する」
「5章 1-④ セカンドバッテリパックを使う」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照▶ メモリ容量の確認について「本節 ③ メモリ容量の確認」

2 取りはずし

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照▶ 電源の切りかた「2章 1-② 電源を切る」

2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

標準のバッテリーパック、セカンドバッテリーパック、ともに取りはずしてください。

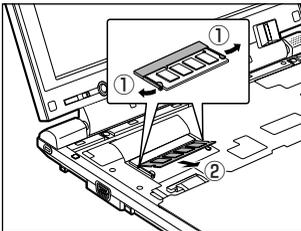
▶参照 バッテリーパックの取りはずし「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」
「5章 1-④ セカンドバッテリーパックを使う」

4 キーボードホルダに指をかけ、取りはずす

5 キーボード上部のネジ2本をはずし、キーボードを手前に裏返す ネジが本体内部に入らないようにしてください。

6 増設メモリ部分のインシュレータをめくる

7 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす② 斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。



8 増設メモリ部分のインシュレータを元に戻す

9 キーボードを元に戻し、手順5ではずしたネジ2本でとめる

10 キーボードホルダを取り付ける

11 バッテリーパックを取り付ける

▶参照 バッテリーパックの取り付け「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」
「5章 1-④ セカンドバッテリーパックを使う」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

▶参照 メモリ容量の確認について「本節 ③ メモリ容量の確認」

2) スロット B への取り付け／取りはずし

1 取り付け

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

参照▶「本項 2 取りはずし」

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照▶ 電源の切りかた「2 章 1-② 電源を切る」

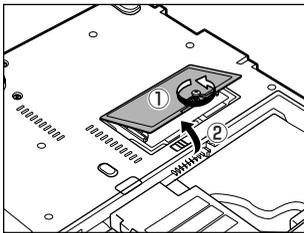
2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

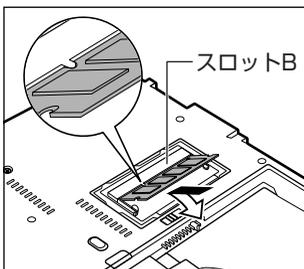
標準のバッテリーパック、セカンドバッテリーパック、ともに取りはずしてください。

参照▶ バッテリーパックの取りはずし「5 章 1-③ バッテリーパックを交換する」
「5 章 1-④ セカンドバッテリーパックを使う」

4 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ①、カバーをはずす②



5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し、固定するまで増設メモリを倒す



増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

- 6 増設メモリカバーをつけて、手順4でゆるめたネジ1本をとめる
増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリパックを取り付ける

- 参照▶ バッテリパックの取り付け「5章 1-③ バッテリパックを交換する」
「5章 1-④ セカンドバッテリパックを使う」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

- 参照▶ メモリ容量の確認について「本節 ③ メモリ容量の確認」

2 取りはずし

- 1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

- 参照▶ 電源の切りかた「2章 1-② 電源を切る」

- 2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

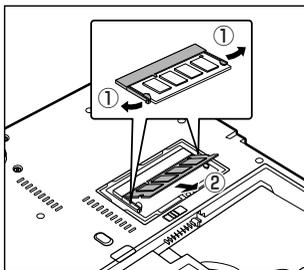
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

標準のバッテリパック、セカンドバッテリパック、ともに取りはずしてください。

- 参照▶ バッテリパックの取りはずし「5章 1-③ バッテリパックを交換する」
「5章 1-④ セカンドバッテリパックを使う」

- 4 増設メモリカバーのネジ1本をゆるめ、カバーをはずす

- 5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②



斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

6 増設メモ리카バーをつけて、手順4でゆるめたネジ1本をとめる
増設メモ리카バーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリーパックを取り付ける

参照 ▶ バッテリーパックの取り付け「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」
「5章 1-④ セカンドバッテリーパックを使う」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 ▶ メモリ容量の確認について「本節 ③ メモリ容量の確認」

3) メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【確認方法】

- ① [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報] タブの [物理メモリ] の数値を確認する

5 章

バッテリー駆動

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定など、バッテリーを使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

-
- 1 バッテリーについて 104
 - 2 省電力の設定をする 114

1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

本製品を初めて使用するときは、バッテリーパックを充電してから使用してください。また、別売りのセカンドバッテリーパックをご使用になると、より長い時間バッテリー駆動でお使いいただけます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

危険

- **バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用すること**
寿命などで交換する場合は、東芝製バッテリーをお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- **バッテリーパックを分解・改造しないこと**
分解・改造すると火災・破裂・発熱の原因となります。指定以外の製品や、分解・改造したものは、安全性や製品に関する保証はできません。

警告

- **別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないこと**
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

注意

- **バッテリーパックの充電温度範囲内（5～35℃）で充電すること**
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。

お願い

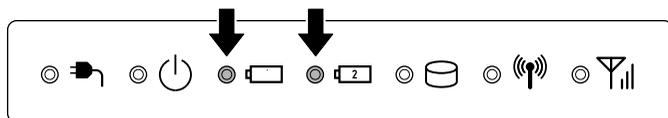
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スリープを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
バッテリーパックを使いきってしまうと、スリープが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、ACアダプタを接続してバッテリーと時計用バッテリーを充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

1) バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery  LEDが青色に点灯すれば充電完了です。また、セカンドバッテリーパックを取り付けている場合は、Secondary Battery  LEDが青色に点灯すれば充電完了です。



LEDの色は次の状態を示しています。

青	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none">・ ACアダプタが接続されていない／バッテリー駆動で使用中・ バッテリーが接続されていない・ バッテリー異常 異常の場合は、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに連絡してください。

バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。

2 通知領域の【バッテリー】アイコンで確認する

通知領域の【バッテリー】アイコン（）の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在の電源プランが表示されます。



参照 → 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LED や【バッテリー】アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

参照 → 再充電について「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する（バッテリーの残量が少ないことを示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
「電源オプション」で [プラン設定の変更] → [詳細な電源設定の変更] をクリックして表示される [詳細設定] タブの [バッテリー低下の通知] で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体に AC アダプタを接続し、充電する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、AC アダプタを接続して電源を入れているとき（電源 ON 時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【 充電完了までの時間 】

状態	時計用バッテリー
電源 ON (Power  LED が青色に点灯)	8 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2) バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

1 充電方法

セカンドバッテリーパックを取り付けている場合は、標準のバッテリーパック→セカンドバッテリーパックの順に充電されます。

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN  LED が青色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFF にかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LED が青色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【充電完了までの時間】

バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合、または使用中のアプリケーションによっては、時間よりも長くかかることがあります。

詳細は、別紙の『PORTÉGÉ R400 シリーズ製品仕様表』を参照してください。

【 バッテリー駆動時間 】

バッテリー駆動時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

詳細は、別紙の『PORTÉGÉ R400 シリーズ製品仕様表』を参照してください。

【 使っていないときの充電保持時間 】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。

保持時間は、充電完了の状態でも電源を切った場合の目安にしてください。

詳細は、別紙の『PORTÉGÉ R400 シリーズ製品仕様表』を参照してください。

スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態、またはハイブリッドスリープにすることをおすすめします。

2 バッテリーを長持ちさせるには

- AC アダプタをコンセントに接続したままでパソコンを 8 時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにも AC アダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヶ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヶ月に 1 度は、AC アダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

 電源の切りかた「2章 1-② 電源を切る」

2 パソコン本体から AC アダプタをはずし、パソコンの電源を入れる

電源が入らない場合は手順 4 へ進んでください。

3 5 分程度バッテリー駆動を行う

この間、Battery  LED が点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐに AC アダプタを接続し、手順 4 へ進みます。

4 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN  LED が青色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery [] LEDが青色になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery [] LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN [] LEDが消灯している場合は、通電していません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリーを節約する】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする  『Windows ヘルプとサポート』
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
- 省電力の電源プランを設定する  「本章 2 省電力の設定をする」

3) バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの取り付け／取りはずしのときには、「スリープ」にするのではなく、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

お願い

キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

1 取りはずし／取り付け

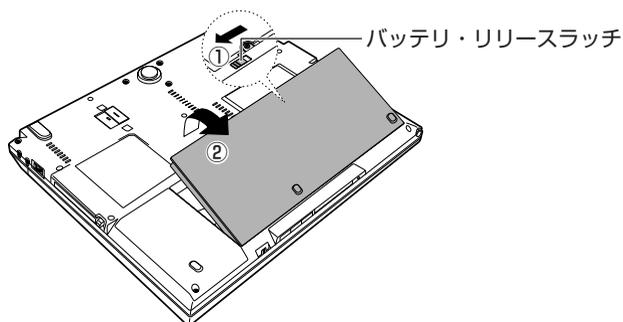
1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

 電源の切りかた「2章 1-② 電源を切る」

2 パソコン本体からACアダプタと周辺機器のケーブル類をはずす

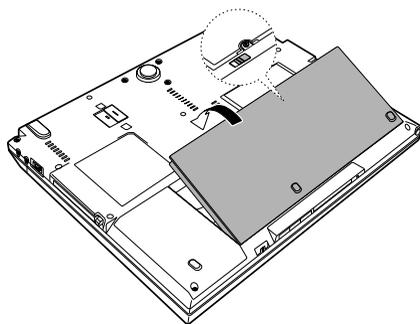
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

- 4 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリーパックを取りはずす②



- 5 交換するバッテリーパックを、カチッという音がするまで静かに差し込む

バッテリー・リリースラッチが自動的にスライドして、「カチッ」という音がします。



4 セカンドバッテリーパックを使う

本製品に別売りのセカンドバッテリーパックを取り付けて、標準バッテリーパックと同時に使用することにより、長時間バッテリー駆動で使用することができます。充電方法、充電時間、バッテリーでの使用時間については、標準バッテリーパックとあわせて説明しています。

注意

- バッテリーパックはしっかりと取り付けられているかどうか、必ず確認すること。正しく取り付けられていないと、持ち運びのときにはずれ落ちて、思わぬケガのおそれがあります。

1 取り付け

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

 参照 電源の切りかた「2章 1-② 電源を切る」

2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

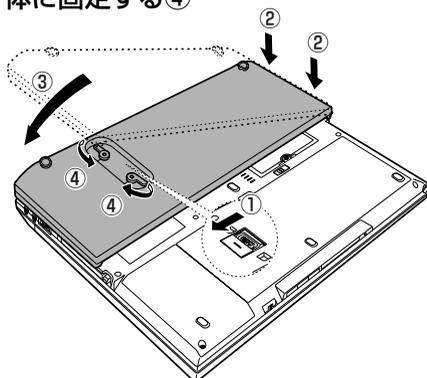
4 セカンドバッテリーパックの保護カバーを取りはずす

5 セカンドバッテリー・ポートカバーをスライドする①

6 本体左側面のフックにセカンドバッテリーのガイドをはめ込み②、セカンドバッテリーを矢印の向きに倒す③

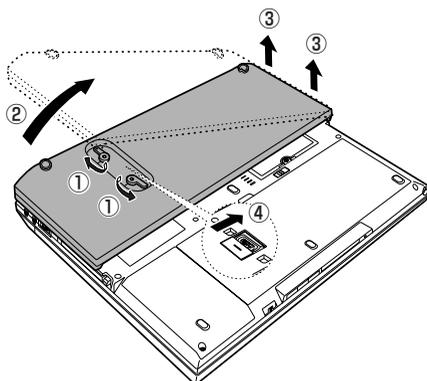
セカンドバッテリーパックが、セカンドバッテリー・ポートに接続されます。

- 7 セカンドバッテリーパックのラッチを矢印の方向に回し、パソコン本体に固定する④



2 取りはずし

- 1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る
 参照▶ 電源の切りかた「2章 1-② 電源を切る」
- 2 パソコン本体からACアダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 4 セカンドバッテリーパックのラッチを矢印の方向に回す①
- 5 セカンドバッテリーパックを矢印の方向に引き上げ②、パソコン本体のフックから取りはずす③
- 6 セカンドバッテリーパックに保護カバーを取り付ける
- 7 セカンドバッテリー・ポートカバーをスライドする④



2 省電力の設定をする

「電源オプション」ではパソコンの電源を管理して、電力の消費方法を状況に合わせて変更することができます。

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らして長い時間使用するように設定したり、電力を使ってパフォーマンスの精度を上げるように設定したりできます。

これらの電源設定を電源プランといいます。

「電源オプション」では、使用環境にあわせて設定された電源プランがあらかじめ用意されていますので、使用環境が変化したときに電源プランを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができます。

各電源プランの設定を変更したり、新しく電源プランを追加することもできます。詳しくは、「電源オプション」のヘルプをご覧ください。

起動方法

- 1 [スタート] ボタン→ [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [バッテリー設定の変更] をクリックする
「電源オプション」が起動します。

ヘルプの起動方法

- 1 「電源オプション」を起動後、画面右上の  をクリックする
- 2 表示された一覧から知りたい項目をクリックする
該当するページが表示されます。

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 116
 - 2 東芝HW セットアップを使う 117
 - 3 BIOS セットアップを使う 118
 - 4 パスワードセキュリティ 131
 - 5 指紋認証を使う 147
 - 6 TPM を使う 163

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2つの方法があります。

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。

変更できる項目		Windows 上のユーティリティ
ハードウェア環境 (パソコン本体) の設定		「東芝 HW セットアップ」 参照▶ 「本章 2 東芝 HW セットアップを使う」
パスワードセキュリティの設定	ユーザパスワード	「東芝パスワードユーティリティ」 参照▶ 「本章 4-① ユーザパスワード」
	スーパーバイザパスワード	「東芝パスワードユーティリティ」 参照▶ 「本章 4-② スーパーバイザパスワード」
省電力の設定		「電源オプション」 参照▶ 「5章 2 省電力の設定をする」

BIOS セットアップについては「本章 3 BIOS セットアップを使う」をご覧ください。

2 東芝 HW セットアップを使う

「東芝 HW セットアップ」を使い、Windows 上でハードウェアの設定を変更できます。

複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

起動方法

- 1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [HW セットアップ] をクリックする

ヘルプの起動方法

- 1 [東芝 HW セットアップ] 画面上で、知りたい項目にポインタを合わせる
項目に対するヘルプが表示されます。

3 BIOS セットアップを使う

BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

メモ

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows上の「東芝HWセットアップ」、「東芝パスワードユーティリティ」、「電源オプション」、「デバイス マネージャ」などで行ってください。
BIOS セットアップとWindows上の設定が異なる場合、Windows上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOSセットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリー（時計用バッテリー）が消耗した場合は標準設定値に戻ります。

1 起動と終了

1 起動

1 (ESC)キーを押しながら電源を入れる

- 「Password = 」と表示された場合
登録したユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力し、(ENTER)キーを押してください。
- 「HDD Password = 」と表示された場合
登録したHDDユーザパスワードまたはHDDマスタパスワードを入力し、(ENTER)キーを押してください。
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

ユーザパスワードとHDDユーザパスワードの両方を設定してある場合は、「Password=」に続いて、「HDD Password=」が表示されます。ただし、パスワードとHDDユーザパスワードが同一の文字列の場合は、「Password=」のみが表示され、パスワードの認証終了後に「HDD Password=」は表示されません。

参照 → パスワードについて「本章 4 パスワードセキュリティ」

2 (F1)キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 (FN) + (→)キーを押す

本製品では、(FN) + (→)キーが(END)キーの機能を持ちます。

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y)キーを押す

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。

変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合には行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 (ESC)キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y)キーを押す

BIOSセットアップが終了します。

2 画面と基本操作

BIOS セットアップには次の2つの画面があります。

SYSTEM SETUP (1/2) ACPI BIOS version = X. XX

①	MEMORY Total = XXXXMB	BOOT PRIORITY Boot Priority = HDD → FDD → CD-ROM → LAN HDD Priority = Built-in HDD → USB	⑥
②	SYSTEM DATE/TIME Date (MM-DD-YYYY) = XX-XX-XXXX Time (HH:MM:SS) = XX:XX:XX	OTHERS Core-Multi Processing = Enabled Dynamic CPU Frequency Mode = Dynamically Switchable Execute-Disable Bit Capability = Not Available Virtualization Technology = Disabled Auto Power On = Disabled Beep Volume = Medium Diagnostic Mode = Disabled	⑦
③	BATTERY Battery Save Mode = Full Power PCI Express Link ASPM = Enabled Enhanced C-States = Enabled		
④	PASSWORD Not Registered		
⑤	HDD PASSWORD HDD = Built-in HDD HDD Password Mode = Master+User User Password = Not Registered Master Password = Not Registered		

↑↓↔: Select items **Space,BkSp**: Change values **PgDn,PgUp**: Change pages
Esc: Exit without saving **Home**: Set default values **End**: Save changes and Exit

SYSTEM SETUP (2/2) ACPI BIOS version = X. XX

⑧	CONFIGURATION Device Config. = Setup by OS	DISPLAY Power On Display = Auto-Selected LCD Display Stretch = Enabled	⑫
⑨	DRIVES I/O Built-in HDD = Primary IDE(1F0H/IRQ14)	PERIPHERAL Internal Pointing Device = Enabled	⑬
⑩	PCI BUS PCI BUS = IRQ10, IRQ11	LEGACY EMULATION USB KB/Mouse Legacy Emulation = Enabled USB-FDD Legacy Emulation = Enabled USB Memory BIOS Support Type = HDD	⑭
⑪	SECURITY CONTROLLER TPM = Enabled Clear TPM Owner	PCI LAN Built-in LAN = Enabled	⑮

↑↓↔: Select items **Space,BkSp**: Change values **PgDn,PgUp**: Change pages
Esc: Exit without saving **Home**: Set default values **End**: Save changes and Exit

(注) 画面は表示例です。

参照 → 設定項目の詳細について 「本節 ③ 設定項目」

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	<p>↑、↓、←、→</p> <p>画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。</p>
項目の内容を変更する	<p>(SPACE)または(BACKSPACE)</p>
画面を切り替える	<p>(FN) + ↓または(FN) + ↑</p> <p>本製品では、(FN) + ↓が(PGDN)キー、(FN) + ↑が(PGUP)キーの機能を持ちます。</p> <p>次の画面または前の画面に切り替わります。</p>
設定内容を標準値にする	<p>(FN) + ←</p> <p>本製品では、(FN) + ←が(HOME)キーの機能を持ちます。</p> <p>次の項目は、この操作をしても変更されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SYSTEM DATE/TIME ● PASSWORD ● HDD PASSWORD ● Core Multi-Processing ● Execute-Disable Bit Capability ● TPM

3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。

ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORY—メモリ容量を表示する

【 Total 】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIME—日付と時刻の設定をする

日付と時刻の設定は(SPACE)または(BACKSPACE)キーで行います。
月と日と年、時と分と秒の切替えは、(↑)(↓)キーで行います。

【 Date 】

日付を設定します。

【 Time 】

時刻を設定します。

3 BATTERY—バッテリーで長く使用するための設定をする

【 Battery Save Mode 】

バッテリーセーブモードを設定します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。

「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power (標準値)	●User Setting (設定例)	●Low Power
Processing Speed = High CPU Sleep Mode = Enabled LCD Brightness = Bright*1 Super-Bright*2 Cooling Method = Maximum Performance	Processing Speed = Low CPU Sleep Mode = Enabled LCD Brightness = Semi-Bright Cooling Method = Battery Optimized	Processing Speed = Low CPU Sleep Mode = Enabled LCD Brightness = Semi-Bright*1 Bright*2 Cooling Method = Battery Optimized

(注) LCD Brightness (LCD 輝度) の表示は次の状態で変わります。

- *1 バッテリー駆動時
- *2 ACアダプタ接続時

「User Setting」で「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、(↑)(↓)キーを押して選択項目を「Processing Speed」または「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High 処理速度を高速に設定する
- ・ Low 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- ・ Enabled 電力消費を低減する
- ・ Disabled 電力消費を低減しない

● LCD Brightness (LCD 輝度)

画面の明るさを選択します。

- ・ Super-Bright 最高輝度に設定する
- ・ Bright 高輝度に設定する
- ・ Semi-Bright 低輝度に設定する

● Cooling Method (CPU 熱制御方式)

CPU の熱を冷ます方式を選択します。

CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。

- ・ Cooling Optimized パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却します。
- ・ Maximum Performance ... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却します。
「Cooling Optimized」よりもファン音が静かな状態を保ち温度を下げます。
- ・ Performance パソコン本体内部の温度が上昇したときに、
[Maximum Performance] と [Battery Optimized] の中間的な方法で冷却します。
- ・ Battery Optimized パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主に CPU の処理速度を落として冷却します。
[Performance] より消費電力は少なくなります。

【 PCI Express Link ASPM 】

PCI Express の省電力機能を設定します。

- ・ Auto バッテリ動作中かつ PCI Express デバイスが使用されていないときに、消費電力を抑えます。
- ・ Disabled 省電力機能を無効にし、パフォーマンスを優先させます。
- ・ Enabled (標準値) ... PCI Express デバイスが使用されていないときに、消費電力を抑えます。

【 Enhanced C-States 】

Enhanced C-States では、電力消費の低減を設定します。

- ・ Enabled (標準値) ... 電力消費を低減する
- ・ Disabled 電力消費を低減しない

4 PASSWORD—ユーザパスワードの登録／削除をする

パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度登録を行ってください。

【 Not Registered 】

ユーザパスワードが登録されていないときに表示されます (標準値)。

【 Registered 】

ユーザパスワードが登録されているときに表示されます。

 参照 ユーザパスワードの設定方法「本章 4-① ユーザパスワード」

5 HDD PASSWORD—HDDパスワードの登録／削除をする

【 HDD 】

パスワードを設定するハードディスクです。

- ・ Built-in HDD 内蔵ハードディスクに設定されます。

【 HDD Password Mode 】

登録するHDDパスワードを選択します。HDDパスワード(ユーザHDDパスワード、マスタHDDパスワード)を登録していないときのみ、選択できます。HDDパスワードが登録されている場合は、いったんHDDパスワードを削除してから選択してください。

- ・ User Only (標準値) ユーザHDDパスワードのみ設定する
- ・ Master+User マスタHDDパスワードとユーザHDDパスワードを設定する

【 User Password 】

ユーザHDDパスワードを設定します。

【 Master Password 】

マスタ HDD パスワードを設定します。

「HDD Password Mode」が「Master+User」の場合のみ表示されます。

マスタ HDD パスワードを設定し、続けてユーザ HDD パスワードの設定を行います。

参照 → HDD パスワードの設定方法「本章 4-④ HDD パスワード」

6 BOOT PRIORITY—ブート優先順位を設定する

【 Boot Priority 】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。

通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN (標準値)
 - ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN
 - ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
 - ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
 - ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
 - ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD
- 指定のドライブ順に起動する

【 HDD Priority 】

「USB Memory BIOS Support Type」で HDD を選択した場合に、システムを起動する順番を設定します。

- ・ Built-in HDD → USB (標準値) 内蔵ハードディスク → USB フラッシュメモリの順で起動する
- ・ USB → Built-in HDD USB フラッシュメモリ → 内蔵ハードディスクの順で起動する

7 OTHERS—その他の設定をする

【 Core Multi-Processing 】

Core Multi-Processing では、CPU の動作モードを設定します。

- ・ Enabled (標準値) Dual Core モードに設定する
- ・ Disabled Single Core モードに設定する

【 Dynamic CPU Frequency Mode 】

- ・ Dynamically Switchable CPU の消費電力・周波数自動切替え機能を有効にし、使用状況に応じて CPU 周波数を自動的に切り替えます。

- ・ Always High CPUの消費電力・周波数自動切替え機能を無効にし、CPU周波数を高周波数にしてパソコンの処理能力を優先します。
- ・ Always Low CPUの消費電力・周波数自動切替え機能を無効にし、CPU周波数を低い周波数にしてパソコンのバッテリー駆動時間を優先します。

【 Execute-Disable Bit Capability 】

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能を有効にするかどうかを設定します。エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、コンピュータウイルスや不正アクセスによるバッファ・オーバーフロー攻撃からパソコンを守るために、セキュリティを強化する機能です。

- ・ Available 有効にする
- ・ Not Available (標準値) ... 無効にする

【 Virtualization Technology 】

CPUに実装されたIntel Virtualization Technologyの許可／禁止を設定します。Intel Virtualization Technologyとは、1台のマシンを複数の仮想マシンとして動作させる技術です。

- ・ Disabled (標準値) Intel Virtualization Technologyを禁止に設定する
- ・ Enabled Intel Virtualization Technologyを許可に設定する

【 Auto Power On (タイマ・オン機能) 】

自動的にシステムの電源を入れる機能の設定状態を示します。

- ・ Disabled (標準値) Auto Power On機能が設定されていない
- ・ Enabled Auto Power On機能が設定されている

「Alarm Time」と「Alarm Date Option」の機能によって、自動的に電源が入った後は設定が解除されます。

Windowsを使用している場合は「Alarm Time」と「Alarm Date Option」の設定は無効になります。Windowsのタスクスケジューラを使用してください。

Auto Power On機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

時刻の設定は(SPACE)または(BACKSPACE)キーで行います。

時と分の切替えは(↑)(↓)キーで行います。

- ・ Disabled 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。

「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

月と日の切替えは(↑)(↓)キーで行います。

- ・ Disabled 月日を設定しない

● Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。

「PCI LAN」の「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。

Wake up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

電源を切っている状態でも、バッテリーを使っていないときの充電保持時間が別紙の『PORTÉGÉ R400 シリーズ製品仕様表』の表記よりも短くなります。

- ・ Enabled Wake up on LAN 機能を使用する
- ・ Disabled (標準値) ... Wake up on LAN 機能を使用しない

【 Beep Volume 】

警告音（ビーブ音）の音量を設定します。

Off、Low、Medium（標準値）、Highのいずれかを選択できます。

ただし、仕様に合わない増設メモリを取り付けた場合は、設定にかかわらず最大音量でビーブ音が鳴ります。

【 Diagnostic Mode 】

BIOS のハードウェア診断テスト機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Disabled (標準値) ... ハードウェア診断テスト機能を無効にする
- ・ Enabled ハードウェア診断テスト機能を有効にする

8 CONFIGURATION

【 Device Config. 】

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

- ・ Setup by OS (標準値) ... OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置は OS が初期化します。
- ・ All Devices すべての装置を初期化する

プレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」(標準値) を選択することを推奨します。

9 DRIVES I/O

【 Built-in HDD 】

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

10 PCI BUS—PCIバスの割り込みレベルを表示する

【 PCI BUS 】

PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

11 SECURITY CONTROLLER

【 TPM 】

TPM (Trusted Platform Module) を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Disabled (標準値) ... TPM を有効にしない
- ・ Enabled TPM を有効にする

設定を変更するには、次のように操作してください。

- ①カーソルバーを「TPM」の「Disabled」または「Enabled」に合わせ、**(SPACE)** または**(BACKSPACE)**キーを押す
画面下部に「Save changes to Security Controller now? (Y/N)」と表示されます。
- ②**(Y)**キーを押す
設定が変更されます。

【 Clear TPM Owner 】

「TPM」で「Enabled」に設定した場合のみ、表示されます。

所有者登録とユーザ登録を削除します。

本製品を廃棄するときや、譲渡などにより使用者（管理者）を変更するというように、TPMの使用を中止する場合に行ってください。

- ①カーソルバーを「Clear TPM Owner」に合わせ、**(SPACE)**または**(BACKSPACE)**キーを押す
画面下部に「Press a key in the turn of [Y], [E], [S] and [Enter].」と表示されます。
- ②「YES」と入力し**(Y)(E)(S)**キーを押す、**(ENTER)**キーを押す
「TPM」の設定が「Enabled」から「Disabled」に変更され、「Clear TPM Owner」は表示されなくなります。

お願い

- 所有者登録とユーザ登録を削除すると、TPMに関係するセキュリティ機能が使用できなくなります。このため、管理者の権限を持たないユーザが「SECURITY CONTROLLER」を操作できないように設定することをおすすめします。

▶ 参照 管理者以外のユーザの制限について
『Trusted Platform Module 取扱説明書
6 東芝パスワードユーティリティ』

- 所有者登録とユーザ登録を削除した後に、TPMの使用を再開する場合は、もう1度TPMへ所有者登録やユーザ登録を行う必要があります。

12 DISPLAY—表示装置の設定をする

【 Power On Display 】

起動時のWindowsロゴを表示する装置を選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは本体液晶ディスプレイだけに表示する
- ・ LCD + Analog RGB 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示する
- ・ System LCD only 本体液晶ディスプレイだけに表示する

SVGAモードに対応していない外部ディスプレイを接続して、「LCD + Analog RGB」を選択した場合、外部ディスプレイには画面が表示されません。

【 LCD Display Stretch 】

本体液晶ディスプレイの解像度の伸張を選択します。

- ・ Enabled (標準値) ... 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
- ・ Disabled 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

13 PERIPHERAL—HDDや外部装置の設定をする

【 Internal Pointing Device 】

タッチパッドを使用する／使用しないを設定します。

- ・ Enabled (標準値) 使用する
- ・ Disabled 使用しない

14 LEGACY EMULATION

【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値)... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB キーボード / USB マウスが使用できます。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

【 USB-FDD Legacy Emulation 】

- ・ Enabled (標準値)... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

「USB-FDD Legacy Emulation」が「Enabled」に設定されていても、「BOOT PRIORITY」の「Boot Priority」が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

 参照 「BOOT PRIORITY」について 「本項 6 BOOT PRIORITY」

【 USB Memory BIOS Support Type 】

コンピュータの起動時に使用する USB フラッシュメモリに関する設定をします。

- ・ HDD (標準値) USB フラッシュメモリを HDD として扱います。
起動するドライブとしての優先順位は、「Boot Priority」での HDD の順位になります。他の HDD との優先順位は、「HDD Priority」で設定できます。
- ・ FDD USB フラッシュメモリを FDD として扱います。
起動するドライブとしての優先順位は、「Boot Priority」での FDD の順位になります。

15 PCI LAN

【 Built-in LAN 】

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Enabled (標準値)... 有効にする
- ・ Disabled 無効にする

4 パスワードセキュリティ

本製品では、次のパスワードを登録できます。パスワードには大きく分けて次の3種類があります。

- Windows のログオンパスワード

Windows を起動するとき
スクリーンセーバから復帰するとき

- ユーザパスワード／スーパーバイザパスワード

電源を入れたときや休止状態から復帰するとき
ユーザパスワードやスーパーバイザパスワードを登録すると、電源を入れたときなどにパスワードの入力が必要になります。
通常はユーザパスワードを登録してください。

スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、BIOS セットアップの設定を変更できないようにするなど、いくつかの制限を加えることができます。

この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。

- HDD パスワード

ハードディスクを起動するとき

ここでは、ユーザパスワード／スーパーバイザパスワードやHDDパスワードの登録方法について説明します。

メモ

- それぞれのパスワードは、違う文字列を使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

お願い

パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、お近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は有償です。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

使用できる文字	アルファベット (半角)	a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	; : . . (スペース) など
使用できない文字	・ 全角文字 (2バイト文字) ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ (全角/半角)、ひらがな、 日本語入力システムが供給する記号など ・ 記号の一部 (半角) 【例】 (バーチカルライン)、_ (アンダーバー)、 ¥ (エン) など ・ 他のキー ((SHIFT)キーや(CAPSLOCK英数)キーなど) と同時に使用しないと入力できない文字	

パスワード登録時に警告メッセージが出た場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう一度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は、必ずキーボードから1文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザパスワード

ユーザパスワードの登録は、「東芝パスワードユーティリティ」を使用することをおすすめします。

1 ユーザパスワードの登録

東芝パスワードユーティリティでの登録

1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [パスワードユーティリティ] をクリックする

2 [登録] ボタンをクリックする

[ユーザパスワードの登録] 画面が表示されます。

3 [新しいパスワード] の [入力:] 欄にパスワードを入力する

パスワードは 50 文字以内で入力します。

参照 ▶ パスワードに使用できる文字

「本節 - パスワードとして使用できる文字」

入力したパスワードは「***** (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け (ペースト) などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

4 [確認入力:] に手順 3 で入力したパスワードをもう 1 度入力し、 [登録] ボタンをクリックする

[登録] ボタンをクリックする前に [同時に HDD ユーザパスワードに同じ文字列を登録する。] にチェックをつけると、ここで設定したユーザパスワードが HDD パスワードとしても登録することができます。

参照 ▶ HDD パスワード「本節 ④ HDD パスワード」

パスワードが登録されます。

入力エラーのメッセージが表示された場合は、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じ、手順 3 から操作をやり直してください。

パスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。

このファイルをパスワードファイルと呼びます。パスワードファイルを保管しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。

5 パスワードファイルを作成する場合は [OK] ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

[OK] ボタンをクリックすると、[名前を付けて保存] 画面が表示されます。

6 パスワードファイルを作成する

パスワードファイルの保存先は、フロッピーディスクなどの外部記憶メディアを推奨します。あらかじめ用意しておいてください。

- ① メディアをセットする
- ② [保存する場所] で保存先を選択する
- ③ [ファイル名] にファイル名を入力する
- ④ [保存] ボタンをクリックする

手順4で [同時にHDD ユーザパスワードに同じ文字列を登録する。] にチェックをした場合は、再起動をうながすメッセージが表示されます。
[いいえ] ボタンをクリックしてください。

7 必要に応じて、[パスワードの注釈] を入力する

[パスワードの注釈] にはパスワードのヒントとなる文字列を登録できます。登録すると、パソコンの電源を入れてパスワードの入力が必要なときに、登録した文字列が表示されます。

文字は1行につき最大40文字、最大5行目まで登録できます。この範囲外に入力した文字は登録できません。使用できる文字列はユーザパスワードと同様です。

パスワード文字列そのものを登録しないでください。

8 [OK] ボタンをクリックする

手順4で [同時にHDD ユーザパスワードに同じ文字列を登録する。] にチェックをした場合は、電源を切る、または再起動をするとHDDパスワードが登録されます。

お願い

パスワードファイルを保存した外部記憶メディアは、安全な場所に保管してください。

BIOS セットアップでの登録

- 1 BIOS セットアップを起動する
- 2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、**(SPACE)**または**(BACKSPACE)**キーを押す
パスワード入力画面が表示されます。
ユーザパスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。
その場合は、ユーザパスワードを削除してから、登録してください。
- 3 パスワードを入力する
パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。
パスワードは1文字ごとに*が表示されますので、画面で確認できません。
間違えないよう気をつけて入力してください。
- 4 **(ENTER)**キーを押す
1回目のパスワードが確認され、「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。
- 5 もう1度パスワードを入力する
パスワードは手順3と同じパスワードを入力してください。
- 6 **(ENTER)**キーを押す
パスワードが登録され、「Verify Password」が「Registered」に変わって表示されます。
2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。
手順3からやり直してください。

【 BIOS セットアップの終了方法 】

BIOS セットアップの終了方法は、次のとおりです。

- 1 **(FN) + (→)**を押す
本製品では、**(FN) + (→)**が**(END)**キー機能を持ちます。
「Are you sure? (Y/N) The changes you made will cause the system to reboot.」と表示されます。
- 2 **(Y)**キーを押す
設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了します。

2 ユーザパスワードの削除

東芝パスワードユーティリティでの削除

- 1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [パスワードユーティリティ] をクリックする
[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。
パスワードで認証を行ってください。

 参照 → 認証について「本節 ③ パスワードの入力」

- 2 [削除] ボタンをクリックする
[ユーザパスワードの削除] 画面が表示されます。

- 3 [削除] ボタンをクリックする
確認のメッセージが表示されます。

- 4 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする
[ユーザパスワードの削除認証] 画面が表示されます。パスワードで認証を行ってください。

 参照 → 認証について「本節 ③ パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザ権限で行ってください。
確認のメッセージが表示されます。

- 5 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードが削除されます。

BIOS セットアップでの削除

- 1 BIOS セットアップを起動する
- 2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、
(SPACE)または(BACKSPACE)キーを押す
パスワードが入力できる状態になります。
- 3 登録してあるパスワードを入力する
入力すると1文字ごとに*が表示されます。
- 4 (ENTER)キーを押す
[Password] が「New Password」に変わって表示されます。

5 **ENTER** キーを押す

ここでは何も入力しません。

「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 **ENTER** キーを押す

ここでは何も入力しません。

パスワードが削除され、「Verify Password」が「Not Registered」に変わって表示されます。

手順3で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ピーブ音が鳴りエラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

ご購入時の設定では、入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

BIOS セットアップの終了方法は、「本項 1- BIOS セットアップの終了方法」を確認してください。

3 ユーザパスワードの変更

東芝パスワードユーティリティでの変更

- 1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [パスワードユーティリティ] をクリックする
[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。
パスワードで認証を行ってください。

 参照 認証について「本節 ③ パスワードの入力」

- 2 [変更] ボタンをクリックする

[ユーザパスワードの変更] 画面が表示されます。

- 3 [入力:] に新しいパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力できます。

パスワードは「***** (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

**4 [確認入力:] に手順3で入力したパスワードをもう1度入力し、
[変更] ボタンをクリックする**

確認のメッセージが表示されます。

5 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

[ユーザパスワードの変更認証] 画面が表示されます。

パスワードで認証を行ってください。

ここでは、まだパスワードは変更されておられませんので、今回手順3、4で入力したものではなく、登録済みのパスワードを使用してください。

参照▶ 認証について「本節 ④ パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザ権限で行ってください。

**6 パスワードファイルを作成する場合は [OK] ボタンをクリックする
パスワードファイルを作成しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックし
てください。**

パスワードファイルの作成方法は、「本項 1- 東芝パスワードユーティリティでの登録」の手順6を確認してください。

BIOS セットアップでの変更

1 BIOS セットアップを起動する

**2 カーソルバーを「Password」の「Registered」に合わせ、
(SPACE)または(BACKSPACE)キーを押す**

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 (ENTER)キーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

5 新しいパスワードを入力し、(ENTER)キーを押す

「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 手順5で入力したパスワードをもう1度入力し、(ENTER)キーを押す

パスワードが変更されます。

パスワードが変更され、「Verify Password」が「Registered」に変わって表示されます。

手順5と手順6で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順5からやり直してください。

BIOS セットアップの終了方法は、「本項 1- BIOS セットアップの終了方法」を確認してください。

2) スーパーバイザパスワード

「スーパーバイザパスワードユーティリティ」で、Windows 上からスーパーバイザパスワードの設定や設定の変更ができます。なお、BIOS セットアップでは設定できません。

メモ

- パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

起動方法

- 1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 [C:¥Program Files¥TOSHIBA¥PasswordUtility¥TOSPU.exe] と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする
[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。
パスワードを登録している場合はパスワードで認証を行ってください。
- 4 [スーパーバイザパスワード] タブをクリックする

操作方法

【登録、削除、変更】

スーパーバイザパスワードの登録、削除、変更などの設定方法は、「東芝パスワードユーティリティ」でのユーザパスワードの設定方法と同様です。

ユーザパスワードの設定を確認し、画面の指示に従って操作してください。

なお、スーパーバイザパスワードを削除すると、ユーザパスワードも同時に削除されます。

【一般ユーザの操作を制限する】

スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは「東芝HWセットアップ」の設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。

スーパーバイザパスワードを登録した状態で、次の手順を実行してください。

- 1 スーパーバイザパスワード設定用の「東芝パスワードユーティリティ」を起動する
- 2 [スーパーバイザパスワード] タブで [ユーザポリシー] の [変更] ボタンをクリックする
[ユーザポリシーの設定] 画面が表示されます。
- 3 操作を許可する項目をチェックする
- 4 [設定] ボタンをクリックする
- 5 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする
[ユーザポリシーの設定認証] 画面が表示されます。
スーパーバイザパスワードで認証を行ってください。

メモ

(F12)キーを押しながら電源を入れて起動ドライブを選択したい場合は、「東芝パスワードユーティリティ」の [スーパーバイザパスワード] タブで、[ユーザポリシーの設定] 画面の [HWセットアップ/BIOSセットアップの使用を許可する] のチェックをはずさないでください。

チェックをはずしていると、(F12)キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブの選択ができません。

▶ (F12)キーで起動ドライブを変更する方法
[2章 2-3 起動するドライブを変更する場合]

3) パスワードの入力

電源を入れたとき／休止状態から復帰するとき

ユーザパスワードを登録している場合、電源を入れると画面左上に「Password=」と表示されます。

次の方法でパソコン本体を起動できます。

1 登録したとおりにパスワードを入力し、**(ENTER)**キーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入力ミス を 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

【指紋認証を使う】

1 指紋登録した指をディスプレイの下にある指紋センサにのせ、右方向にすべらせる

 参照 指紋認証「本章 5 指紋認証を使う」

東芝パスワードユーティリティを起動したとき

ユーザパスワードを登録している場合、「東芝パスワードユーティリティ」を起動すると、認証を求める画面が表示されます。次の方法で認証を行います。

1 認証を求める画面が表示されたら、パスワードを入力する

Arrow Mode LED、Numeric Mode LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

ご購入時の設定では、パスワードの入力ミス を 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。

電源を入れ直してください。

2 【確認】 ボタンをクリックする

パスワードを忘れてしまった場合

ユーザ／スーパーバイザパスワードを忘れてしまった場合は、次の方法で確認または解除してください。

● パスワードファイルを確認する

電源を入れるときにパスワードが必要になった場合は、本機以外の機器でパスワードファイルを確認してください。

上記の方法でパスワードの確認または解除できなかった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。

パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できるもの）の提示が必要となります。

4 HDD パスワード

HDDパスワードは、ハードディスクを保護するセキュリティ機能です。

HDDパスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOS セットアップで行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

万一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、ハードディスクドライブの交換対応となります。この場合、有償での交換となります。

ハードディスクドライブが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社は一切責任を負いません。

HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいた上でご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDDパスワードは、ユーザHDDパスワードとマスタHDDパスワードの2つを設定することが可能です。

【ユーザHDDパスワード】

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。

マスタHDDパスワードを削除すると、同時にユーザHDDパスワードも削除されます。

【マスタHDDパスワード】

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。

マスタHDDパスワードはユーザHDDパスワードの代わりに使えます。ユーザHDDパスワードを忘れた場合でも、マスタHDDパスワードを入力してハードディスクドライブにアクセスできます。マスタHDDパスワードを使用してユーザHDDパスワードを変更することもできます。

なお、マスタHDDパスワードのみを登録することはできません。

組織などでマスタHDDパスワードを用いた運用を検討した場合、各パソコンのユーザに対してパソコン本体を配布する前に、あらかじめ管理者がBIOSセットアップでマスタHDDパスワードと仮のユーザHDDパスワードを設定しておく必要があります。

ユーザHDDパスワードとマスタHDDパスワードの設定方法は同じです。以降は、ユーザHDDパスワードの設定を例に説明しています。

3 HDDパスワードの登録

マスタHDDパスワード (Master Password) の項目は、BIOSセットアップの「HDD Password Mode」が「Master+User」の場合のみ表示されます。

マスタHDDパスワードを設定し、続けてユーザHDDパスワードの設定を行います。

1 BIOSセットアップを起動する

2 カーソルバーを「User Password」の「Not Registered」に合わせ、(SPACE)または(BACKSPACE)キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 パスワードを入力する

パスワードは 50 文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、ユーザパスワードの場合と同様です。

参照 ユーザパスワードに使用できる文字
「本節 - パスワードとして使用できる文字」

パスワードは 1 文字ごとに * が表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

4 (ENTER) キーを押す

パスワードが確認され、「User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

5 パスワードを入力する

確認のため、手順 3 と同じパスワードをもう 1 度入力してください。

6 (ENTER) キーを押す

パスワードが登録されます。2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 3 からやり直してください

BIOS セットアップの終了方法は、「本章 3-①-2 終了」を確認してください。

メモ

「東芝パスワードユーティリティ」でユーザパスワードを設定している場合、同じパスワードを使えば HDD パスワードを設定することができます。

4 HDDパスワードの削除

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、(SPACE)または(BACKSPACE)キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると 1 文字ごとに * が表示されます。

4 (ENTER) キーを押す

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されません。

手順3で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順2からやり直してください。

5 (ENTER) キーを押す

ここでは何も入力しません。

「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

6 (ENTER) キーを押す

ここでは何も入力しません。

パスワードが削除されます。

手順3で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順2からやり直してください。

BIOS セットアップの「HDD Password Mode」で「Master+User」を選択した場合は、マスタHDDパスワードの削除を行うと、同時にユーザHDDパスワードも削除されます。

ユーザHDDパスワードのみを削除することはできません。

BIOS セットアップの終了方法は、「本章 3-①-2 終了」を確認してください。

5 HDDパスワードの変更

BIOS セットアップの「HDD Password Mode」で選択している状態によって異なります。

【「User Only」の場合】

ユーザHDDパスワードを削除してから、もう1度登録を行ってください。

【「Master+User」の場合】

マスタHDDパスワードを変更する場合は、マスタHDDパスワードを削除してから、もう1度登録を行ってください。マスタHDDパスワードの削除を行うと、同時にユーザHDDパスワードも削除されます。

ユーザHDDパスワードのみ変更する場合は、次の手順を行ってください。

- 1 BIOS セットアップを起動する
- 2 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、**(SPACE)**または**(BACKSPACE)**キーを押す
パスワードが入力できる状態になります。
- 3 登録してあるパスワードを入力する
ユーザHDDパスワードを入力してください。またはユーザHDDパスワードの代わりに、マスタHDDパスワードを入力することもできます。この場合、マスタHDDパスワードを使ってユーザHDDパスワードを変更することができます。
入力すると1文字ごとに*が表示されます。
- 4 **(ENTER)**キーを押す
「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。手順3で入力したパスワードが正しくない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。
- 5 新しいパスワードを入力し、**(ENTER)**キーを押す
「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。
- 6 手順5で入力したパスワードをもう1度入力し、**(ENTER)**キーを押す
パスワードが変更されます。
手順5と手順6で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順5からやり直してください。

BIOS セットアップの終了方法は、「本章 3-①-2 終了」を確認してください。

6 HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れると「HDD Password =」と表示されます。

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

- 1 設定したとおりにHDDパスワードを入力し、**(ENTER)**キーを押す
Arrow Mode LED、Numeric Mode LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
HDDパスワードの入力ミスを経過した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

5 指紋認証を使う

本製品には「指紋センサ」と「指紋認証ユーティリティ（東芝フィンガープリントセキュリティ）」が用意されています。

ここでは、指紋を登録し、指紋認証を行う方法について説明します。

1 指紋認証とは

指紋認証とは、手の指紋の情報をパソコンに登録することにより、パスワードなどの入力に代えて本人であることを証明する機能です。

キーボードからパスワードを入力する代わりに、登録した指を指紋センサ上にすべらせるだけで、次のことが実行できます。

- Windows ログオン
- インターネットのホームページで、パスワードの入力
- スクリーンセーバの解除
- パソコン本体起動時のユーザパスワードまたはHDDパスワードの入力
- スリープからの復帰
- ファイルやフォルダの暗号化

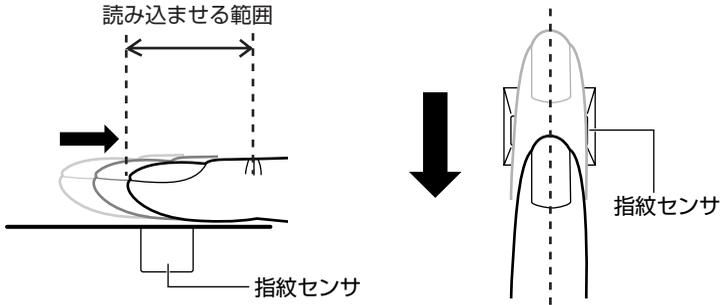
詳しくは「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

お願い

指紋センサは非常に高度な技術で作られておりますので、次の取扱注意事項を守ってご使用ください。特に指紋センサ表面の取り扱いには十分ご注意ください。

- 次のような取扱いをすると故障したり、指紋が認証されない原因になります。
 - ・ 指紋センサ表面を爪などの硬いものでこすったりひっかいたりする
 - ・ 指紋センサ表面を強く押す
 - ・ 濡れた手で指紋センサ表面を触る
指紋センサの表面に水蒸気などをあてず、乾燥した状態に保ってください。
 - ・ 化粧品や薬品、砂や泥などの付いた手で指紋センサ表面を触る
砂などの小さい物でも、指紋センサを傷つける場合があります。
 - ・ 指紋センサ表面にシールなどをはる
 - ・ 指紋センサ表面に鉛筆やボールペンなどで書く
 - ・ 指紋センサ表面を静電気を帯びた手や布などで触る
- 指紋センサをご使用になるときは、次の点にご注意ください。
 - ・ 手が汚れている場合には手を洗い、完全に水分をふき取る
 - ・ 金属に手を触れるなどして、静電気を取り除く
特に空気が乾燥する冬場には注意してください。静電気は指紋センサの故障原因になります。

- ・眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でセンサの汚れをふき取る
このとき、洗剤は使用しないでください。
- ・指と指紋センサが横から見て平行になるように指を置く
- ・指紋センサと指の中央を合わせる
- ・指紋センサの上に第一関節がくるように置く
- ・スライドするときにはゆっくりと一定のはやさでスライドさせる
それでも認識されない場合は、はやさを調整してください。
- ・次の図のように、指を上下や左右にぶれさせず、指紋センサが完全に見える状態になるまで指をすべらせてください。



- 指紋を登録する場合には、認識率向上のために次のような状態の指は避けてください。
 - ・濡れている
 - ・けがをしている
 - ・ふやけている
 - ・荒れている
 - ・汚れている
 指紋の間の汚れや異物を取り除いた状態で登録してください。
 - ・乾燥性の皮膚炎などにかかっている
- 認識率が下がったな、と思ったら次の点を確認してください。
 - ・指紋センサの表面が汚れていないか、確認する
汚れている場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってから使ってください。
指紋センサ表面は強くこすらないでください。故障するおそれがあります。
 - ・指の状態を確認する
傷や手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態など、指紋が磨耗した状態、極端に太った場合など、指紋の登録時と状態が異なると認識できない可能性があります。認識率が改善されない場合には、他の指での再登録をおすすめします。
 - ・指の置きかたに注意する

- その他
 - ・ 2本以上の指を登録することをおすすめします。うまく認識しにくい場合などは、登録しなおすか、他の指を登録してください。
 - ・ 正しくお使いいただいた場合でも、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で、登録・使用ができない場合があります。
 - ・ 指紋認証技術は、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。

2 Windows ログオンパスワードを設定する

「指紋認証ユーティリティ」の設定や登録をするためには、Windows ログオンパスワードを設定しておく必要があります。Windows ログオンパスワードを設定していない場合は、次の手順で設定してください。

すでにWindows ログオンパスワードを設定してある場合は、「本節 ③ 指紋を登録する」に進んでください。

1 設定方法

- 1 [スタート] ボタン→ [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ユーザーアカウントの追加または削除] をクリックする
- 3 設定するユーザアカウントをクリックする
- 4 [パスワードの作成] をクリックする
- 5 [新しいパスワード] にパスワードを入力する

パスワードは半角英数字で、127文字まで入力できます。英字の場合、大文字と小文字は区別されます。入力した文字は「●●●●」で表示されます。指紋認証の利便性、安全性のメリットを生かすために、より長いパスワードを設定してください。登録されたパスワードは、忘れたときのために必ず控えておき、安全な場所に保管してください。

お願い

パスワードがわからなくなった場合、パソコンの管理者アカウントで設定したユーザアカウントが他にあれば、そのアカウントでログオンしてパスワードの再登録ができます。

管理者アカウントで設定した他のユーザアカウントが無い場合は、リカバリをしてください。リカバリをすると、購入した後に作成したデータなどは、すべて消失します。

 参照 ▶ リカバリについて「8章 リカバリをする」

6 (TAB)キーを押す

カーソルが「新しいパスワードの確認」に移動します。

7 もう1度パスワードを入力する

必要であれば、パスワードを忘れたときにパスワードのヒントになる語句を「パスワードのヒントの入力」欄に入力してください。

ヒントを入力しておく、パスワード入力画面でヒントを見ることができません。ヒントを見て思い出すようなパスワードにしておけば、わからなくなる心配はありません。

8 「パスワードの作成」ボタンをクリックする

9 「コンピュータの管理者アカウント」のユーザで「ファイルやフォルダを個人用にしますか？」画面が表示された場合は、「はい、個人用にします」ボタンをクリックする

ファイルやフォルダを共有する場合は、「いいえ」ボタンをクリックしてください。

3 指紋を登録する

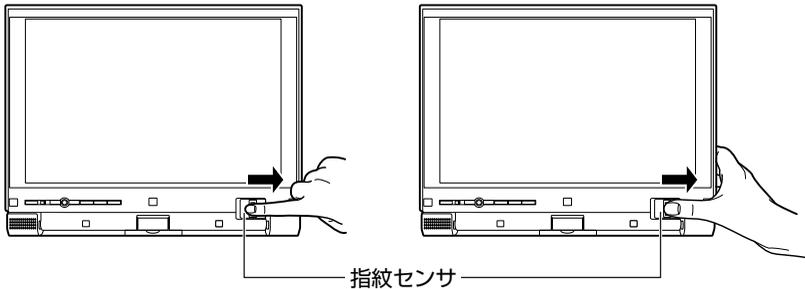
Windows ログオンパスワードを設定したら、「指紋認証ユーティリティ」で、指紋を登録します。次の手順を実行してください。指をけがしたときなどのために、2本以上の指を登録してください。

参照 → 「本節 2 Windows ログオンパスワードを設定する」

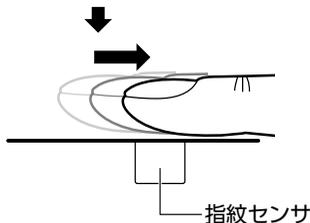
指紋センサには、最大 21 パターンの指紋を登録できます。複数のユーザでパソコンを使用している場合は、全ユーザあわせて 21 パターン登録できます。例えば 1 人で 10 パターンの指紋を登録した場合、他のユーザが登録できるのは、計 11 パターンまでです。

指紋センサに指紋をうまく読み取らせるには

- 1 指紋センサに対して指をまっすぐ出し、指を寝かせた状態で、第 1 関節を軽く指紋センサ中央の上に置く
- 2 第 1 関節から先端にかけて、指のはら部分が指紋センサに触れるように右方向に水平にすべらせる



指先だけで指紋センサに触れると、指紋が認識されない場合があります。第 1 関節から先端にかけて指のはらの部分が指紋センサに触れるように、ゆっくりとスライドさせてください。



1 操作方法

「指紋認証ユーティリティ」でユーザ登録を行います。ユーザ登録では、Windowsのユーザアカウントとそのパスワードを登録した後、そのユーザアカウントでログオンし、認証で使用する指（指紋）を登録します。また、登録したWindowsのパスワードは、「指紋認証ユーティリティ」の各種機能を使用するためのマスタパスワードとしても使用します。

メモ

Windowsパスワードは指紋認証の代わりに使用できますが、指紋のユーザ登録など一部の機能はWindowsパスワードで代用することはできません。

1 指紋を登録するユーザアカウントでログオンする

2 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [Protector Suite QL] → [ユーザー登録] をクリックする

初めて起動したときは、[指紋ソフトウェア使用許諾契約書] 画面が表示されます。内容を確認後、[使用許諾契約書に同意します] をチェックし、[OK] ボタンをクリックしてください。

2回目以降は、[ユーザー登録] 画面が表示されます。

通知領域の [Protector Suite QL] アイコン () をクリックし、表示されたメニューから [指紋を編集] を選択しても [ユーザー登録] 画面を起動することができます。

3 [次へ] ボタンをクリックする



[ユーザーのパスワード] 画面が表示されます。

このとき、すでに指紋を登録してある場合は [パスワード] 画面が表示されます。指紋センサに指紋登録済みの指をすべらせるか、パスワードを入力して [次へ] ボタンをクリックしてください。その場合、手順5へ進みます。

4 [パスワード入力] 欄に Windows ログオンパスワードを入力し①、 [次へ] ボタンをクリックする②



[指紋登録のヒント] 画面が表示されます。

画面に表示される指紋登録のヒントを、よくお読みください。

5 [対話型チュートリアルを実行する] がチェックされていることを確認し①、[次へ] ボタンをクリックする②



[正しい読み取り手順] 画面が表示されます。

6 画面に表示される説明と動画をよく見て、[次へ] ボタンをクリックする

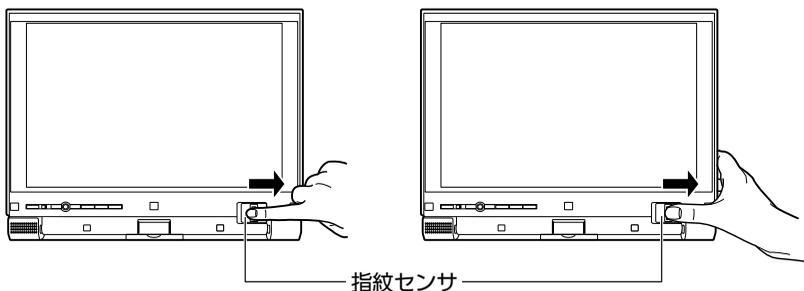
動画は1回再生した後停止しますが、[ビデオ再生] ボタンをクリックするともう1度再生されます。



[スキャンの練習] 画面が表示されます。

7 ディスプレイの下にある指紋センサに指を軽くのせ、右方向にすべらせる

第1関節を指紋センサの上に置き、右方向にすべらせてください。



同じ指を4回認識させてください。指紋センサに指をすべらせると、画面の4つのボックスに、1回ごとの指紋データの読み取り結果が表示されます。このとき「ビデオ再生」ボタンをクリックすると、手順6で見た動画を見ることができます。



4回実行した後、何回かうまく読み取りができなかった場合は、やり直しをすすめるメッセージが画面下部に表示されます。

「やり直し」ボタンをクリックし、もう1度手順7を実行してください。

4回とも指紋データの読み取りに成功すると、「練習問題に合格しましたので、登録する準備ができました。」と画面下部に表示されます。



8 [次へ] ボタンをクリックする

「ユーザーの指紋」画面が表示されます。

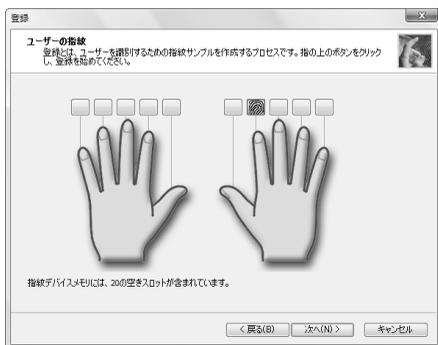
9 登録する指を示すボックスをクリックし、ディスプレイの下にある指紋センサに登録したい指の第1関節を軽くのせ、右方向にすべらせる

体勢によっては親指での認証は難しいので、親指以外の指を登録することをおすすめします。



第1関節を指紋センサの上に置き、右方向にすべらせてください。同じ指を3回読み取らせます。画面中央に読み取り画面が表示され、1回指紋読み取りが成功することにチェックがつきます。

3回とも指紋の読み取りができれば、「成功」と認識画面の下部に表示され、登録した指を示すボックスに指紋イラストが表示されます。



[ユーザーの登録] 画面が表示されてから2分以内に指紋登録を行わないとエラーメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックして、指紋登録を行ってください。

以前登録した指を再び登録した場合は、新しく登録した指紋データで上書きされます。

10 違う指で手順9を繰り返す

最低でも2本の指を登録してください。

11 [次へ] ボタンをクリックする

パスワードの登録をすすめる画面が表示されます。

12 [OK] ボタンをクリックする



[拡張セキュリティ] 画面が表示されます。

13 拡張セキュリティを使用する場合、必要な設定をする

拡張セキュリティ機能を有効にすると、登録したユーザーデータなどを保護キーを使って暗号化し、セキュリティを強化することができます。

この機能を使用しない場合は、[現在のユーザーの拡張セキュリティを有効にする]のチェックをはずし、手順15へ進んでください。

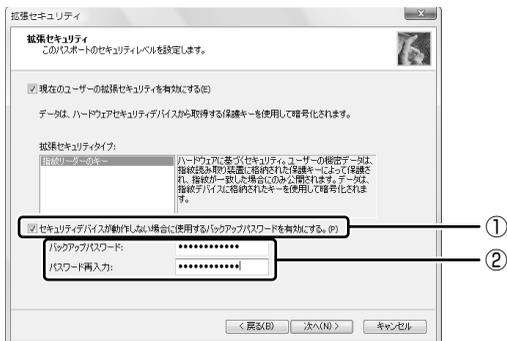
TPMを使用する拡張セキュリティ方式を選択するには、事前にTPMを利用可能な状態にしておく必要があります。TPMを利用可能にしてあると、画面中央の[拡張セキュリティタイプ]にTPMを使う拡張セキュリティ方式が追加されます。

参照 → TPMのインストールと詳細「本章6 TPMを使う」、
『Trusted Platform Module 取扱説明書』

拡張セキュリティ方式を有効にするには [現在のユーザーの拡張セキュリティを有効にする] をチェックし①、[拡張セキュリティタイプ] で使用したい項目を選択してください②。



14 [セキュリティデバイスが動作しない場合に使用するバックアップパスワードを有効にする。] をチェックし①、パスワードを入力する②
 ここでバックアップパスワードを設定しておく、拡張セキュリティを設定している状態で指紋センサがうまく動作しない場合や指紋をうまく読み取れない場合に、キーボードからのパスワード入力で認証させることができます。



拡張セキュリティ機能を使用する場合、バックアップパスワードを設定しておくことを強くおすすめします。推測しにくい、長いパスワードを設定してください。

拡張セキュリティ機能を使用している場合、指紋認証の代わりに使用できるパスワード入力は、次のようになります。

- B : バックアップパスワードで代用
- W : Windows パスワードで代用
- × : パスワード入力による代用不可能

	指紋データ 削除	インポート/ エクスポート	ユーザ設定
バックアップ パスワード有り	B	B	×
バックアップ パスワード無し	W	×	×

いずれも、指紋認証をキャンセルしたときにパスワード入力画面が表示されます。

参照 ▶ 拡張セキュリティ機能の詳細

《指紋認証ユーティリティのヘルプ (検索) : 拡張セキュリティ》

15 [次へ] ボタンをクリックする

[終了] 画面が表示されます。

16 [完了] ボタンをクリックする



指紋登録が完了し、[ようこそ] 画面が表示されます。

さまざまなメニューが表示されるので、知りたい情報をクリックしてお読みください。すぐに読まない場合は、[閉じる] ボタンをクリックして [ようこそ] 画面を終了してください。

4 指紋認証を行う

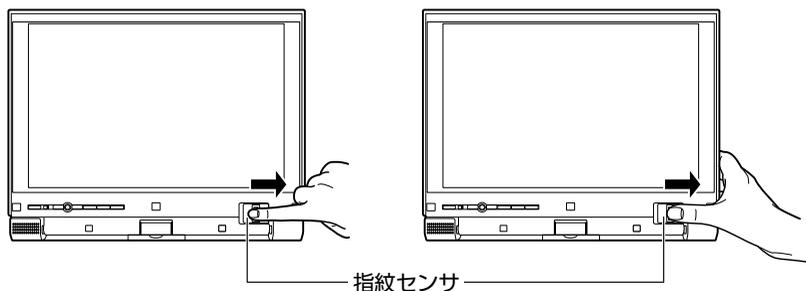
指紋を登録すると、指紋センサに指をスライドさせることで、Windows へログオンできます。また、パソコンを複数のユーザで使用している場合、ユーザの選択も省略できます。

1 操作方法

1 パソコンの電源を入れる

Windows が起動し、ユーザ選択画面が表示されます。

2 指紋登録した指を指紋センサの上のにせ、右方向にすべらせる



指紋が認証されると「成功」と表示され、Windows にログオンします。

指紋認証がうまくいかなかった場合は、警告メッセージが表示されます。また指紋認証を連続して 8 回以上失敗すると、約 1 分の間、指紋認証を使用できなくなります。指紋認証がうまくいかない場合は、ログオンするユーザ名を選択し、キーボードからパスワードを入力して、Windows にログオンしてください。

【複数のユーザアカウントが登録されている場合】

パソコン本体に、複数のユーザアカウントが登録されている場合は、パソコンの電源を入れると、「Swipe finger to ……」というメッセージが表示されます。指紋認証を行い、認証されると「ACCESS GRANTED」と表示され、Windows にログオンします。

2 その他の使いかた

ユーザパスワード／HDDパスワードの代わりに使用する

パソコンの起動時に、ユーザパスワードやHDDパスワードの代わりに、指紋認証を使用することもできます。

【準備】

1 ユーザパスワードやHDDパスワードを登録する

参照 → ユーザパスワード、HDDパスワードの登録方法
「本章 4 パスワードセキュリティ」

2 パワーオンセキュリティの設定をする

パワーオンセキュリティとは、指紋認証をユーザパスワードやHDDパスワードの代わりに使用するための設定です。

参照 → 設定の詳細《指紋認証ユーティリティのヘルプ（検索）：パワーオンセキュリティ》

【指紋認証の操作方法】

1 パソコンの電源を入れる

Windows が起動し、「Swipe finger to ……」というメッセージが表示されます。

キーボードからパスワード入力をしたい場合は、(BACKSPACE)キーを押してください。キーボードからのパスワード入力が可能になります。

2 指紋登録した指を指紋センサの上のせ、右方向にすべらせる

指紋が認証されると「ACCESS GRANTED」と表示され、Windows にログオンします。

ユーザパスワードやHDDパスワードの指紋認証に続けて5回失敗すると、指紋認証ができなくなります。その場合は、キーボードからパスワードを入力してパソコンを起動してください。

お願い

指紋認証に関連するシステム環境や設定が変更された場合、起動時にユーザパスワードやHDDパスワードの入力を求められることがあります。その場合は、キーボードから各パスワードを入力してください。

スクリーンセーバ解除時／スリープからの復帰時に使用する

スクリーンセーバを解除するときや、スリープから復帰するときには指紋認証を求める画面を表示することができます。それぞれ、次の設定をしてあるときに実行できます。

- スクリーンセーバ解除時
[デスクトップのカスタマイズ] の [スクリーンセーバーの変更] で [再開時にログオン画面に戻る] をチェックしてある場合
- スリープからの復帰時
[電源オプション] で [スリープ解除時のパスワード保護] を選択し、[パスワードを必要とする] をチェックしてある場合

指紋データのバックアップをとる

登録してある指紋データをバックアップすることができます。バックアップしておくと、リカバリしたときなどに指紋を再登録しなくてもすみます。また、別のパソコンで指紋認証を使用したいときに、指紋データを登録しなくてもすみます。

参照 ▶ 設定の詳細《指紋認証ユーティリティのヘルプ (検索) : 登録のエクスポート/インポート》

パソコンを捨てるまたは人に譲る場合

パソコンを捨てたり人に譲ったりする前に、登録した指紋データを消去することをおすすめします。

参照 ▶ 指紋データの消去
《指紋認証ユーティリティのヘルプ (検索) : 既存の登録の削除》

メモ

PasswordBank (インターネットのホームページで指紋認証によるID、パスワードを入力する機能) は、Internet Explorer で動作します。

ヘルプの起動方法

- 1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [Protector Suite QL] → [ヘルプ] をクリックする

6 TPMを使う

本製品には、TPM (Trusted Platform Module) が用意されています。

1 TPMとは

TPMは、TCG (Trusted Computing Group) が策定した仕様に準拠したセキュリティコントローラチップです。

一般的に、電子データの保護は暗号処理方式 (暗号アルゴリズム) によるものなので、ハードディスクやメモリなどに保存されている暗号鍵が、暗号解読の攻撃対象になる可能性があります。

TPMではこれらの暗号鍵を、メイン基板に組み込まれたセキュリティチップに保存するので、より安全にデータが保護されます。

また、TPMは公開されている標準化された仕様のため、それに対応したセキュリティソリューションを使用することにより、より強固なPC環境を構築できます。本製品では、TPMの設定は、BIOS セットアップと「Infineon TPM Software Professional Package」で行います。

詳しくは、『Trusted Platform Module 取扱説明書』(PDF マニュアル) とヘルプを参照してください。

お願い 操作にあたって

- 「Infineon TPM Software Professional Package」をインストールすると、Windows ログオンパスワードやユーザパスワードとは別に TPM に対するパスワードを設定する必要があります。設定したパスワードは、忘れたときのために必ず控えておいてください。また控えたパスワードは、安全な場所に保管してください。パスワードがわからなくなった場合、どんな手段でも TPM で保護されたデータを復元することはできません。
- 本製品を修理・保守に出した場合、メイン基板に組み込まれたセキュリティチップ (TPM) 内のデータは保証いたしません。TPM を使用している場合に、本製品を保守・修理に出す際は、必ず前もって外部記憶メディアに最新の緊急時バックアップアーカイブファイルと緊急時復元用トークンファイルをバックアップしておいてください。バックアップしたメディアは、安全な場所に保管してください。データのバックアップに関しては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品を修理・保守に出した場合、搭載されている TPM に障害がなくても TPM が交換される場合があります。その場合、バックアップしておいた緊急時バックアップアーカイブファイルと緊急時復元用トークンを使用して、TPM の設定を復元してください。

- TPM では、最新のセキュリティ機能を提供しますが、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。
- 所有者登録とユーザ登録を削除すると、TPM に関するセキュリティ機能が使用できなくなります。このため、管理者権限を持たないユーザが BIOS セットアップの [SECURITY CONTROLLER] の項目を操作できないように設定することをおすすめします。

参照▶ 管理者以外のユーザの制限について
『Trusted Platform Module 取扱説明書
6 東芝パスワードユーティリティ』

- 所有者登録とユーザ登録を削除した後に、TPM の使用を再開する場合は、もう 1 度 TPM へ所有者登録やユーザ登録を行う必要があります。

2 TPM を有効にする方法

TPM を使用するには、まず BIOS セットアップで TPM を有効に設定する必要があります。

TPM を有効にする方法は、「本章 3-③-11 SECURITY CONTROLLER」を参照してください。

メモ

BIOS セットアップでの TPM に関する設定を、管理者の権限を持たないユーザが変更できないようにすることができます。TPM の設定を守るために、管理者の権限を持たないユーザに操作制限を加えることをおすすめします。

参照▶ 管理者以外のユーザの制限について
『Trusted Platform Module 取扱説明書
6 東芝パスワードユーティリティ』

3 TPM のインストール方法

TPM を有効にした後、「Infineon TPM Software Professional Package」をインストールします。

- 1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール] をクリックする

- 2 [セットアップ画面へ] をクリックする
- 3 [ドライバ] タブをクリックする
- 4 画面左側の [Infineon TPM Software Professional Package] をクリックし、[「Infineon TPM Software Professional Package」のセットアップ] をクリックする
- 5 画面の指示に従ってインストールする
[ファイルのダウンロード] 画面が表示された場合は、[実行] ボタンをクリックしてください。

TPM を使用するための設定や使用方法は、PDF マニュアルとヘルプを参照してください。

4 PDFマニュアルのインストール方法

『Trusted Platform Module 取扱説明書』（PDF マニュアル）のインストール方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート] ボタン→ [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール] をクリックする
- 2 画面のメッセージに従ってインストールする
[ドライバ] タブの [Infineon TPM Software Professional Package] に用意されています。

5 PDFマニュアルの起動方法

『Trusted Platform Module 取扱説明書』（PDF マニュアル）の起動方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート] ボタン→ [すべてのプログラム] → [Trusted Platform Module 取扱説明書] をクリックする

6 ヘルプの起動方法

- 1 通知領域の [Security Platform] アイコン () をクリックし、表示されるメニューから [ヘルプ] をクリックする

7章

困ったときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。

トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1 Q&A 集

1 コントロールパネルを開く

コントロールパネルとは、パソコンのいろいろな設定をまとめたフォルダです。パソコンの設定を変更したいときには、まずコントロールパネルを開き、その中から目的の設定を行うオプション画面を選ぶことがよくあります。

コントロールパネルの開きかたを説明します。

1 [スタート] ボタン→ [コントロールパネル] をクリックする

2 Q&A 集

電源を入れるとき／切るとき	171
Q 電源スイッチを押しても「Power LED」が点灯しない	171
Q 電源が入るがすぐに切れる	
電源が入らない	171
Q 電源を入れたが、システムが起動しない	172
Q 不定期に勝手に電源が入ることがある	172
Q 使用中に前触れもなく、突然電源が切れることがある	173
Q しばらく操作しないとき、電源が切れる	173
Q Windows の起動と同時にプログラムが実行される	174
画面／表示	174
Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった	174
Q 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイのクローン表示時に、 タイマでディスプレイをオフし、再びオンにした場合に、 どちらかのディスプレイに表示されないことがある	175
Q 画面が薄暗く、よく見えない	175
バッテリー駆動で使用する時	176
Q Battery LED がオレンジ色で点滅している	176
Q 充電したバッテリーパックを取り付けても Battery LED がオレンジ色で点滅する	176
キーボード	176
Q キーボードで入力モードを切り替えたい	176
Q キーを押しても刻印された文字と異なる文字が入力される	177
Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった	177
タブレットペン／タッチパッド／マウス	178
Q クリックしても反応がない	178

サウンド機能	178
Q スピーカから音が聞こえない.....	178
Q サウンド再生時に音飛びが発生する	179
Q 内蔵マイクで録音ができない.....	179
通信機能	180
Q 無線 LAN / Bluetooth 機能が使えない	180
周辺機器	180
Q 周辺機器を取り付けているときの電源を入れる順番は？	180
Q 周辺機器を取り付けたが正しく動かない	180
Q 増設メモリが認識されない	181
PC カード	181
Q PC カードが認識されない	181
Q PC カードの挿入は認識されるがデバイスとして認識されない....	181
Q PC カードは認識されるが使用できない	182
USB 対応機器	182
Q USB 対応機器が使えない	182
Q 休止状態から復帰後、USB 対応機器が正常に動作しない	183
アプリケーション	183
Q アプリケーションが操作できなくなった	183
指紋認証	183
Q 指紋の読み取りがうまくいかない.....	183
Q 指にけがをしたため指紋の読み取りができなくなった	184
Q 認識率が下がったら	184
TPM	185
Q 誤って TPM を初期化してしまった	185
Q TPM を使用しているパソコンを、修理・保守に出したい	185

メッセージ	186
Q 「Password=」 と表示された	186
Q 電源を入れたとき、「Swipe finger to authorize access...」 と表示された	186
Q 起動時に「RTC battery is low or CMOS checksum is inconsistent」 「Press[F1]Key to set Date/Time.」 と表示され、Windows が起動しない	187
Q 「パソコン本体の揺れを検出しました。一時的にハードディスクの ヘッドを安全な位置に退避します。」 と表示された	187
Q その他のメッセージが表示された	187
その他	188
Q Disk LED が点滅し、パソコン本体から音がする	188
Q 甲高い音がする	188
Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい	188
Q 内蔵時計が合っていない	189
Q パソコンの処理速度が遅くなった	189
Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある	189
Q 異常な臭いや過熱に気づいた！	189
Q 操作できない原因がどうしてもわからない	190
Q パソコンを廃棄したい	190
Q 海外でパソコンを使いたいときは？	190

【電源を入れるとき／切るとき】

❗ 電源スイッチを押しても「Power LED」が点灯しない

- A** 電源スイッチを押す時間が短いと電源が入らないことがあります。
Power LED が青色に点灯するまで押し続けてください。

❗ 電源が入るがすぐに切れる 電源が入らない

(Battery LED がオレンジ色に点滅している場合)

- A** バッテリーの充電量が少ない可能性があります。
次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用の AC アダプタを接続して、通電する
(他製品用の AC アダプタは使用できません)
- 充電済みのバッテリーパックを取り付ける

▶ 参照 バッテリーの充電について「5 章 1-② バッテリーを充電する」

(DC IN LED がオレンジ色に点滅している場合)

- A** 電源の接続の接触が悪い可能性があります。
バッテリーパックや AC アダプタを接続し直してください。

▶ 参照 バッテリーパックの取り付け／取りはずし
「5 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

▶ 参照 AC アダプタの接続
「1 章 1-① 電源コードと AC アダプタを接続する」

- A** パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。

パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。

また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。

それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。



電源を入れたが、システムが起動しない

- A** 起動ドライブをハードディスクドライブ以外に設定した場合に、システムの入っていないメディアがセットされている可能性があります。

システムが入ってるメディアと取り替えるか、またはメディアを取り出してから、何かキーを押してください。

それでも正常に起動しない場合は、次のように操作してください。

- ① 電源スイッチを5秒以上押して電源を切る
- ② (F12)キーを押しながら電源スイッチを押す
- ③ 表示されたアイコンの中からシステムの入っているドライブ（通常はハードディスクドライブ）を(←)(→)キーで選択し、(ENTER)キーを押す



不定期に勝手に電源が入ることがある

- A** Windows のタスクスケジューラで設定されている可能性があります。

タスクスケジューラで [タスクの実行時にスリープを解除する] に設定されていると、スリープ中や休止状態のときは自動的に電源が入り、設定したタスクを実行します。

次の手順で設定を変更できます。

- ① [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [タスク スケジューラ] をクリックする
- ② 画面左側のコンソールツリーで、設定されているタスクが保存されているフォルダを選択する
- ③ 画面右側上段のコンソールウィンドウで、設定されているタスクをクリックする
- ④ メニューバーの [操作] をクリックし、表示されたメニューから [プロパティ] をクリックする
- ⑤ [条件] タブの [電源] で [タスクの実行時にスリープを解除する] のチェックをはずす
- ⑥ [OK] ボタンをクリックする

- A** パネルスイッチ機能が設定されている可能性があります。

パネルスイッチ機能とは、ディスプレイを閉じると電源を切り、開けると電源スイッチを押さなくても自動的に電源を入れる機能です。

次の手順で、パネルスイッチ機能の設定を解除できます。

- ① [コントロールパネル] を開き、[システムとメンテナンス] をクリックする
- ② [電源オプション] をクリックする
- ③ 画面左側で [カバーを閉じたときの動作の選択] をクリックする

- ④ [カバーを閉じたときの動作] で [何もしない] を選択する
[バッテリー駆動] と [電源に接続] にそれぞれ設定してください。
- ⑤ [変更の保存] ボタンをクリックする

🔊 使用中に前触れもなく、突然電源が切れることがある

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。

パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所へ移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。

また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。

それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。

🔊 しばらく操作しないとき、電源が切れる

A Power LED が点灯している場合、表示自動停止機能が働いた可能性があります。画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

(SHIFT)キーや(CTRL)キーを押す、またはタブレットペン、タッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに 10 秒前後かかることがあります。

A Power LED がオレンジ色に点滅しているか、消灯の場合、自動的にスリープまたは休止状態になった可能性があります。

一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスリープまたは休止状態にするように設定されています。

復帰させるには、電源スイッチを押してください。

また、次の手順で設定を解除できます。

- ① [コントロールパネル] を開き、[システムとメンテナンス] をクリックする
- ② [電源オプション] をクリックする
- ③ 利用する電源プランを選択し、[プラン設定の変更] をクリックする
- ④ [ディスプレイの電源を切る] および [コンピュータをスリープ状態にする] で [なし] を選択する
[バッテリー駆動] と [電源に接続] にそれぞれ設定してください。
- ⑤ [変更の保存] ボタンをクリックする



Windows の起動と同時にプログラムが実行される

- A** [スタートアップ] にプログラムが設定されている可能性があります。
[スタートアップ] は、設定されているプログラムを Windows 起動時に自動的に実行します。
アプリケーションをインストールすると、自動的に [スタートアップ] に登録される場合があります。
次の手順でプログラムを削除できます。
- ① [スタート] ボタンを右クリックし、表示されたメニューから [開く] をクリックする
 - ② [プログラム] フォルダをダブルクリックする
 - ③ [スタートアップ] フォルダをダブルクリックする
[スタートアップ] 画面が表示されます。
 - ④ 削除したいプログラムのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [削除] をクリックする
 - ⑤ 確認画面が表示された場合は、[はい] ボタンをクリックする

【画面／表示】



しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

(Power LED が青色に点灯している場合)

- A** 表示自動停止機能が働いた可能性があります。
画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
(SHIFT)キーや(CTRL)キーを押す、またはタブレットペン、タッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに 10 秒前後かかることがあります。
-
- A** 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。
(FN) + (F5) キーを 3 秒以上押し続けてください。表示装置が本体液晶ディスプレイに切り替わります。



詳細について「4 章 4 外部ディスプレイを接続する」

A 外部ディスプレイを接続してください。

外部ディスプレイをプライマリデバイスに指定して拡張表示の設定をした場合に、スリープ状態のときに外部ディスプレイを取りはずすと、スリープから復帰したときに画面が表示されません。

外部ディスプレイを取りはずす際は、スリープ状態や休止状態ではなく、電源を切ってから行ってください。



本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイのクローン表示時に、タイマでディスプレイをオフし、再びオンにした場合に、どちらかのディスプレイに表示されないことがある

A (FN)+(F5)キーを押し、本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイのクローン表示に再設定してください。

画面が薄暗く、よく見えない

A (FN)+(F7)キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください。

逆に、(FN)+(F6)キーを押すと、本体液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。

(FN)キーで本体液晶ディスプレイの輝度を変更した場合、パソコンの電源を切ったり再起動したりすると、設定はもとに戻ります。

A 本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度が低く設定されている可能性があります。「電源オプション」には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。詳細は、「電源オプション」のヘルプを参照してください。

購入時の設定では、ACアダプタ接続時の明るさレベルは「レベル8」（最高輝度）に、バッテリー駆動時の明るさレベルはバッテリーの残容量に応じて「レベル4」に設定されています。

次の手順で設定を変更してください。この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

- ① [コントロールパネル] を開き、[システムとメンテナンス] をクリックする
- ② [電源オプション] をクリックする
- ③ [プラン設定の変更] をクリックする
- ④ [ディスプレイの輝度を調整] のスライダーバーを左右にドラッグする
- ⑤ [変更の保存] ボタンをクリックする

【バッテリー駆動で使用するとき】

Q Battery LED がオレンジ色で点滅している

A バッテリーの充電量が残り少ない状態です。

ただちに次のいずれかの対処を行ってください。

- パソコン本体に AC アダプタを接続し、通電する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り替える

対処しないと、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。データはこまめに保存しておいてください。

参照 → バッテリーの充電方法「5章 1-② バッテリーを充電する」

Q 充電したバッテリーパックを取り付けても Battery LED がオレンジ色で点滅する

A バッテリーパックは使わずにいても充電量が少しずつ減っていきます。

もう1度充電してください。

それでも状態が変わらない場合は、パソコン本体が故障していると考えられます。保守サービスに連絡してください。

参照 → バッテリーの充電量について「5章 1-① バッテリー充電量を確認する」

【キーボード】

Q キーボードで入力モードを切り替えたい

A 次のショートカットキーを利用して入力モードを変更できます。

- (SHIFT) + (CAPS LOCK 英数) キー：大文字ロック状態
- (CTRL) + (CAPS LOCK 英数) キー：カナロック状態
- (ALT) + (カナ/かな) キー：ローマ字入力/かな入力
- (FN) + (F10) キー：アロー状態
- (FN) + (F11) キー：数字ロック状態

参照 → 「3章 2 キーボード」



キーを押しても刻印された文字と異なる文字が入力される

A キーボードドライバの設定が正しくない可能性があります。

次の手順でドライバを再設定してください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[システムとメンテナンス] をクリックする
- ② [デバイス マネージャ] の [デバイス ドライバの更新] をクリックする
[デバイス マネージャ] 画面が表示されます。
- ③ [キーボード] をダブルクリックする
- ④ 表示されたキーボードドライバ名をダブルクリックする
キーボードのプロパティ画面が表示されます。
- ⑤ [ドライバ] タブで [ドライバの更新] ボタンをクリックする
[ドライバ ソフトウェアの更新] 画面が表示されます。
- ⑥ [コンピュータを参照してドライバ ソフトウェアを検索します] をクリックする
- ⑦ [コンピュータ上のデバイスドライバの一覧から選択します] をクリックする
- ⑧ [互換性のあるハードウェアを表示] のチェックをはずす
[製造元] と [モデル] の一覧が表示されます。
- ⑨ [製造元] から [(標準キーボード)]、[モデル] から [日本語 PS/2 キーボード (106/109 キー)] を選択して、[次へ] ボタンをクリックする
[ドライバの更新警告] 画面が表示されます。
- ⑩ [はい] ボタンをクリックする
ドライバがインストールされ、「ドライバソフトウェアが正常に更新されました。」という画面が表示されます。
- ⑪ [閉じる] ボタンをクリックする
- ⑫ キーボードのプロパティ画面で [閉じる] ボタンをクリックする
[システム設定の変更] 画面が表示され、「今コンピュータを再起動しますか?」というメッセージが表示されます。
- ⑬ [はい] ボタンをクリックする
「次のプログラムが実行中です:」という画面が表示された場合は、内容を確認し [今すぐ再起動] ボタンをクリックしてください。
パソコンが再起動します。



キーボードに飲み物をこぼしてしまった

- A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、保守サービスに相談してください。

【タブレットペン／タッチパッド／マウス】

* マウスは別売りです。

Q クリックしても反応がない

- A** システムが処理中の可能性があります。
ポインタが輪の形 (○) をしている間は、システムが処理中のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けけないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。
-
- A** マウスが正しく接続されていない可能性があります。
マウスとパソコン本体が正しく接続されてないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。
-
- A** タッチパッドのみ操作を受け付けけない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。
次の手順でタッチパッドを有効に切り替えてください。
- ① (FN) + (F9) キーを押す
[タッチパッド] のカードが表示されます。
 - ② (FN) キーを押したまま (F9) キーを押し直し、[有効] アイコンが大きい状態で指をはなす

【サウンド機能】

Q スピーカから音が聞こえない

- A** ヘッドホン出力端子からヘッドホンを取りはずしてください。
-
- A** パソコン本体のデジタルボリュームで音量を調節してください。
-
- A** スピーカの設定がミュート（消音）になっている可能性があります。
次の手順でミュートを解除してください。
- ① (FN) + (ESC) キーを押す
[ミュート] のカードが表示されます。
 - ② (FN) キーを押したまま (ESC) キーを押し直し、[ミュート オフ] アイコンが大きい状態で指をはなす

A 標準の [優先するデバイス] が変更されている可能性があります。

次の手順で設定を変更してください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[ハードウェアとサウンド] をクリックする
- ② [サウンド] の [システム音量の調整] をクリックする
[音量ミキサ] 画面が表示されます。
- ③ メニューバーの [デバイス] をクリックし、表示されたメニューから優先するデバイスを選択する
- ④ [閉じる] ボタンをクリックする

A 上記の操作を行っても音量が変わらなければ、標準のサウンドドライバが壊れているか、誤って消去された可能性があります。

サウンド用デバイスドライバを再インストールしてください。



参照 ▶ ドライバの再インストール

[8章 4 アプリケーションを再インストールする]

**サウンド再生時に音飛びが発生する****A** PC カード接続のハードディスクドライブまたはドライブの動作中にサウンドの再生を行うと、音飛びが発生する場合があります。**内蔵マイクで録音ができない****A** [オーディオデバイスの管理] でマイクが無効になっている可能性があります。

次のように設定してください。

- ① [スタート] ボタン → [コントロールパネル] をクリックする
- ② [ハードウェアとサウンド] → [オーディオデバイスの管理] をクリックする
- ③ [録音] タブで [プロパティ] ボタンをクリックする
- ④ [全般] タブの [デバイスの使用状況] で [このデバイスを使用する (有効)] を選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする

【通信機能】

Q 無線 LAN / Bluetooth 機能が使えない

A 無線通信機能が Off になっている可能性があります。

次のいずれかの操作を行ってください。

- ワイヤレスコミュニケーションスイッチが Off の場合は On にしてください。
- 無線 LAN の場合は、「ConfigFree」でデバイスを有効に切り替えてください。
次の操作を行ってください。

- ① 通知領域の [ConfigFree] アイコンをクリックする
「デバイス」の下に表示されている項目が、使用できるデバイスです。
 - ② 有効にしたいデバイスにポインタを合わせ、表示されたメニューから [有効] をクリックする
- 次の手順で使用する無線通信機能を有効に切り替えてください。
 - ① (FN) + (F8) キーを押す
 - ② (FN) キーを押したまま (F8) キーを押し直し、使用する無線通信機能のアイコンが大きい状態で指をはなす

【周辺機器】

周辺機器については「4 章 周辺機器の接続」、『周辺機器に付属の説明書』もあわせて確認してください。

Q 周辺機器を取り付けているときの電源を入れる順番は？

A 周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れてください。

USB 対応機器など、周辺機器によっては、パソコン本体が起動した後に電源を入れても使うことができるものがあります。

Q 周辺機器を取り付けたが正しく動かない

A パソコン本体が周辺機器を、「新しいハードウェア」として認識していない可能性があります。

次の手順で [ハードウェアの追加ウィザード] を実行してください。

- ① [コントロールパネル] を開き、画面左の [クラシック表示] をクリックする
- ② [ハードウェアの追加] をダブルクリックする
[ハードウェアの追加ウィザード] が起動します。
- ③ [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

-
- A** 接続ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。
接続ケーブルを正しく接続し直してください。
-

- A** システム（OS）に対応していない可能性があります。
周辺機器によっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。
Windows Vista に対応しているか確認してください。

増設メモリが認識されない

- A** メモリを増設しても「東芝PC診断ツール」などでメモリ容量の数値が変わらなかった場合、パソコンが増設メモリを認識していない可能性があります。
「4章 6 メモリを増設する」を参照して、増設メモリを取りはずしてから、もう1度取り付けてください。

【PCカード】

PCカードが認識されない

- A** PCカードが奥までしっかり差し込んであるか確認してください。
 **参照** PCカードの接続について「4章 2 PCカードを使う」

PCカードの挿入は認識されるがデバイスとして認識されない

- A** PCカードによっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。
Windows Vista に対応しているか、『PCカードに付属の説明書』を確認してください。
-
- A** 本製品は Windows 専用モデルです。コマンドプロンプト上での PC カードの使用はサポートしていません。



PC カードは認識されるが使用できない

A IRQ が不足している可能性があります。

次の手順で使用しないデバイスを [デバイスマネージャ] で使用不可にしてください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[システムとメンテナンス] をクリックする
- ② [デバイス マネージャ] をクリックする
[デバイス マネージャ] 画面が表示されます。
- ③ 使用しない装置の種類をダブルクリックする
- ④ 表示される項目から使用しないデバイスを右クリックし、[無効] をクリックする
- ⑤ メッセージが表示されたら [はい] ボタンをクリックする
- ⑥ [デバイス マネージャ] を閉じる

【USB 対応機器】



USB 対応機器が使えない

A ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。

ケーブルを正しく接続し直してください。

 参照 接続について「4 章 3 USB 対応機器を接続する」

A USB 対応機器の電源が入っているか確認してください。

A 何らかの原因で、システム (OS) が正しく USB 対応機器を認識していない可能性があります。

Windows を再起動してください。

A ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。

次の手順でインストールしてください。

- ① [コントロールパネル] を開き、画面左の [クラシック表示] をクリックする
- ② [ハードウェアの追加] をダブルクリックする
[ハードウェアの追加ウィザード] が起動します。
- ③ [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

❗ 休止状態から復帰後、USB 対応機器が正常に動作しない

- A** 休止状態に対応していないUSB 対応機器を接続している可能性があります。USB 対応機器をUSB コネクタから取りはずし、もう1度接続してください。それでもUSB 対応機器が正常に動作しない場合は、パソコンを再起動してください。

【アプリケーション】

❗ アプリケーションが操作できなくなった

- A** アプリケーション使用中に操作できなくなった場合は、次の手順でアプリケーションを強制終了してください。
- 終了後、もう1度アプリケーションを起動してください。この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。
- ① **(CTRL) + (SHIFT) + (ESC)** キーを押す
[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。
または Windows セキュリティタブレットボタンを押し、[タスクマネージャの起動] をクリックしてください。
 - ② [アプリケーション] タブで [応答なし] と表示されているアプリケーションをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、**(↑) (↓)** キーで選択し、**(ENTER)** キーを押してください。
 - ③ [タスクの終了] ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、**(ALT) + (E)** キーを押してください。
アプリケーションが終了します。

【指紋認証】

❗ 指紋の読み取りがうまくいかない

- A** もう一度正しい姿勢で操作してください。
詳しい操作方法は、「6章 5 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

A 登録してあるもう 1 本の指で読み取りを行ってください。

A どうしてもうまくいかない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。

詳しい操作方法は「6章 5 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

Q 指にけがをしたため指紋の読み取りができなくなった

A 登録してあるもう 1 本の指で読み取りを行ってください。

A 登録したすべての指の指紋が読み取れない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。

詳しい操作方法は「6章 5 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

Q 認識率が下がったら

A 指紋センサの表面がよごれていないか確認してください。

よごれている場合には、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってからもう一度指紋認証を行ってください。

参照▶ 詳細について「6章 5 指紋認証を使う」

A 指の状態を確認してください。

指に傷があったり、手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態など、指紋登録時と状態が異なると認識できない場合があります。認識率が改善されない場合は、他の指で登録してください。

参照▶ 詳細について「6章 5 指紋認証を使う」

A 指の置きかたを確認してください。

指を指紋センサと平行になるように置き、指紋センサに指の中央を合わせてください。指紋センサの上に第一関節がくるように置き、スライドするときはゆっくりと一定の速さでスライドしてください。それでも認証できない場合は、指をスライドさせる速さを調整してください。

参照▶ 詳細について「6章 5 指紋認証を使う」

【TPM】



誤ってTPMを初期化してしまった

A 緊急時バックアップアーカイブファイルと緊急時復元用トークンファイルを使用して、TPMの設定を復元してください。



TPM 『Trusted Platform Module 取扱説明書』



TPMを使用しているパソコンを、修理・保守に出したい

A TPMを使用している場合、修理・保守に出す前に、次の項目を実行または確認してください。

- ・ハードディスクドライブの必要なデータをバックアップにとる
- ・PSDの内容を、別途外部記憶メディアにバックアップをとる
- ・ハードディスクドライブに緊急時バックアップアーカイブファイルを作っている場合は、外部記憶メディアにバックアップをとる
- ・Security Platform 初期化ウィザード設定時に作成した緊急時復元用トークンファイルがあるか確認する
- ・控えておいた「所有者パスワード」、「緊急時復元用トークン」用のパスワードを確認する

なお、修理・保守に出すと、TPMに故障がなくても、TPMが交換される場合があります。

交換されたり、TPMが初期化された場合、Windowsにログオンした後（ハードディスクドライブには障害や問題がなくWindowsへログオンできる場合）、通知領域の[Security Platform]アイコンにTPMが初期化されていない内容のメッセージが表示されます。

その場合は、緊急時バックアップアーカイブファイル、緊急時復元用トークンファイルを使って、TPMの設定を復元してください。



TPM 『Trusted Platform Module 取扱説明書』

保守サービスについては、「9章 2 アフターケアについて」と『サポートガイド』を確認してください。

【メッセージ】

Q 「Password=」と表示された

A パスワードによる認証が必要です。

次の操作を行ってください。

パスワードを入力し、(ENTER)キーを押す

あらかじめ「東芝パスワードユーティリティ」でパスワードファイルを外部記憶メディアに保存しておく、パスワードを忘れた場合に確認できます。他のパソコンの「メモ帳」などでパスワードファイルを開き、確認したパスワードを入力してください。

上記の方法を実行できない場合は、使用している機種を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

 参照 パスワードについて「6章 4 パスワードセキュリティ」

Q 電源を入れたとき、「Swipe finger to authorize access...」と表示された

A 指紋認証が必要です。

「指紋認証ユーティリティ」でパワーオンセキュリティを有効に設定していると、パスワードを設定している場合に表示される「Password =」というメッセージの代わりに、指紋認証を行う画面が表示されます。

指紋認証を行ってください。

認証を5回失敗する、または(BACKSPACE)キーを押すと、「Password =」が表示されます。

指紋認証について詳しくは、「6章 5 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。



起動時に「RTC battery is low or CMOS checksum is inconsistent」 「Press [F1] key to set Date/Time.」と表示され、Windows が起動しない

A 時計用バッテリーが不足しています。

時計用バッテリーは、AC アダプタを接続し電源を入れているときに充電されます。

参照▶ 時計用バッテリーについて「5章 1-①-3- 時計用バッテリー」

AC アダプタを接続後、次の手順で BIOS セットアップの日付と時刻を設定してください。

- ① **(F1)** キーを押す
BIOS セットアップ画面が表示されます。
- ② BIOS セットアップの [Date] と [Time] で日付と時刻を設定する

参照▶ 日付と時刻の設定方法について
「6章 3-③-2 SYSTEM DATE/TIME」

- ③ **(FN) + (→)** キーを押す
確認のメッセージが表示されます。
- ④ **(Y)** キーを押す
BIOS セットアップが終了します。
パソコンが再起動します。



「パソコン本体の揺れを検出しました。一時的にハードディスクのヘッドを安全な位置に退避します。」と表示された

A パソコン本体に加わった振動・衝撃およびその前兆を検出し、ハードディスクが損傷する危険性を軽減する機能が働きました。

[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

この機能は東芝 HDD プロテクションといい、パソコンの使用状況に合わせて検出レベルを設定できます。

参照▶ 東芝 HDD プロテクション
「3章 8-② 東芝 HDD プロテクションについて」



その他のメッセージが表示された

A 使用しているシステムやアプリケーションの説明書を確認してください。

【その他】

Q Disk LEDが点滅し、パソコン本体から音がする

A ハードディスクが自動保存を行っています。

パソコン操作中は、自動的にデータの保存などの内部作業が行われています。

ハードディスクが動作する音が聞こえますが、問題はありません。

極端に異常な音が聞こえるなど、おかしいと思われる状態が発生したときは、保守サービスに相談してください。

Q 甲高い音がする

A ハウリングを起こしています。

ハウリングとは、スピーカから出た音がマイクに入り再びスピーカに返されることで、音が増幅し発生する高く大きな音のことです。

使用するアプリケーションによっては、外部マイクとスピーカとでハウリングを起こすことがあります。

次の方法で調整してください。

- 外部マイクをパソコン本体から遠ざける
- パソコン本体のデジタルボリュームで音量を調整する
- 使用しているソフトウェアの設定を変える
- 音量ミキサで音量を調整する

▶ 参照 デジタルボリューム、音量ミキサについて「3章 9 サウンド機能」

- 内蔵マイクを使用している場合、内蔵マイク部分をふさがない

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルタを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

🗨️ 内蔵時計が合っていない

A 次の手順で「日付と時刻」を修正してください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[時計、言語、および地域] をクリックする
- ② [日付と時刻] をクリックする
- ③ [日付と時刻] タブで [日付と時刻の変更] ボタンをクリックする
- ④ [時刻] に表示されている、デジタル時計の数字の部分をクリックする
「時：分：秒」で項目が分かれているので、変更したい部分をクリックしてください。
- ⑤ デジタル時計の右端にある ▲ ▼ ボタンで、時刻の修正を行う
- ⑥ [OK] ボタンをクリックする

A 長い間パソコンを使用しないと時計用バッテリーの充電が不十分になります。

パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を入れて時計用バッテリーを充電してください。

A 充電してもしばらくすると内蔵時計が合わなくなる場合は、時計用バッテリーの充電機能が低下している可能性があります。

保守サービスに連絡してください。

🗨️ パソコンの処理速度が遅くなった

A ハードディスクの空き容量が少なくなり、処理速度が遅くなった可能性があります。

不要なファイルなどを削除して、ハードディスクの空き容量を増やしてください。

🗨️ コンピュータウイルスに感染した可能性がある

A ウイルスチェックソフトでウイルスチェックを行い、ウイルスが発見された場合は駆除してください。

🗨️ 異常な臭いや過熱に気づいた！

A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。安全を確認してバッテリーパックをパソコン本体から取りはずしてから保守サービスに相談してください。

なお、連絡の際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

❓ 操作できない原因がどうしてもわからない

A アプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのお問い合わせ先に問い合わせてください。

A パソコン本体のトラブルの場合は、『サポートガイド』に記載のお問い合わせ先に連絡してください。

A 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口にお問い合わせください。

▶ 参照 周辺機器の問い合わせについて『周辺機器に付属の説明書』

❓ パソコンを廃棄したい

A 本製品を廃棄するときは、家庭で使用している場合と企業で使用している場合は廃棄方法が異なります。

また、ハードディスクのデータを消去する必要があります。

▶ 参照 廃棄について「9章 3 廃棄・譲渡について」

❓ 海外でパソコンを使いたいときは？

A 次の点に気をつけてください。

1 お使いになる国／地域の電源プラグの形状を確認する

● ACアダプタ

本製品のACアダプタは、100～240Vの電圧に対応しているので、この範囲内の電圧の国／地域で使用できます。

本製品に付属されているACアダプタは基本的に世界中の国／地域*¹で使用できます。

* 1 一部の国の特定地域では、使用できない場合があります。

● 電源コード

電源コード（電源プラグからACアダプタまでのケーブル）は、日本、アメリカ合衆国の法令、安全規格に適合しています。

その他の国／地域でお使いになる場合は、使用電圧や電源プラグの形状が異なりますので、お使いになる国／地域の法令・安全規格に適合する電源コード（市販品）をご用意ください。

▶ 参照 ACアダプタ、電源コード、電源プラグについて
「1章 1-① 電源コードとACアダプタを接続する」

2 通信関係の確認をする

● 無線 LAN

国／地域によっては、無線 LAN 装置の使用に認可が必要です。本製品は出荷時に認可を受けていますが、すべての国／地域の認可は受けていません。「付録 2 無線 LAN について」やカタログ、または対応する国／地域を記載したシートで、使用できる国／地域を確認してください。

それ以外の国／地域で本製品を使用する場合は、その国／地域に対応した機器（市販品）を使用するか、無線 LAN 機能の使用はお控えください。東芝製オプションはありません。各国／地域に適合した機器をご購入ください。

3 必要なものを準備する

- オンラインマニュアル（本書）を印刷したもの、またはセットアップガイド
- 保証書

リカバリをする必要が生じたときのために、オンラインマニュアル（本書）を印刷したもの、またはセットアップガイドをお持ちください。

 リカバリについて「8章 リカバリをする」

故障したときのために、保証書と購入時のレシート*¹をお持ちください。ILW（International Limited Warranty）は海外の所定の地域*²で ILW の制限事項・確認事項の範囲内で、修理サービスがご利用いただける、東芝の制限付海外保証制度です。保証書が ILW の保証書を兼ねています。ILW についての詳細は、『サポートガイド』も参照してください。

* 1 保証書にお買い求めの販売店の捺印と購入日が明記されていれば、必要ありません。

* 2 ILW 対象地域の一部地域では、法律により輸出入が規制されている部品・役務があります。規制に該当する場合は、サービス対象外となりますのであらかじめご了承ください。

8章

リカバリをする

これまでに説明してきたトラブル解消方法では解決できないとき、最後に行うのが「リカバリ」です。リカバリを行うことで、システムを購入時の状態に復元できます。作成したデータなどが消去されますので、よく読んでから行ってください。

-
- 1 リカバリをする前に 194
 - 2 リカバリディスクを作る 196
 - 3 リカバリをする 200
 - 4 アプリケーションを再インストールする 213

1 リカバリをする前に

システムやアプリケーションを購入時の状態に復元することをリカバリといいます。

1) リカバリが必要なとき

パソコンの調子がおかしいと思ったときには、「7章 困ったときは」で解消へのアプローチを確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。

それでも、解消できないときにリカバリしてください。

- ハードディスクをフォーマットしてしまった
- ハードディスクにあるシステムファイルを削除してしまった
- 電源を入れても、システム（Windows）が起動しない

2) 準備

データのバックアップをとる

リカバリをすると、ハードディスク内に保存されていたデータは、すべて消えてしまいます。購入後に作成したファイルなど、必要なデータは、あらかじめ外部記憶メディアにバックアップをとってください。

また、リカバリ後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。

ただし、ハードディスクをフォーマットしたり、システムファイルを削除した場合や、電源を入れてもシステムが起動しなくなってしまう場合は、バックアップをとることができません。

また、リカバリを行っても、ハードディスクに保存されていたデータは復元できません。

各種設定を確認する

インターネットやLANの設定、Windows ログオン時のアカウント名などの設定項目を、メモなどに控えておいてください。ウイルスチェックソフトなど、有償で購入した認証キーなどがセットアップ時に必要なアプリケーションは、それらの番号を控えておいてください。確認方法は各アプリケーションのヘルプやお問い合わせ先にご確認ください。

音量を調節する

リカバリ後、Windows セットアップが終了するまで音量の調節はできません。あらかじめ、デジタルボリュームで音量を調節してください。(FN)+(ESC)キーを使って、内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にしている場合は、もう一度(FN)+(ESC)キーを押して元に戻しておいてください。

周辺機器をすべて取りはずす

増設メモリやUSB 対応機器など、パソコン本体に取り付けている物は、ACアダプタのケーブル以外すべて取りはずしてください。このとき、パソコン本体の電源を切ってから行ってください。

お願い

市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、リカバリができなくなることがあります。

必要なもの

- オンラインマニュアル（本書）を印刷したもの、またはセットアップガイド
- リカバリディスク（作成したリカバリディスクからリカバリをする場合）

2 リカバリディスクを作る

パソコン本体には、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元するためのリカバリ（再セットアップ）ツールが内蔵されています。[TOSHIBA Recovery Disc Creator] を使ってリカバリディスクを作成し、あらかじめ、リカバリツールのバックアップをとっておくことをおすすめします。

何らかのトラブルでハードディスクからリカバリできない場合でも、リカバリディスクからリカバリをすることができます。

リカバリディスクがない状態で、ハードディスクからリカバリが行えない場合は、修理が必要になる可能性があります。

サポートするドライブ

リカバリディスクの作成には、別売りのCD / DVD ドライブが必要です。本製品では、次のドライブをサポートしています。

- CD-R/RW&DVD-ROM ドライブ IPCS111A

リカバリディスクを作成できるメディア

[TOSHIBA Recovery Disc Creator] では、次のメディアを使用できます。作成するメディアの種類は、[TOSHIBA Recovery Disc Creator] 画面の [ディスク構成] で確認できます。

- CD-R
- CD-RW

CD メディアは、650MB 以上の容量のものをご使用ください。

あらかじめバックアップ用のメディアを用意してください。[TOSHIBA Recovery Disc Creator] 画面で表示されるディスク番号が、必要な枚数です。複数枚使用する場合は、同じ規格のメディアで統一してください。

お願い メディアについて / メディアの使用推奨メーカー

* 使用できるメディアについては、『CD / DVD ドライブに付属の説明書』を確認してください。

- 推奨するメーカーのメディアを使用してください。
- 書き込み速度に対応したメディアを使用してください。
- 規格に準拠したメディアを使用してください。

お願い リカバリディスクの作成にあたって

- 「TOSHIBA Recovery Disc Creator」を使ってリカバリディスクを作成するときは、他のアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。

お願い CDに書き込む前に

リカバリディスクの作成を行うときは、市販のライティングソフトウェアは、使用しないでください。

リカバリディスクの作成を行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗したCDの損害については、当社は一切その責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CDに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スリープ、休止状態、シャットダウン、再起動を実行しないでください。

参照▶ 省電力機能について 「5章 2 省電力の設定をする」

お願い 書き込みを行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

参照▶ 周辺機器について 「4章 周辺機器の接続」

- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。

リカバリツールのリカバリディスクを作成するには、以降の説明を参照してください。

1 CD/DVDドライブを接続する

1 パソコン本体に、ACアダプタと電源コードを接続する

2 CD/DVDドライブを接続する

接続方法は『CD/DVDドライブに付属の説明書』を確認してください。

2 起動方法

1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [リカバリディスク作成ツール] をクリックする

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」が起動します。



タイトル

チェックボックスにチェックがついている () ディスクを作成します。
 をクリックすると作成するディスクの一覧が表示されます。

ディスク構成

作成するディスクのメディアの種類を選択することができます。

(表示例)

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」で作成するディスクは、画面に表示される枚数分、メディアが必要になります。

3 リカバリディスクを作成する

1 [ディスク構成] でメディアの種類を選択する

作成するメディアの種類に合わせて選択してください。

選択項目が1種類しか用意されていない場合は、手順1は必要ありません。

手順2に進んでください。

2 [タイトル] で作成するディスクをチェックする

チェックボックスにチェックがついているディスクを作成します。作成する必要のないディスクは、チェックをはずしてください。

3 メディアをセットする

4 [作成] ボタンをクリックする

CDメディアの場合は「リカバリ CD 1 を作成します。」と表示されます。

5 [OK] ボタンをクリックする

リカバリディスクの作成が開始され、[現在のディスク] に作成しているディスクの進捗状況が表示されます。

ディスクの作成が終了すると、メッセージが表示されます。

作成するディスクが複数枚ある場合は、メッセージに従ってメディアを入れ替えてください。

ディスクの作成を途中で中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

6 メッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

作成したディスクの種類（リカバリディスクなど）と番号がわかるように、ディスク作成後は、忘れずに「XXXXXX ディスク XX」とレーベルをつけてください。リカバリをするとき、この番号どおりにディスクを使用しないと、正しくリカバリされません。必ずディスク番号がわかるようにレーベルをつけてください。

7 [閉じる] ボタンをクリックする

[TOSHIBA Recovery Disc Creator] 画面が閉じ、ディスクの作成を終了します。

リカバリディスクからリカバリをする操作手順については、「本章 3-②-2 リカバリディスクからリカバリをする」を参照してください。

ヘルプの起動

- 1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [リカバリディスク作成ツールヘルプ] をクリックする

3 リカバリをする

本製品にプレインストールされているリカバリ（再セットアップ）ツールを使ってWindows やアプリケーションを復元する方法について説明します。

本製品のリカバリは、ユーザ権限に関わらず、誰でも実行できます。誤って他の人にリカバリを実行されないよう、ユーザパスワードを設定しておくことをおすすめします。

 ユーザパスワード「6章 4-① ユーザパスワード」

1) いくつかあるリカバリ方法

リカバリには、次の方法があります。

- ハードディスクドライブからリカバリをする
- 作成したリカバリディスクからリカバリをする

通常は、ハードディスクからリカバリをしてください。ハードディスクのリカバリツール（システムを復元するためのもの）を消してしまったり、ハードディスクからリカバリができなかった場合などは、リカバリディスクからリカバリをすることをおすすめします。

リカバリディスクからリカバリをする場合は、「本章 2 リカバリディスクを作る」を確認して、リカバリディスクを用意してください。

2) リカバリをする

1 ハードディスクからリカバリをする

次のメニューのなかからリカバリ方法を選択することができます。あらかじめリカバリ方法を決めておくとスムーズに操作できます。

■ ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり） ■

ハードディスクをパソコンを購入したときの状態（パーティションが1個の状態）に戻し、購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。

購入後に作成したデータや設定などはすべて消去されます。

■ パーティションサイズを変更せずに復元<推奨> ■

パーティションサイズを変更して使用していた場合、そのパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。Cドライブに保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータや設定は、そのまま残ります。ただし、BIOS 情報やコンピュータウイルスなどの影響でデータが壊れている場合、Cドライブ以外の領域にあるデータも使えないことがあります。

■ パーティションサイズを指定して復元 ■

Cドライブ（ハードディスク）のサイズを指定して復元することができます。Cドライブ以外のハードディスクの領域は1つの領域になり、データや設定などはすべて消去されます。

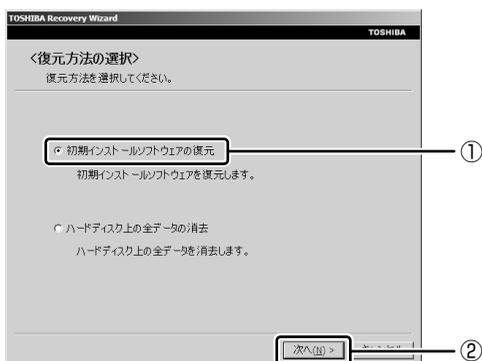
メモ

どのメニューを選択しても、Cドライブにはリカバリツールから購入時と同じシステムが復元されます。

ここでは、「パーティションサイズを変更せずに復元」する方法を例にして説明します。

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 ACアダプタと電源コードを接続する
- 3 キーボードの⓪（ゼロ）キーを押しながら、パソコンの電源を入れる
ユーザパスワードを設定している場合は、「Password=」と表示されます。
ユーザパスワードを入力して⓪（ENTER）キーを押してください。
メッセージが表示されます。
- 4 画面の内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする
[復元方法の選択] 画面が表示されます。

5 【初期インストールソフトウェアの復元】をチェックし①、【次へ】ボタンをクリックする②

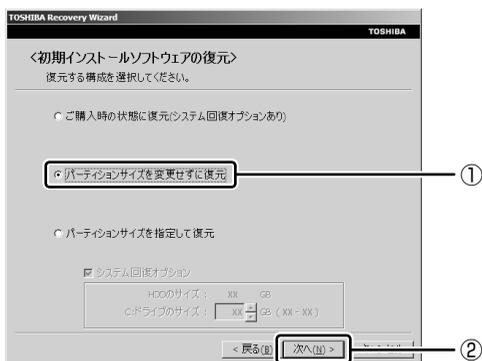


【ハードディスク上の全データの消去】は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、ハードディスクのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上にある、リカバリツールの領域以外のすべてのデータが削除されます。

参照 → ハードディスクの消去について

「9章 3-②-4 ハードディスクの内容をすべて消去する」

6 【パーティションサイズを変更せずに復元】をチェックし①、【次へ】ボタンをクリックする②



[パーティションサイズを変更せずに復元] とは、[パーティションサイズを指定して復元] を使って、すでにハードディスクの領域を分割している場合などに使用します。C ドライブがリカバリされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

C ドライブにあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

他のメニューを選択した場合については、次のページを参照してください。

- [ご購入時の状態に復元 (システム回復オプションあり)] : P.204
- [パーティションサイズを指定して復元] : P.205

[先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。] というメッセージが表示されます。

メモ

[ご購入時の状態に復元 (システム回復オプションあり)] と [パーティションサイズを変更せずに復元] は、リカバリツールとシステム回復オプションの領域が確保されているため、ハードディスクの100%を使用することはできません。

7 [次へ] ボタンをクリックする

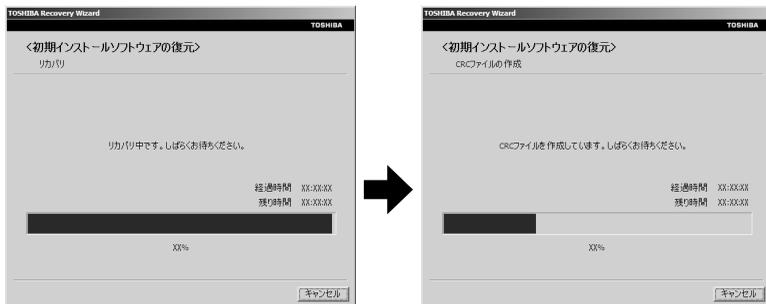
処理を中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

[次へ] ボタンをクリックすると、復元が実行され、[パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。] 画面が表示されます。



長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

復元中は、次の画面が表示されます。リカバリの経過に従い、画面が変わります。



復元が完了すると、終了画面が表示されます。

8 【終了】 ボタンをクリックする

システムが再起動し、[Windows のセットアップ] 画面が表示されます。

9 Windows のセットアップを行う

参照▶ 詳細について「1 章 2 Windows のセットアップ」

購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

参照▶ 周辺機器の接続「4 章 周辺機器の接続」

【初期インストールソフトウェアの復元】画面のリカバリメニューについて

「本項 ハードディスクからリカバリをする」の手順 6 の [初期インストールソフトウェアの復元] 画面で表示されるリカバリメニューの意味と動作は次のようになります。

● ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）

パソコンを購入したときの状態（パーティションが 1 個の状態）に戻します。作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

手順 6 の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

●パーティションサイズを指定して復元

ハードディスク（Cドライブ）のサイズを変更します。

Cドライブ以外の領域区分（パーティション）は消去され、1つの領域になります。その領域は「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。

[システム回復オプション] のチェックをはずしてリカバリを行うと、システム回復オプション領域は消去されます。その領域も、「ディスクの管理」から設定するとドライブとして使用できます。

▶ 参照 ディスクの管理

「本節 2-3 パーティションを設定してリカバリした場合は」

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

- ① [システム回復オプション] にチェックをする、またはチェックをはずす
- ② [C: ドライブのサイズ] でパーティション（Cドライブ）のサイズを指定する
- ③ [次へ] ボタンをクリックする

手順6の後には「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

2 リカバリディスクからリカバリをする

リカバリディスクのリカバリツールでは、次のメニューのなかからリカバリ方法を選択することができます。あらかじめリカバリ方法を決めておくとスムーズに操作できます。

■ ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり） ■

ハードディスクをパソコンを購入したときの状態（パーティションが1個の状態）に戻し、購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。

購入後に作成したデータや設定などはすべて消去されます。

■ パーティションサイズを変更せずに復元<推奨> ■

パーティションサイズを変更して使用していた場合、そのパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。Cドライブに保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータや設定は、そのまま残ります。

■ パーティションサイズを指定して復元 ■

Cドライブ（ハードディスク）のサイズを指定して復元することができます。Cドライブ以外のハードディスクの領域は1つの領域になり、データや設定などはすべて消去されます。

メモ

どのメニューを選択しても、Cドライブには購入時と同じシステムが復元されます。

あらかじめ、CD / DVD ドライブを接続してください。

1 ACアダプタと電源コードを接続する

2 リカバリディスクをセットして、パソコンの電源を切る

リカバリディスクが複数枚ある場合は、「ディスク1」からセットしてください。

3 キーボードの(F12)キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

ユーザパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面が表示されます。

ユーザパスワードを入力して(ENTER)キーを押してください。

4 (←)または(→)キーでCDのアイコンにカーソルを合わせ、(ENTER)キーを押す

[復元方法の選択] 画面が表示されます。

5 [TOSHIBA Recovery Wizard] をチェックし①、[次へ] ボタンをクリックする②



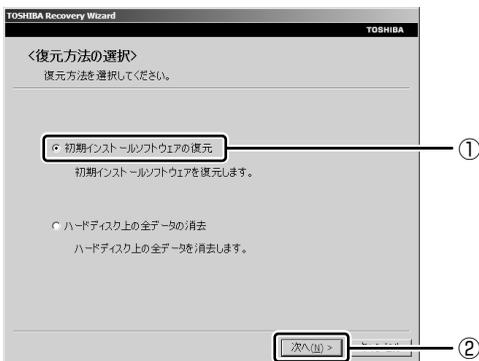
[システム回復オプション] には、パソコンを使用するうえでのさまざまなトラブルやデータ保護に対応したメニューが用意されています。詳細は、「付録 1-2 システム回復オプション」を参照してください。

メッセージ画面が表示されます。

6 画面の内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

2 枚目の [復元方法の選択] 画面が表示されます。

7 [初期インストールソフトウェアの復元] をチェックし①、[次へ] ボタンをクリックする②

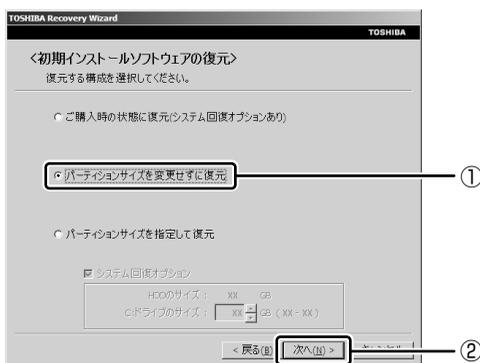


[ハードディスク上の全データの消去] は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、ハードディスクのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上にある、すべてのデータが削除されます。

参照▶ ハードディスクの消去について

「9章 3-②-4 ハードディスクの内容をすべて消去する」

8 [パーティションサイズを変更せずに復元] をチェックし①、[次へ] ボタンをクリックする②



[パーティションサイズを変更せずに復元] とは、「パーティションサイズを指定して復元」を使って、すでにハードディスクの領域を分割している場合などに使用します。Cドライブがリカバリされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

Cドライブにあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

他のメニューを選択した場合については、次のページを参照してください。

- [ご購入時の状態に復元 (システム回復オプションあり)] : P.210
- [パーティションサイズを指定して復元] : P.210

「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

メモ

[ご購入時の状態に復元 (システム回復オプションあり)] と [パーティションサイズを変更せずに復元] は、リカバリツールとシステム回復オプションの領域が確保されているため、ハードディスクの100%を使用することができません。

9 [次へ] ボタンをクリックする

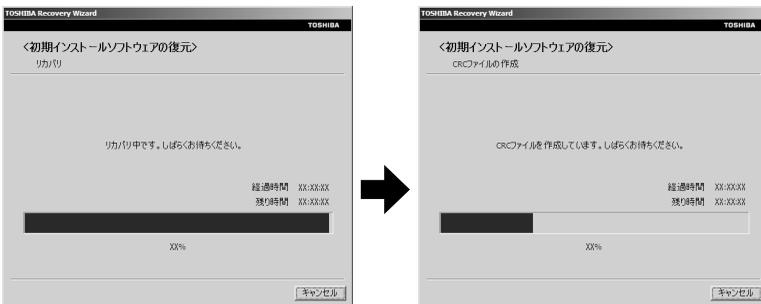
処理を中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

[次へ] ボタンをクリックすると、復元が実行され、[パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。]画面が表示されます。



長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

復元中は、次の画面が表示されます。リカバリの経過に従い、画面が変わります。



* 手順8で [ご購入時の状態に復元 (システム回復オプションあり)] を選択した場合は、最初に [コピーしています。] 画面が表示されます。長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

リカバリディスクが複数枚ある場合は、ディスクを入れ替えるメッセージが表示されます。ディスクの番号順に入れ替え、[OK] ボタンをクリックしてください。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

10 リカバリディスクを取り出し、パソコンから CD / DVD ドライブ を取りはずす

11 [終了] ボタンをクリックする

システムが再起動し、[Windows のセットアップ] 画面が表示されます。

12 Windows のセットアップを行う

 詳細について「1 章 2 Windows のセットアップ」

購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

 周辺機器の接続「4 章 周辺機器の接続」

【初期インストールソフトウェアの復元】画面のリカバリメニューについて

「本項 リカバリディスクからリカバリをする」の手順 8 の「初期インストールソフトウェアの復元」画面で表示されるリカバリメニューの意味と動作は次のようになります。

- **ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）**

パソコンを購入したときの状態（パーティションが 1 個の状態）に戻します。設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

手順 8 の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

- **パーティションサイズを指定して復元**

ハードディスク（C ドライブ）のサイズを変更します。

C ドライブ以外の領域区分（パーティション）とリカバリツールの領域は消去され、1 つの領域になります。その領域は「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。

[システム回復オプション] のチェックをはずしてリカバリを行うと、システム回復オプション領域は消去されます。その領域も、「ディスクの管理」から設定するとドライブとして使用できます。

 ディスクの管理

「本節 ②-3 パーティションを設定してリカバリした場合は」

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

- ① [システム回復オプション] にチェックをする、またはチェックをはずす
- ② [C : ドライブのサイズ] でパーティション (C ドライブ) のサイズを指定する
- ③ [次へ] ボタンをクリックする
手順8の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

ここまでで、購入時の状態の復元は完了です。パーティションの設定を変更してシステムを復元した場合のみ、次項 [3] の操作を行ってください。

3 パーティションを設定してリカバリした場合は

パーティションの設定を変更してリカバリをした場合は、リカバリ終了後すみやかに次の設定を行ってください。

お願い

Windowsの「ディスクの管理」を使用すると、ボリュームがないプライマリパーティションが表示されます。このパーティションにはリカバリ(再セットアップ)するためのデータが保存されていますので、削除しないでください。削除した場合、リカバリはできなくなります。

- 1 コンピュータの管理者になっているユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート] ボタン→ [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [システムとメンテナンス] → [管理ツール] をクリックする
- 4 [コンピュータの管理] をダブルクリックする
- 5 左画面の [ディスクの管理] をクリックする
設定していないパーティションは [未割り当て] と表示されます。
- 6 [ディスク0] の [未割り当て] の領域を右クリックする
- 7 表示されるメニューから [新しいシンプル ボリューム] をクリックする
[新しいシンプル ボリューム ウィザード] が起動します。

8 [次へ] ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する

次の項目を設定します。

- ・ ボリュームサイズ
- ・ ドライブ文字またはパスの割り当て
- ・ フォーマット
- ・ ファイルシステム
- ・ アロケーションユニットサイズ
- ・ ボリュームラベル

9 設定内容を確認し、[完了] ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

パーティションの状態が [正常] と表示されれば完了です。

詳細については「コンピュータの管理」のヘルプを参照してください。

■ ヘルプの起動 ■

- ① メニューバーから [ヘルプ] → [トピックの検索] をクリックする

4 アプリケーションを再インストールする

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、一度削除してしまっても、必要なアプリケーションやドライバを指定して再インストールすることができます。

アプリケーションによっては、再インストール時に ID 番号などが必要です。あらかじめ確認してから、再インストールすることを推奨します。

同じアプリケーションがすでにインストールされているときは、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行ってください。

アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記のどちらの方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。

1 操作手順

1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール] をクリックする

2 [セットアップ画面へ] をクリックする

アプリケーションやドライバのセットアップメニュー画面が表示されます。アプリケーションやドライバのセットアップメニューは、カテゴリごとのタブに分かれています。

初めて起動したときは、[ドライバ] タブが表示されています。タブをクリックして再インストールしたいアプリケーションを探してください。

画面左側にはアプリケーションの一覧が表示されています。

画面右側にはアプリケーションの説明が書かれていますので、よくお読みください。

3 画面左側のアプリケーション名を選択し、画面右側の「XXXのセットアップ」をクリックする

「XXX」にはアプリケーション名が入ります。選択したメニューによっては別の言葉が表示されます。

説明文の下の青い下線の引かれている言葉をクリックしてください。

4 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

[ファイルのダウンロード] 画面が表示された場合は、「実行」ボタンをクリックしてください。

9章

こんなときは

日常の取り扱いやお手入れ、保守や修理などアフターケアを行う保守サービスを利用するときについて。また、バッテリーパックの廃棄やパソコン本体の廃棄・譲渡を行う場合について知っておいて欲しいことなどを説明しています。

-
- 1 日常の取り扱いとお手入れ 216
 - 2 アフターケアについて 222
 - 3 廃棄・譲渡について 224

1 日常の取り扱いとお手入れ

⚠ 注意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜くこと
電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。

お願い

- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。
- 製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

日常の取り扱いでは、次のことを守ってください。

パソコン本体／ACアダプタ／電源コード

- 『安心してお使いいただくために』に、パソコン本体、ACアダプタ、電源コードを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。
- 機器の汚れは、柔らかくきれいな乾いた布などでふき取ってください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってからふきます。
中性洗剤、揮発性の有機溶剤（ベンジン、シンナーなど）、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。^{*1}
温度 5～35℃、湿度 20～80%
^{*1} 使用環境条件は、本製品の動作を保証する温湿度条件であり、性能を保証するものではありません。
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所
非常に高温または低温になる場所
急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）
強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）
ホコリの多い場所
振動の激しい場所
薬品の充満している場所
薬品に触れる場所

- 使用中に本体の底面や AC アダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたって AC コンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリをふき取ってください。

キーボード

乾いた柔らかい素材のきれいな布でふいてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってふきます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナーで取り除きます。ゴミが取れないときは、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスに相談してください。

飲み物など液体をこぼしたときは、ただちに電源を切り、AC アダプタとバッテリーパックを取りはずしてからお買い求めの販売店、または保守サービスに相談してください。

タッチパッド

乾いた柔らかい素材のきれいな布でふいてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯に浸した布を固くしぼってからふきます。

タブレットペン

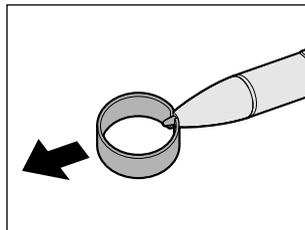
- ディスプレイの操作には付属のタブレットペンをご使用ください。
- 誤った使いかたをすると画面に傷がつくおそれがありますので、次のことを守ってください。
 - ・ 付属のタブレットペン以外（特に先端の鋭いもの）で画面を押さない
 - ・ 爪や、指輪などの金属が画面に触れないようにする
 - ・ 画面をむやみに強く押さない
- ペン先をディスプレイ上に強く押しつける、たたきつけるような使いかたをしないでください。また、タブレットペンを使用する前に芯が短くなっていないかをご確認ください。
- 湿度変化の激しい場所や直射日光の当たる車の中での使用、保管はお避けください。また、スイッチに荷重を加え続けると、誤動作したり特性劣化につながりますので、スイッチに荷重が加わらないように保管してください。
- タブレットペンは精密部品によって構成されています。強い衝撃が加わると誤動作したり特性劣化につながりますので、落下などしないように取り扱いにご注意ください。

- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くで使用しないでください。
- ペン先およびペンボタンに必要以上の荷重を加えると寿命が短くなったり特性劣化につながりますので、無理な力を加えないでください。
(ペン先、テールスイッチ、ペンボタンそれぞれ 1kg : 30 秒以下)
- タブレットペン内部に水が入ったり、結露させると、誤動作の原因となりますのでご注意ください。
- 調整がずれたり、寿命が縮まる可能性がありますのでタブレットペンを分解しないでください。
- 化粧品や薬品がタブレットペンに付くと、外観や品質の劣化につながりますのでご注意ください。お手入れの際はアルコール、シンナー、ベンジンなど揮発性の液体は避け、シリコンクロスや乾いた布を使用してください。
- 曲がったり変形した芯を使いますとタブレットペンが誤動作することがありますので、芯に無理な力を加えたり曲げたりしないでください。
- 芯や芯抜きなどの小さな部品が、幼児などの口に入らないようご注意ください。
- 不特定多数のユーザが使用するなど、上記内容を管理できないような環境で使用されて品質問題が発生した場合は、弊社としては責任を負いかねます。
- 芯先端部の丸みがなくなってきたら、付属の芯抜きか毛抜きのようなもので芯を抜いて交換してください。

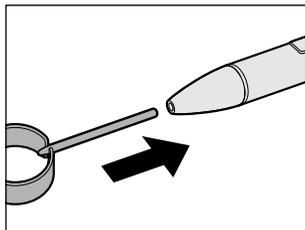
芯がすり減って短くなり過ぎると、引き抜くのが難しくなります。

芯が短くなり過ぎないうちに交換してください。

- ① 芯の先を芯抜きの丸いくぼみに合わせ、芯抜きではさむ
- ② 芯抜きを矢印の方向にまっすぐ引く



- ③ 替え芯を、丸くなっている方がペン先から外に出るような向きで、タブレットペンにまっすぐ挿入する



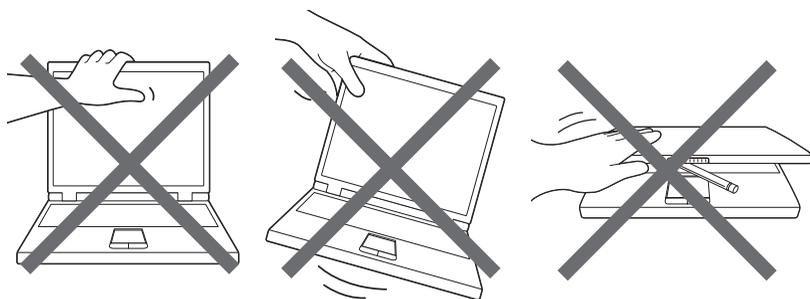
- タブレットペン、替え芯は消耗品です。
タブレットペンを破損した場合、替え芯を使い切った場合は別売りのタブレットペンをご購入ください。

液晶ディスプレイ

【液晶ディスプレイの取り扱いについて】

液晶ディスプレイの破損や故障を防ぐために、次のことを必ず守ってください。

- 液晶ディスプレイ表面を押さないでください。
- 液晶ディスプレイ部分をつかんで持ち上げないでください。
- キーボード上にペン等、ものをはさんだ状態で液晶ディスプレイを閉じないでください。
- 液晶ディスプレイを開閉する際は片手でパームレストを押さえゆっくり開閉してください（無理な力を加えないでください）。



【画面のお手入れ】

- 表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で軽くふき取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐにふき取ってください。ふき取る際は、力を入れなくて軽く行ってください。

【残像防止について】

長時間同じ画面を表示したままにしていると、画面表示を変えたときに前の画面表示が残ることがあります。この現象を残像といいます。残像は、画面表示を変えることで徐々に解消されますが、あまり長時間同じ画面を表示すると画像が消えなくなりますので、同じ画面を長時間表示するような使いかたは避けてください。

また、次の機能を利用すると、残像防止ができます。

- スクリーン セーバーを設定する

 [スクリーン セーバーの設定『Windows ヘルプとサポート』](#)

- 「電源オプション」で「ディスプレイの電源を切る」を設定する

 [電源オプション『Windows ヘルプとサポート』](#)

【表示について】

TFT カラー液晶ディスプレイは非常に高度な技術を駆使して作られております。非点灯、常時点灯などの画素（ドット）が存在することがあります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは、「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」です）。また、見る角度や温度変化によって色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

指紋センサ

指紋センサ表面が汚れている場合には、認識率が低下する可能性があります。眼鏡ふき（クリーナークロス）などのきれいな柔らかい布で軽くふき取ってからお使いください。

指紋センサ表面を強くこすらないでください。また、洗剤などは使用しないでください。故障するおそれがあります。

データのバックアップについて

重要な内容は必ず、定期的にバックアップをとって保存してください。

バックアップとはハードディスクやソフトウェアの故障などでファイルが使用できなくなったときのために、あらかじめファイルをフロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどにコピーしておくことです。

本製品は次のような場合、スリープまたは休止状態が無効になり、保存していないデータは消失します。

- 誤った使いかたをしたとき
- 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- 長時間使っていなかったために、バッテリー（バッテリーパック、セカンドバッテリーパック、時計用バッテリー）の充電量がなくなったとき
- 故障、修理、バッテリー交換のとき
- バッテリー駆動で使用しているとときにバッテリーパックを取りはずしたとき
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

記憶内容の変化／消失など、ハードディスクやフロッピーディスクなどに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

デフラグ（ディスクの最適化）について

デフラグとは、ハードディスクにあるファイルを先頭から再配置して、ファイルの分割状態を解消し、連続した空き容量を増やす作業のことです。

このパソコンでは「ディスク デフラグ ツール」を使用して、ハードディスクにある断片化されたファイルやフォルダ、ハードディスクの空き容量を整理統合して、より効率的にファイルやフォルダにアクセスしたり、新しく作成するファイルやフォルダを断片化されないように保存することができます。

【「ディスク デフラグ ツール」の起動方法】

- 1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システム ツール] → [ディスク デフラグ ツール] をクリックする

「ディスク デフラグ ツール」の使いかたについては、『Windows ヘルプとサポート』を確認してください。

2 アフターケアについて

保守サービスについて

保守サービスへの相談は、『サポートガイド』を確認してください。

保守・修理後はパソコン内のデータはすべて消去されます。

保守・修理に出す前に、作成したデータの他に次のデータのバックアップをとってください。

- メール
- リカバリ（再セットアップ）ツール
- 自分で作成したデータ
- メールアドレス帳
- インターネットのお気に入り
- TPM 内部のデータ など

有寿命部品について

本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境（温湿度など）等の条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日に約8時間、1ヵ月で25日のご使用で約5年です。上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。なお、24時間を超えるような長時間連続使用等、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内でも部品交換（有料）が必要となります。

【対象品名】

本体液晶ディスプレイ*¹、ハードディスクユニット、CD/DVDドライブ*²、フロッピーディスクドライブ*²、キーボード、タッチパッド、マウス*³、冷却用ファン、ディスプレイ開閉部（ヒンジ）*⁴、ACアダプタ

- * 1 工場出荷時から画面の明るさが半減するまでの期間
- * 2 それぞれ内蔵されているモデルが対象です
- * 3 付属されているモデルが対象です
- * 4 液晶ディスプレイを開いたときに固定するための内部部品です

社団法人 電子情報技術産業協会

「パソコンの有寿命部品の表記に関するガイドライン」について

<http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/0503parts/index.html>

消耗品について

【 バッテリーパック 】

バッテリーパック（充電式リチウムイオン電池）は消耗品です。

長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。

充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリーパックと交換してください。

【 タブレットペン 】

付属のタブレットペンを破損した場合、または替え芯を使い切った場合は別売りのタブレットペンと交換してください。

消耗品については、営業担当にお問い合わせください。

保守部品（補修用性能部品）の最低保有期間

保守部品（補修用性能部品）とは、本製品の機能を維持するために必要な部品です。

本製品の保守部品の最低保有期間は、製品発表月から6年6ヵ月です。

3 廃棄・譲渡について

1) バッテリーパックについて

貴重な資源を守るために、不要になったバッテリーパックは廃棄しないで、充電式電池リサイクル協力店へ持ち込んでください。
その場合、ショート防止のため電極にセロハンテープなどの絶縁テープをはってください。



Li-ion

【バッテリーパック(充電式電池)の回収、リサイクルについてのお問い合わせ先】

有限責任中間法人 JBRC
TEL : 03-6403-5673
URL : <http://www.jbrc.com>

2) パソコン本体について

本製品を廃棄するときは、家庭と企業では廃棄方法が異なります。以下の要領にて処理してください。

1 企業でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を廃棄するときは、産業廃棄物として扱われます。
東芝は、廃棄品の回収と適切な再使用・再利用処理を実施しております。
PC リサイクルマーク表示のある東芝製パソコンを産業廃棄物として回収・処理を行う場合の費用については、東芝パソコンリサイクルセンターにお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

東芝パソコンリサイクルセンター
TEL : 045-510-0255
受付時間 : 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日、当社指定の休日を除く)
FAX : 045-506-7983 (24 時間受付)

【東芝ホームページでご紹介】

URL : <http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm>

2 家庭でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を廃棄するときは、東芝の家庭系使用済みパソコン回収受付窓口へお申し込みください。

東芝は、PC リサイクルマークが表示されている東芝製パソコンは無料で回収と適切な再資源化処理を実施します。

【パソコン回収受付窓口】

東芝 dynabook リサイクルセンタ

【回収申込方法】

- 東芝ホームページよりお申し込みの場合
ホームページ： <http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm>（24 時間受付）
- 電話にてお申し込みの場合
東芝 dynabook リサイクルセンタ
TEL : 043-303-0200
受付時間： 10:00～17:00（土・日・祝日、当社指定の休日を除く）
FAX : 043-303-0202（24 時間受付）

【回収・再資源化対象機器】

ノートパソコン、デスクトップパソコン（本体）、液晶ディスプレイ／液晶一体型パソコン、ブラウン管（CRT）ディスプレイ／ブラウン管（CRT）一体型パソコン

- * 出荷時に付属されていた標準添付品（マウス、キーボード、スピーカ、ケーブルなど）が同時に排出された場合は、パソコンの付属品として併せて回収します。ただし、周辺機器（プリンタ他）、マニュアル、CD-ROM などの媒体は回収の対象外です。

3 パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに使われているハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスクに書き込まれたデータを消去するのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ◆ データを「ごみ箱」に捨てる
- ◆ 「削除」操作を行う
- ◆ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ◆ ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ◆ 再セットアップ（リカバリ）を行い、購入時の状態に戻す

などの作業ををすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク上に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータは見えなくなっているという状態なのです。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、実際のデータは、まだ残っているのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク内の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることをおすすめします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

本製品には、パソコン上のデータを消去する機能があります。

 参照 「本項 4 ハードディスクの内容をすべて消去する」

この機能は、WindowsなどのOSによるデータの消去や初期化とは違い、ハードディスクの全領域（*）にデータを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、本機能を使用してデータを消去した場合でも、特殊な装置の使用によりデータを復元される可能性はゼロではありませんので、あらかじめご了承ください。

データ消去については、次のホームページも参照してください。

URL : <http://dynabook.com/pc/eco/haiki.htm>

4 ハードディスクの内容をすべて消去する

パソコン上のデータは、削除操作をしても実際には残っています。普通の操作では読み取れないようになっていますが、特殊な方法を実行すると削除したデータでも再現できてしまいます。そのようなことができないように、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、他人に見られたくないデータを読み取れないように、消去することができます。

なお、ハードディスクに保存されている、これまでに作成したデータやプログラムなどはすべて消失します。これらを復元することはできませんので、注意してください。

操作手順

ハードディスクの内容を削除するには、次の方法があります。

- ハードディスクのリカバリツールを使用する
- 作成したリカバリディスクを使用する

ハードディスクのリカバリツールを使用すると、ハードディスク内のデータはすべて消去されますが、リカバリツールは残ります。

作成したリカバリディスクを使用すると、ハードディスク内のデータと共にリカバリツールも消去されます。

ここでは、ハードディスクのリカバリツールから行う方法を例にして説明します。リカバリディスクから行う場合は、手順 1 の前に CD / DVD ドライブを接続し、リカバリディスク（ディスク 1）をセットしてください。

1 パソコンの電源を切る

2 AC アダプタと電源コードを接続する

- #### 3 キーボードの **⓪**（ゼロ）キーを押しながら、パソコンの電源を入れる
- ユーザパスワードを設定している場合は、
「Password = 」と表示されます。ユーザパスワードを入力して、
(ENTER)キーを押してください。

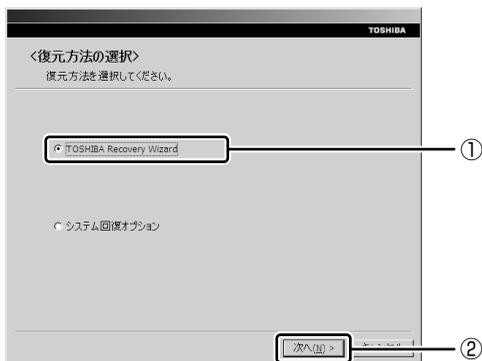
【リカバリディスクをセットしている場合】

キーボードの **(F12)** キーを押しながら、パソコンの電源を入れます。

その後、**(→)**または**(←)**キーでCDのアイコンにカーソルを合わせ、**(ENTER)**キーを押してください。

[復元方法の選択] 画面が表示されます。

[TOSHIBA Recovery Wizard] をチェックし①、[次へ] ボタンをクリック②してください。



[システム回復オプション] を選択すると、Windows のシステム回復オプションメニューが表示されます。

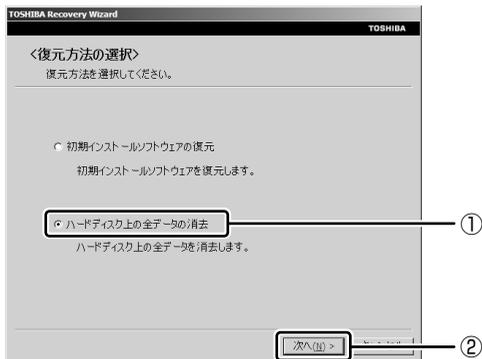
詳細は、「付録 1-2 システム回復オプション」を参照してください。

メッセージ画面が表示されます。

4 画面の内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

[復元方法の選択] 画面が表示されます。

5 [ハードディスク上の全データの消去] をチェックし①、[次へ] ボタンをクリックする②



消去方法を選択する画面が表示されます。

6 目的に合わせて、[標準データの消去] または [機密データの消去] をチェック①、[次へ] ボタンをクリックする②

通常は [標準データの消去] を選択してください。データを読み取れなくなります。

より確実にデータを消去するためには、[機密データの消去] を選択してください。

数時間かかりますが、データは消去されます。



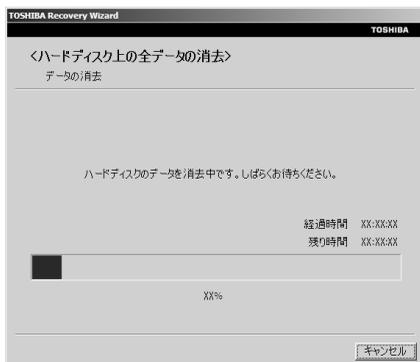
[ハードディスクの内容は、すべて消去されます。] 画面が表示されます。

7 [次へ] ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

[次へ] ボタンをクリックすると、消去が実行されます。

消去中は、次の画面が表示されます。



消去が完了すると、終了画面が表示されます。

8 [終了] ボタンをクリックする

リカバリディスクから行った場合は、リカバリディスクを取り出し、パソコンから CD / DVD ドライブを取りはずしてから、[終了] ボタンをクリックしてください。

TPM の内容を消去する

TPM を使用している場合、ハードディスクドライブだけでなく、TPM 内部のデータを削除する必要があります。登録情報など、セキュリティに関する重要な情報が含まれているため、必ずデータを削除してください。

 参照 ▶ TPM 『Trusted Platform Module 取扱説明書』

付録

本製品について、各インタフェースなどのハードウェア仕様や、技術基準適合について記しています。

-
- 1 本製品の仕様 232
 - 2 無線LANについて 235
 - 3 Bluetoothについて 241
 - 4 各インタフェースの仕様 247
 - 5 技術基準適合について 249

1 本製品の仕様

仕様についての詳細は、別紙の『PORTÉGÉ R400 シリーズ製品仕様表』を参照してください。

1 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/O ポートマップ、IRQ 使用リソース、DMA 使用リソースは次の方法で確認できます。

使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システム ツール] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェア リソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする
メモリマップ : [メモリ]
I/O ポートマップ : [I/O]
IRQ 使用リソース : [IRQ]
DMA 使用リソース : [DMA]

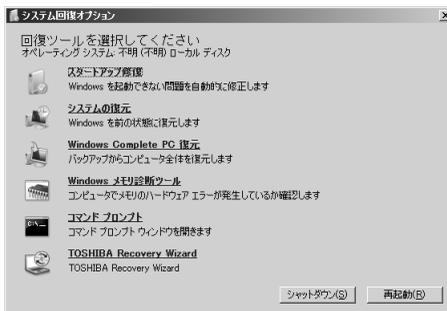
2 システム回復オプション

本製品には、システムに重大なエラーが発生して起動できないような場合、起動環境の復元などを行うことができる「システム回復オプション」がインストールされています。

操作方法

- 1 電源を入れる
- 2 [TOSHIBA] 画面が表示されている間に、**(F8)** キーを数回連打する
しばらくすると「詳細ブートオプション」が表示されます。
(F8) キーを押すタイミングにより、「詳細ブートオプション」が表示されない場合があります。その場合は、再度電源を入れ直して手順 2 を実行してください。
ユーザパスワードを設定している場合は、「Password=」と表示されます。
ユーザパスワードを入力して **(ENTER)** キーを押してください。

- 3 [コンピュータの修復] を選択し、**(ENTER)** キーを押す
キーボードの選択画面が表示されます。
- 4 [日本語] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする
ログイン画面が表示されます。
- 5 ユーザ名を選択し、Windows ログオンパスワードを入力する
- 6 [OK] ボタンをクリックする
「システム回復オプション」が起動します。
- 7 使いたいメニュー名をクリックする



「TOSHIBA Recovery Wizard」を選択すると、リカバリ（再セットアップ）メニューを表示します。リカバリ方法については、「8章 リカバリをする」を確認してください。

そのほかのメニューの使用方法は、『Windows ヘルプとサポート』を検索し、確認してください。

この後の操作は、メニューによって異なります。表示された画面の指示に従って操作してください。

【「システム回復オプション」が起動できない場合】

リカバリをした際、[パーティションサイズを指定して復元] を選択し、[システム回復オプション] のチェックをはずした場合は、この手順では「システム回復オプション」を起動できません。

リカバリディスクを作成している場合は、リカバリディスクから「システム回復オプション」を起動することができます。

- 1 ACアダプタと電源コードを接続する
- 2 CD / DVD ドライブを接続し、リカバリディスクをセットする
リカバリディスクが複数枚ある場合は、「ディスク 1」からセットしてください。
- 3 キーボードの(F12)キーを押しながら、パソコンの電源を入れる
ユーザパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面が表示されます。
ユーザパスワードを入力して(ENTER)キーを押してください。
- 4 (→)または(←)キーでCDのアイコンにカーソルを合わせ、(ENTER)キーを押す
[復元方法の選択] 画面が表示されます。
- 5 [システム回復オプション] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする
キーボードの選択画面が表示されます。
- 6 「日本語」を選択し、[次へ] ボタンをクリックする
オペレーティングシステム選択画面が表示されます。
- 7 「Microsoft Windows Vista」を選択し、[次へ] ボタンをクリックする
「システム回復オプション」が起動します。

リカバリディスクがない場合は、ハードディスクドライブから [ご購入時の状態に復元 (システム回復オプションあり)] を選択してリカバリをすると、[詳細ブートオプション] → [コンピュータの修復] から「システム回復オプション」を起動できます。

2 無線 LAN について

1 無線特性

無線 LAN の無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は国／地域によって使用が規制されています。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない5GHz 帯および2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

本製品の無線 LAN 機能が使用できる国／地域については、付属の『無線 LAN ご使用できる国／地域について』を確認してください。

IEEE802.11a は、屋内でのみ使用できます。

無線周波数帯	IEEE802.11a	5GHz (5150-5350MHz)
	IEEE802.11g, IEEE802.11b	2.4GHz (2400-2497MHz)
変調方式	IEEE802.11a, IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

2 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 5GHz 帯および 2.4GHz 帯のチャンネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャンネルセット」参照）。

本製品の無線 LAN 機能が使用できる国／地域については、付属の『無線 LAN ご使用できる国／地域について』を確認してください。

【 無線 IEEE802.11 チャンネルセット 】

● IEEE802.11a (5GHz) の場合

周波数帯域		5150-5350 MHz
	チャンネルID	
J52	34	5170
	38	5190
	42	5210
	46	5230
W52	36	5180
	40	5200
	44	5220
	48	5240
W53	52	5260
	56	5280
	60	5300
	64	5320

J52 : 従来の Ch34 (5170MHz)、Ch38 (5190MHz)、Ch42 (5210MHz)、Ch46 (5230MHz) に対応する場合

W52 : 新たに規定された Ch36 (5180MHz)、Ch40 (5200MHz)、Ch44 (5220MHz)、Ch48 (5240MHz) に対応する場合

W53 : 新たに規定された Ch52 (5260MHz)、Ch56 (5280MHz)、Ch60 (5300MHz)、Ch64 (5320MHz) に対応する場合

アクセスポイント側のチャンネル (J52/W52/W53) に合わせて、そのチャンネルに自動的に設定されます。

- IEEE802.11b/IEEE802.11g (2.4GHz) の場合

周波数帯域	2400-2497 MHz
チャンネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 *1
11	2462
12	2467
13	2472

* 1 購入時、アドホックモード接続時に使用するチャンネルとして設定されているチャンネルです。

無線 LAN をインストールする場合、チャンネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャンネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャンネルを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャンネルもこの範囲にする必要があります。

3 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は 2,400MHz～2,483.5MHz です。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯 2,427MHz～2,470.75MHz と重複しています。

【 1. ステッカー 】

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーをパソコン本体にはり付けてください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、『サポートガイド』に記載のお問い合わせ先に連絡してください。

【 2. 現品表示 】

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。

(1) (2) (3)



(4)

- (1) 2.4 : 2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。
- (2) DS : 変調方式が DS-SS 方式であることを示す。
OF : 変調方式が OFDM 方式であることを示す。
- (3) 4 : 想定される与干渉距離が 40m 以下であることを示す。
- (4) ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHz の全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【 3. お問い合わせ先 】

『サポートガイド』に記載のお問い合わせ先に連絡してください。

4 機器認証表示について

本製品は、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局の端末設備として、技術基準適合認証を受けております。

無線設備名：WM3945ABG

株式会社 ディーエスピーリサーチ

認証番号：D05-0082003

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

Intel(R) PRO/Wireless 3945ABG Network Connection 製品は、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) / Orthogonal Frequency Division Multiplexing (OFDM) 無線技術を使用するあらゆる無線 LAN 製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers (米国電気電子技術者協会) 策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision A/B/G) (無線 LAN 標準規格(版数 A/B/G))
- Wi-Fi Alliance の定義する Wireless Fidelity (Wi-Fi) 認証

【健康への影響】

Intel(R) PRO/Wireless 3945ABG Network Connection 製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Intel(R) PRO/Wireless 3945ABG Network Connection 製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Wireless LAN の使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【 規制に関する情報 】

Intel(R) PRO/Wireless 3945ABG Network Connection 製品のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。

3 Bluetooth について

1 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver.2.0+EDR
	無線周波数帯	2.4GHz (2402~2480MHz)
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK
	出力*1	最大+4dBm (Power Class2)
	受信感度*1	-70dBm
	通信距離	見通し10m*2
電源電圧	3.3V	
消費電流	最大200mA	

* 1 アンテナの効率は含まれません。

* 2 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

2 無線特性

Bluetooth モジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は国/地域によって使用が規制されています。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国/地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

本製品のBluetooth 通信機能が使用できる国/地域については、付属の『ご使用できる国/地域について』を確認してください。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る" 障害物" がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 Bluetooth™東芝製モジュールを日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は 2,400MHz～2,483.5MHz です。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯 2,427MHz～2,470.75MHz と重複しています。

【 1. ステッカー 】

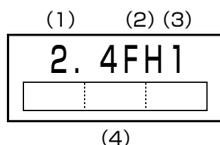
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーをパソコン本体にはり付けてください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、『サポートガイド』に記載のお問い合わせ先に連絡してください。

【 2. 現品表示 】

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。
- (2) FH : 変調方式が FH-SS 方式であることを示す。
- (3) 1 : 想定される与干渉距離が 10m 以下であることを示す。
- (4)  : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【 3. お問い合わせ先 】

『サポートガイド』に記載のお問い合わせ先に連絡してください。

4 機器認証表示について

本製品は、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局の端末設備として、技術基準適合認証を受けております。

無線設備名：EYXF3CS

財団法人 電気通信端末機器審査協会

認証番号：D05-0084001

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

Bluetooth™ 東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum (FHSS) 無線技術を使用するあらゆる Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group 策定の Bluetooth Specification Ver.2.0+EDR
- Bluetooth Special interest Group の定義する Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーの Logo 認証

メモ

本製品はすべてのBluetooth™ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。ご使用にあたっては、Bluetooth™ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

- (1) 本製品は Bluetooth™ Version 2.0+EDR 仕様に準拠しております。
Bluetooth™ Version 1.0B 仕様の Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
- (2) 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。
- (3) Bluetooth™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

【健康への影響】

Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Bluetooth™ 東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中で Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

Regulatory statements

● General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/ Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

● European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L 'utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.

If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Bluetooth™ Card from TOSHIBA, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA. The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Bluetooth has been tested with Wireless LAN transceiver for co-location requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada’s website www.hc-sc.gc.ca/rpb.

● **Taiwan**

Article 12 Without permission granted by the DGT, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to a approved low power radio-frequency devices.

Article 14 The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications; If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.

The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.

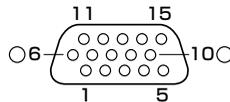
The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

4 各インタフェースの仕様

1 RGBインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	0
2	CGV	緑色ビデオ信号	0
3	CBV	青色ビデオ信号	0
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	+5V	電源	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	0
14	-CVSYNC	垂直同期信号	0
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O

コネクタ図



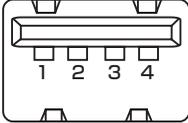
高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

2 USBインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グラウンド	

コネクタ図

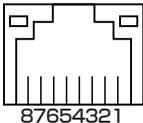


信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
信号方向 (I)：パソコン本体への入力
信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

3 LANインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TX	送信データ (+)	O
2	-TX	送信データ (-)	O
3	RX	受信データ (+)	I
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ (-)	I
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	

コネクタ図



信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
信号方向 (I)：パソコン本体への入力
信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

5 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

 「7章 1 その他 - Q. パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

高調波対策について

（社）電子情報技術産業協会情報処理機器
高調波電流抑制対策実行計画に基づく定格入力電力値：72W

FCC information

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, USB connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, this product conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and/or the R&TTE Directive 1999/5/EC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.